

令和 7 年度

履修の手引き



西宮市医師会看護専門学校
(看護科 29 期生)

目 次

I. 教育理念.....	1
II. 教育目的.....	1
III. ディプロマポリシー	1
IV. カリキュラムポリシー.....	1
V. アドミッションポリシー.....	1
VI. 教育課程の構造図	2
VII. カリキュラムマップ	3
VIII. 3 年間の計画表	4
IX. カリキュラムアセスメント【ルーブリック評価】	5
X. 教育計画表.....	6
XI. 教科外活動.....	8
XII. 職員名簿.....	9
XIII. 各授業科目の授業内容.....	10
人と暮らし	
人と倫理	10
人と健康	15
人と社会	31
看護の実践	
疾病の回復と看護	38
看護を考える	48
看護を実践する	72
看護と連携	96
看護の創造	
看護とリフレクション	103
看護の探求と自己の成長	106
使用テキスト一覧	111
評価計画	114

I. 教育理念

生命や個人の尊厳をまもり、地域に暮らす人々の健康や状況に応じ創造的に看護を実践できる人材を育成する。

II. 教育目的

豊かな人間性を培い、看護実践における知識と技術を教授し、地域における保健・医療・福祉に貢献しうる基礎的能力を有する看護師の育成を目的とする。

III. ディプロマポリシー

- 1) 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力
- 2) 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力
- 3) 保健・医療・福祉チームの一員として様々な場で多職種と協働する力
- 4) 自己を客観視し変化を前向きに捉え、学び続ける力

IV. カリキュラムポリシー

- 1) 人間と生命への尊厳を大切にし、様々な人々と協働しながら看護が実践できる能力を育成することを主軸に置き、カリキュラムを構築する。そのため人の理解を深める『人と暮らし』、看護実践力を培う『看護の実践』、様々な人々と協働する力を高める『協働する力』、看護を創造する力を育む『看護の創造』の4分野に分類し科目を設定した。
- 2) 知識を得るだけでなく、学生自身の体験から学びを深め、知識、技術、態度を統合し看護実践につなげられるよう科目を配置した。
- 3) 生涯学び続ける姿勢を培うために、初年次からキャリア発達につながる科目を設定した。

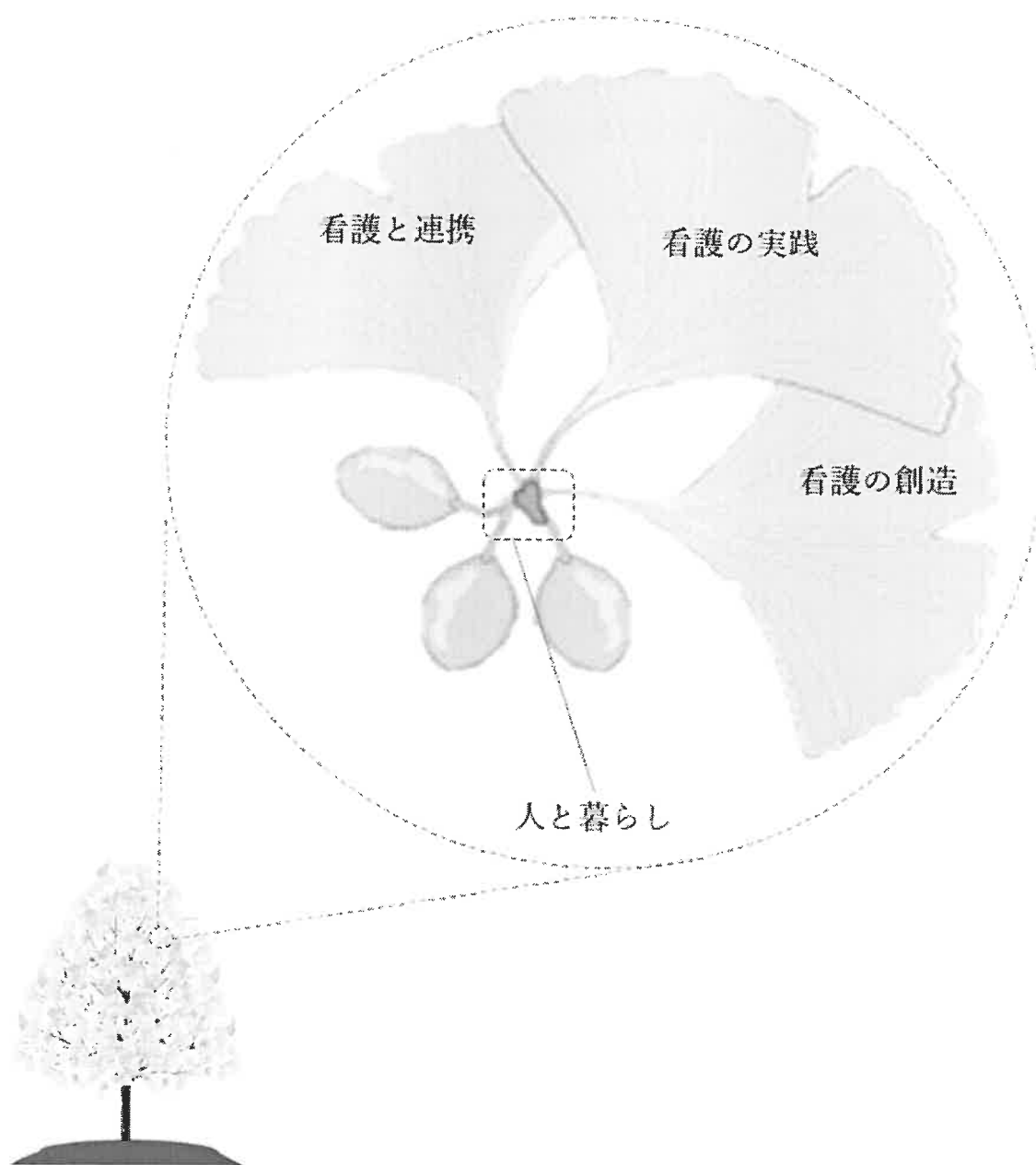
V. アドミッションポリシー

- 1) 人への関心や思いやりのある人
- 2) 気持ちよく挨拶のできる人
- 3) 自分の目標に向かってあきらめずに努力できる人
- 4) 人と人との関わりを大切にできる人
- 5) 感謝の気持ちを持てる人

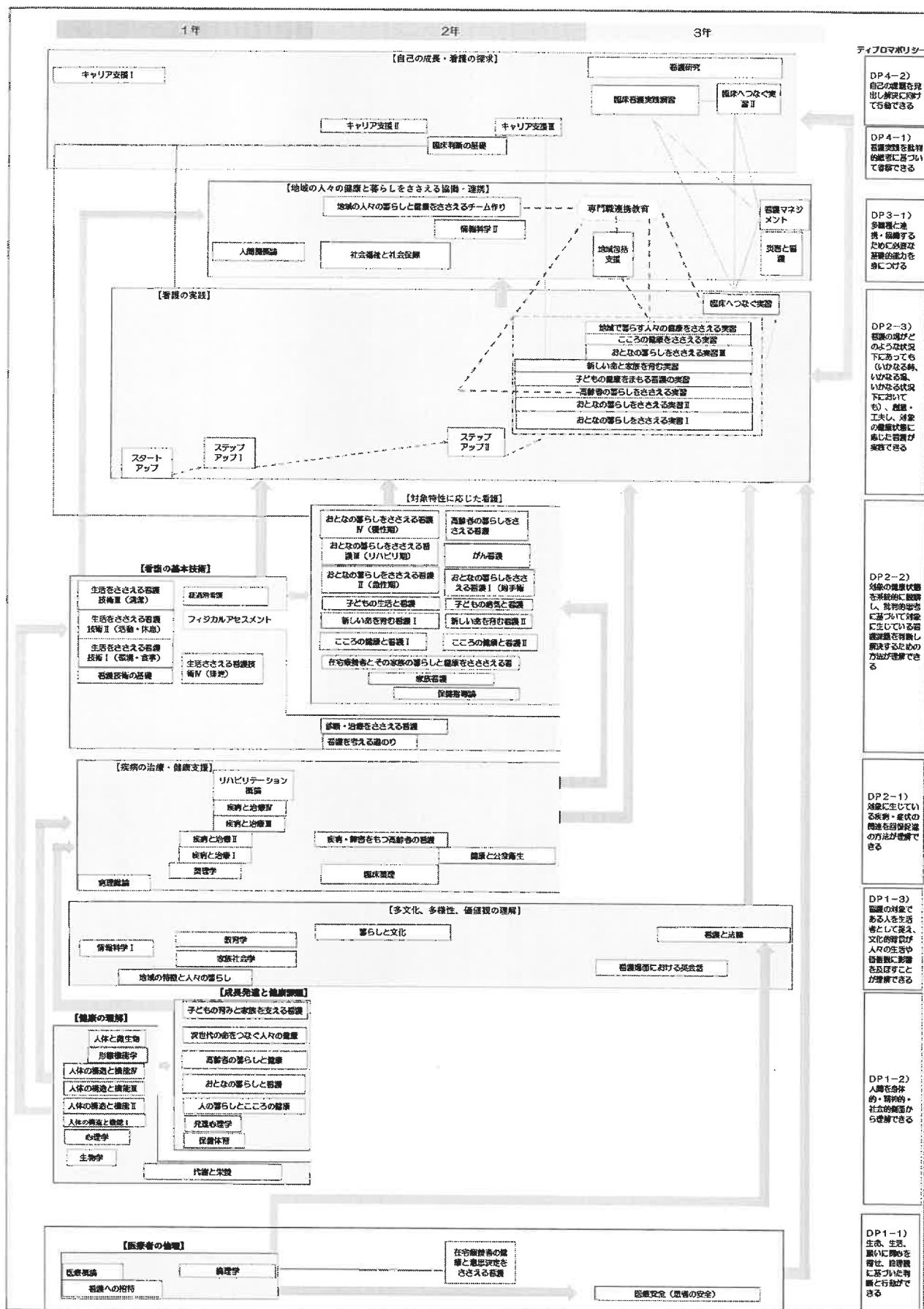
VI. 教育課程の構造図

ディプロマポリシーをもとに4つの分野を設定し、教育内容を精選し、教育課程を設定した。本校の前身である、西宮市医師会准看護婦養成所の開校当初、所在地近くにあった大きな銀杏の木をモチーフに校章が作られていたこともあり、銀杏の葉、実をイメージして教育課程の構造図を作成した。

銀杏の葉、それぞれが学生の中に看護をかたちづくっていく3つの分野「看護の実践」「看護と連携」「看護の創造」とし、葉を束ねる軸とそれにつながる葉脈部分を、人を理解し、倫理観を持って行動する人としての根底部分を育てる「人と暮らし」と考えた。銀杏が成長して黄金の実をつけるように、本校での学びをもって成長していく姿を表現した。



VII. カリキュラムマップ



VIII. 3年間の計画表

[illegible]

IX. カリキュラムアセスメント【ルーブリック評価】

ディプロマポリシー	観点	評価規準	評価基準				評価のエビデンスとなる資料
			レベル4 (すばらしい到達度)	レベル3 (目標到達)	レベル2 (やや課題あり)	レベル1 (努力を要す)	
1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 1) 生命、生活、願いに関心を寄せ、倫理観に基づいた判断と行動がとれる 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から統合して看護を実践する 3) 看護の対象である人を生活者として捉え、文化的背景が人々の生活や価値観に影響を及ぼすことが理解できる	知識・技能	対象を身体的・精神的・社会的・文化的側面から統合された存在として理解している	対象の身体的・精神的・社会的・文化的側面の理解のためには、どのような情報が必要かを理解し、それらを過不足なく収集することができ、得た情報を統合し、ひとりの人として理解している	対象の身体的・精神的・社会的・文化的側面の理解のためには、どのような情報が必要かを理解し、それらを概ね収集することができ、得た情報を統合し、ひとりの人として理解している	対象の身体的・精神的・社会的・文化的側面の理解のためには、どのような情報が必要かを理解しているが、収集する情報に不足があり、統合された、ひとりの人としての理解に不十分な面がある	対象の身体的・精神的・社会的・文化的側面の理解のためには、どのような情報が必要かを理解する必要があるが、情報収集が不十分であり、統合された、ひとりの人としての理解に不十分な面がある	・科目成績評価 ・実習評価 ・OSCE ・学生アンケート
	思考力・判断力・表現力	対象の多様性、価値観を受け入れ、一人ひとりの違いに寄り添いながら倫理的判断に基づいた看護を実践している	対象の多様性、価値観、願いを把握したうえで、倫理観に基づいて適切に判断し対象にとって最適な看護を実践している	対象の多様性、価値観、願いを把握したうえで、倫理観に基づいて適切に判断し対象に合わせた看護を考えた実践している	対象の多様性、価値観、願いを概ね理解し、倫理観に基づいて判断しているが、一般的な看護実践にとどまっている	対象の多様性、価値観、願いの理解と倫理観に基づく判断が不十分であり、一般的な看護実践に乏しい面がある	・実習場面 ・実習評価 ・学生アンケート
	主体的に学習に取り組む姿勢	対象を統合された存在として理解するために必要な学習を自主的に行い、その知識を活用している	対象理解に必要な既習の知識に加え、自主的に学習した内容を対象を統合された存在として理解するために有効に活用している。また学習内容の活用度を評価し、効果的な学習ができよう、自己調整している	対象理解に必要な既習の知識に加え、対象を統合された存在として理解するために自主的に学習した内容を活用している。また学習の活用度を評価し、学習不足がある場合は自己調整している	対象理解に必要な既習の知識は想起しているが、対象を統合された存在として理解するための自主的な学習に不十分な面がある。学習の活用度は考えられているが、効果的な学習をするための自己調整が不十分な面がある	対象理解に必要な既習の知識の想起に不足があり、対象を統合された存在として理解するための自主的な学習も不足している	・実習場面 ・実習評価 ・ポートフォリオ ・学生アンケート
2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を提供する力 1) 対象に生じている疾病・症状の関連と回復促進の方法が理解できる 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を解決するための方法が理解できる 3) 看護の場がどのような状況下にあるか（いかなる時、いかなる場、いかなる状況下においても）、創傷工夫し、対象の健康状態に応じた看護が実践できる	知識・技能	対象の健康状態を把握するための知識・技術を理解し、健康状態を把握するために活用している	対象に生じている疾病・症状の関連を考え、系統的に観察するための知識や方法を理解し、観察技術を活用し対象の健康状態を把握している	対象に生じている疾病・症状の関連を考え、系統的に観察するための知識や方法を理解し、観察技術を活用し対象の健康状態を理解している	対象に生じている疾病・症状の関連が理解不十分な面があり系統的に観察するための知識や方法は理解し観察技術を活用しているが、対象の健康状態の理解に不足がある	対象に生じている疾病・症状の関連が理解不十分な面があり系統的に観察するための知識や方法の理解も不足しているため観察技術の活用不足で対象の健康状態の理解ができない	・科目成績評価 ・実習評価 ・技術試験評価 ・OSCE ・学生アンケート
	思考力・判断力・表現力	科学的思考に基づいて看護課題を把握し、解決するために創意工夫している	批判的思考に基づき対象の看護課題を把握し、その解決のための方法を探索し対象の個別性に合った方法で看護実践し、対象の反応を基にリフレクションし新たに得た知識・技術を次の看護実践に活用している	批判的思考に基づき対象の看護課題を把握し、その解決のための方法を探索し対象の個別性に合った方法で看護実践し、対象の反応を基にリフレクションし新たに得た知識・技術があることを表現している	批判的思考に不十分な面があり対象の看護課題の把握が不足している。看護課題の解決方法を考え、その個別性に合った方法に不十分である。看護実践は対象の反応を基に評価しているが、思考の整理が不十分である	批判的思考が不十分で対象の看護課題の把握が不足している。看護課題の解決方法を考え、その個別性に合った方法に不十分である。看護実践は対象の反応を基に評価しているが、思考の整理が不十分である	・実習評価 ・シミュレーション学習 ・OSCE ・ポートフォリオ ・学生アンケート
	主体的に学習に取り組む姿勢	対象の健康状態に応じた看護を学習するために必要な知識と経験を活用し看護実践に結びつけようとしている	対象の健康状態に応じた看護を創意工夫し実践するために、学習や情報収集を自主的に行い、得た知識と経験を活用し適切な優れた看護を考えようとしている	対象の健康状態に応じた看護を創意工夫し実践するために、学習や情報収集を自主的に行い、得た知識と経験を活用し看護を考えようとしている	対象の健康状態に応じた看護を創意工夫し実践するために、学習や情報収集を行っているが不十分な面がある。そのため得た知識と経験を活用し看護を考えるには不足がある	対象の健康状態に応じた看護を創意工夫し実践するために必要な知識と経験が不足しており、得た知識と経験を活用し看護を考えるには不足がある	・実習場面 ・実習評価 ・ポートフォリオ ・学生アンケート
3. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種と協働する力 1) 多職種と連携・協働するために必要な基礎的能力を身につける	知識・技能	多職種や専門職間で連携するために必要な知識を理解し、人間関係構築や調整の基礎となるコミュニケーション技術が活用できる	他職種の専門性および役割と対象の支援に必要な社会保険制度について理解し活用している。また多職種や専門職間の円滑な人間関係構築や調整に必要なコミュニケーションが活かされる	他職種の専門性および役割と対象の支援に必要な社会保険制度について理解している。また多職種や専門職間の円滑な人間関係構築や調整に必要なコミュニケーションが活かされる	他職種の専門性および役割と対象の支援に必要な社会保険制度についての理解が不十分な面がある。また多職種や専門職間の円滑な人間関係構築や調整に必要なコミュニケーションに不十分がある	他職種の専門性および役割と対象の支援に必要な社会保険制度についての理解が不十分である。また多職種や専門職間の円滑な人間関係構築や調整に必要なコミュニケーションが不足している	・科目成績評価 ・実習評価 ・IPE合同演習場面 ・ポートフォリオ ・学生アンケート
	思考力・判断力・表現力	対象の願いに寄り添った支援をするために必要な情報を収集し、それを基にチーム間や多職種と連携・協働できる	対象の願いに寄り添った支援をするために必要な情報を収集し、必要に応じて連携を考慮し看護チーム間や関連部署および多職種と適切に連携・調整できる	対象の願いに寄り添った支援をするために必要な情報を収集し、必要に応じて連携を考慮し看護チーム間や関連部署および多職種と適切に連携・調整が必要であることを表現している	対象の願いに寄り添った支援を実施するために必要な情報収集に不十分があり、必要に応じて連携を考慮しているが看護チーム間の調整に不十分な面がある。また関連部署や多職種との連携・調整が必要であることを表現しているが不十分がある	対象の願いに寄り添った支援を実施するために必要な情報収集に不足があり、必要に応じて連携を考慮しているが看護チーム間の調整に不十分であり、また関連部署や多職種との連携・調整の必要性についても表現していない	・実習評価 ・ポートフォリオ ・学生アンケート
	主体的に学習に取り組む姿勢	対象の願いに寄り添った支援を行うために、社会情勢や変化をとらえ、対象が必要としている情報を積極的に発信するための学習を自主的に行っている	対象の願いや状況に応じた支援が行えるように、社会情勢や変化をとらえ、対象が必要としている情報を積極的に発信するための学習を自主的に行い、学習内容について評価をもとに自己調整している	対象の願いや状況に応じた支援が行えるように、社会情勢や変化をとらえ、対象が必要としている情報を積極的に発信するための学習を自主的に行い、不足時は追加学習している	対象の願いや状況に応じた支援を行うために必要な社会情勢や変化をとらえているが不十分な面があり、対象が必要としている情報を積極的に発信するための学習も不足があり、追加学習も不十分がある	対象の願いや状況に応じた支援を行うために必要な社会情勢や変化をとらえているが不十分な面があり、対象が必要としている情報を積極的に発信するための学習をしていない	・実習評価 ・ポートフォリオ ・学生アンケート
4. 自己を客観視し変化を前向きに捉え、学び続ける力 1) 看護実践を批判的思考に基づいて考察できる 2) 自己の課題を見出し解決に向けて行動できる	知識・技能	論理的思考ができるようになるための方法を理解し、トレーニングすることで論理的な思考や表現ができる	論理的思考ができるようになるための方法を理解したうえで、さまざまな機会を活用しトレーニングしており、物事の状態分析や要因分析が可能となり本質をとらえ、その状況での判断や結果、影響を考察し、自己の考え方の特徴について気づきや理論を活用し、意味づけができ、経験からの課題を明確にしている。そのうえで自分に必要な学習課題、目標達成のための具体的な方法を表現している	論理的思考ができるようになるための方法を理解したうえで、機会があるときはトレーニングしており、物事の状態分析や要因分析が可能となり本質をとらえ、その状況での判断や結果、影響を考察し、自己の考え方の特徴について気づきや理論を活用し、意味づけができ、経験からの課題を明確にしている。そのうえで自分に必要な学習課題、目標達成のための具体的な方法を表現している	論理的思考ができるようになるための方法は理解しているが、トレーニングが不足しており、物事の状態分析や要因分析に不十分がある。自分の考えについても言論を具体的にしたり、優先順位を考えた表現に不十分な面がある	論理的思考ができるようになるための方法の理解に不十分であり、トレーニングが不足している。物事の状態分析や要因分析に不十分であり、自分の考えについても十分に表現できない	・科目成績評価 ・実習場面 ・実習記録 ・プロジェクト学習成果物 ・学生アンケート
	思考力・判断力・表現力	看護実践（演習を含む）を省察し、次の看護実践に繋がる課題と目標を明確に表現している	看護実践（演習を含む）において気づきや場面や自分の状況、感情を具体的に描写し、その状況での判断や結果、影響を考察し、自己の考え方の特徴について気づきや理論を活用し、意味づけができ、経験からの課題を明確にしている。そのうえで自分に必要な学習課題、目標達成のための具体的な方法を表現している	看護実践（演習を含む）において気づきや場面や自分の状況、感情を具体的に描写し、その状況での判断や結果、影響を考察し、自己の考え方の特徴について気づきや理論を活用し、意味づけができ、経験からの課題を明確にしている。そのうえで自分に必要な学習課題、目標達成のための具体的な方法を表現している	看護実践（演習を含む）において気づきや場面や自分の状況、感情を具体的に描写し、その状況での判断や結果、影響を考察し、自己の考え方の特徴について気づきや理論を活用し、意味づけができ、経験からの課題を明確にしている。そのうえで自分に必要な学習課題、目標達成のための具体的な方法を表現している	看護実践（演習を含む）において気づきや場面や自分の状況、感情を具体的に描写し、その状況での判断や結果、影響を考察し、自己の考え方の特徴について気づきや理論を活用し、意味づけができ、経験からの課題を明確にしている。そのうえで自分に必要な学習課題、目標達成のための具体的な方法を表現している	・科目成績評価 ・実習評価 ・目標管理シート ・リフレクション用紙
	主体的に学習に取り組む姿勢	周囲の人と積極的に交流し自分の視野を広げ、他者理解・自己理解を深めようとしている。また自己の課題を解決するために学び、行動している	意図的にいろいろな人と出会ったり、周囲の人との積極的交流し、自分の強みや弱みを認知し、自己理解を深めようとしている。また自己の課題を解決するために学び、行動している	周囲の人と交流し、自分の強みや弱みを認知し、自己理解を深めようとしている。また自己の課題を解決するために学び、行動している	周囲の人と交流し自分の強みや弱みを認知しているが、自己理解に不十分であり他者理解を深められず柔軟に思考できない面がある	周囲の人と交流が少なく、自己理解が不十分であるため他者理解に繋がっていない。提示された課題に対しては学習している	・科目成績評価 ・実習評価 ・目標管理シート ・グループ活動 ・学校行事や奉仕活動

X. 教育計画表2-①

分野		科目	単位	時間数	開講年次	開講時期						
						1 前	1 後	2 前	2 後	3 前	3 後	
人と暮らし	人と倫理	倫理学	1	30	1		30					
		医療概論	1	15	1	15						
		看護への招待	1	30	1	30						
		在宅療養者の健康と意思決定をささえる看護	1	15	2				15			
		医療安全	1	30	3					20	10	
	人と健康	生物学	1	15	1	15						
		心理学	1	30	1	30						
		発達心理学	1	15	1		15					
		保健体育	1	30	1	20	10					
		人体の構造と機能Ⅰ（細胞、組織、動く）	1	30	1	30						
		人体の構造と機能Ⅱ（食べる、内部環境の恒常性、体液の調整と尿の排出）	1	30	1	30						
		人体の構造と機能Ⅲ（息をする、循環、血液のはたらき、生殖器）	1	30	1	30						
		人体の構造と機能Ⅳ（情報の受容と処理に関連した器官）	1	15	1	15						
		形態機能学（皮膚、体温、お風呂に入る、排泄行動）	1	15	1	10	5					
		人体と微生物	1	30	1	30						
		代謝と栄養	2	45	1	15	30					
		おとなの暮らしと健康	1	20	1		20					
		高齢者の暮らしと健康	1	30	1		30					
		子どもの育みと家族をささえる看護	2	30	2			30				
		次世代の命をつなぐ人々の健康	2	30	1		30					
		人の暮らしとこころの健康	1	30	1		30					
	人と社会	看護場面における英会話	1	30	3						30	
		教育学	1	30	1		30					
		家族社会学	1	30	1		30					
		情報科学Ⅰ	1	15	1	15						
		暮らしと文化	1	30	2			30				
		看護と法律	1	30	3						10	20
		地域の特徴と人々の暮らし	1	20	1	10	10					
		小計		31	730		295	270	60	15	60	30
	看護の実践	疾病の回復と看護	病理総論	1	30	1	30					
薬理学			1	15	1		15					
臨床薬理			1	30	2			30				
疾病と治療Ⅰ（臨床検査、放射線診療、内分泌・代謝・女性生殖機能障害の診断・治療）			1	30	1		30					
疾病と治療Ⅱ（呼吸・循環器障害の診断・治療）			1	30	1		30					
疾病と治療Ⅲ（排泄機能・運動機能・脳・神経障害の診断・治療）			1	30	1		30					
疾病と治療Ⅳ（消化吸収機能・感覚機能・血液・造血機能障害、アレルギー疾患の診断・治療）			1	30	1		30					
健康と公衆衛生			1	30	2				30			
リハビリテーション概論			1	15	1		15					
疾病・障害を持つ高齢者の看護			1	30	2			30				
看護を考える		保健指導論	1	30	2			10	20			
		看護技術の基本	1	30	1	30						
		フィジカルアセスメント	1	30	1	30						
		生活をささえる看護技術Ⅰ（環境・食事）	1	30	1	30						
		生活をささえる看護技術Ⅱ（活動・休息）	1	30	1	30						
		生活をささえる看護技術Ⅲ（清潔）	1	30	1	8	22					
		生活をささえる看護技術Ⅳ（排泄）	1	30	1		30					
		経過別看護	1	30	1		30					
		看護を考える道のり	1	30	2			30				
		診断・治療をささえる看護	2	45	2			45				
		在宅療養者とその家族の暮らしと健康をささえる看護	2	45	2			30	15			
		おとなの暮らしをささえる看護Ⅰ（周手術期）	1	30	2				30			
		おとなの暮らしをささえる看護Ⅱ（急性期）	1	30	2			30				
		おとなの暮らしをささえる看護Ⅲ（リハビリ期）	1	30	2			30				
		おとなの暮らしをささえる看護Ⅳ（慢性期）	1	30	2			30				
		がん看護	1	30	2				30			
		高齢者の暮らしをささえる看護	2	30	2				30			
看護を実践する		子どもの生活と看護	1	30	2			30				
		子どもの病気と看護	1	30	2				30			
		新しい命を育む看護Ⅰ	1	30	2			30				
		新しい命を育む看護Ⅱ	1	30	2				30			
		こころの健康と看護Ⅰ	2	30	2			30				
		こころの健康と看護Ⅱ	1	30	2				30			
		家族看護	1	30	2			15	15			
		スタートアップ～看護の場を知る実習～	1	30	1	30						
		ステップアップⅠ～生活をささえる看護技術の実習～	1	45	1		45					
		ステップアップⅡ～看護過程展開の実際～	2	90	2			90				
		地域で療養する人々の健康をささえる実習	2	60	3						60	
		おとなの暮らしをささえる実習Ⅰ（周手術期・回復期）	2	90	2～3					90		
		おとなの暮らしをささえる実習Ⅱ（慢性期・リハビリ期）	2	90	2～3						90	
		おとなの暮らしをささえる実習Ⅲ（がん看護）	2	90	3							90
		高齢者の暮らしをささえる実習	2	90	2～3							90
		子どもの健康をまもる看護の実習	2	90	2～3						90	
		新しい命と家族を育む実習	2	60	2～3				60			
こころの健康をささえる実習		2	90	3						90		
臨床へつなぐ実習Ⅰ		2	90	3							90	
小計		60	1935		188	277	460	410	330	270		
看護と連携	情報科学Ⅱ	人間関係論	1	30	2		30					
		社会福祉と社会保障	1	30	2			30				
		地域包括支援	1	30	3					30		
		地域の人々の暮らしと健康をささえるチーム作り	1	15	2				15			
		看護マネジメント	1	20	3							20
		災害と看護	1	20	3							20
	小計		7	175		0	30	30	45	30	40	
看護の創造	看護とリフレクション	キャリア支援Ⅱ	1	15	2			15				
		キャリア支援Ⅲ	1	15	2				15			
		臨床判断の基礎	1	15	2				15			
	看護の探求と自己の成長	キャリア支援Ⅰ	1	30	1	30						
		看護研究	1	30	3						20	10
		臨床看護実践演習	1	30	3						30	
		臨床へつなぐ実習Ⅱ	1	45	3							45
小計		7	180		30	0	15	30	50	55		
総合計			105	3020		513	577	565	500	470	395	

X.教育計画表2-②

科目	1年次													2年次													3年次												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
倫理学																																							
医療概論																																							
看護への招待																																							
在宅療養者の健康と意思決定をささえる看護																																							
医療安全																																							
生物学																																							
心理学																																							
発達心理学																																							
保健体育																																							
人体の構造と機能Ⅰ																																							
人体の構造と機能Ⅱ																																							
人体の構造と機能Ⅲ																																							
人体の構造と機能Ⅳ																																							
形態機能学																																							
人体と微生物																																							
代謝と栄養																																							
おとなの暮らしと健康																																							
高齢者の暮らしと健康																																							
子どもの育みと家族をささえる看護																																							
次世代の命をつなぐ人々の健康																																							
人の暮らしとこころの健康																																							
看護場面における英会話																																							
教育学																																							
家族社会学																																							
情報科学Ⅰ																																							
暮らしと文化																																							
看護と法律																																							
地域の特徴と人々の暮らし																																							
分野 人と暮らし 小計	565													75													90												
病理総論																																							
薬理学																																							
臨床薬理																																							
疾病と治療Ⅰ																																							

XI.教科外活動

	項目	時間数			ねらい
		1年次	2年次	3年次	
学 校 行 事	入学式	4	2		入学を祝い看護学生としての自覚を持つ
	入学時ガイダンス	14			教育課程、履修方法を理解し、主体的な学習ができるための方向づけとする。また、学校生活に適応するための諸規則、諸手続きを理解する
	卒業式		2	6	3年間の全課程を修了したことを祝い、看護を担う者としての責任と自覚を新たにす
	戴帽式	4	6		看護を学ぶ者としての自覚を深め、自らを省みる機会とし、今後の学習への動機づけとする
	学校祭	8	8	8	自主的な文化活動を通じて協調性・創造性を養うと共に学生間および地域の人々との交流を深める
	対面式	4	4	4	共に学ぶ仲間として新入生を歓迎するとともに交流をはかる
	防災訓練	4			危機管理・安全管理について理解し、災害時の対処方法を学ぶ
	健康診断	2	2	2	学生の健康管理の一環として行い、自己の健康管理への関心を深める
合計		40	24	20	
総計		84			

※ その他の教科外活動

教育目標の達成および看護師国家試験合格に向けて、「その他の教科外活動」として下記内容を実施する。

HR

学習会

国家試験対策学習:補習・模擬試験・学習会

特別講演

行事準備・リハーサル

ケーススタディ聴講

国家試験手続き

医療機関説明会

奨学金説明会

その他

XII.職員名簿

令和7年度

職名	氏名	備考
学校長	中川 壮平	
副学校長	坂口 ゆかり	

教務部

教務主任	古川 公子	統合分野(看護の統合と実践)
副教務主任	渡壁 美紀	老年看護学 地域・在宅看護論
副教務主任	川畑 佳奈	基礎看護学
実習調整者	川口 友美	成人看護学
専任教員	坂東 暖子	老年看護学 地域・在宅看護論
	松山 成子	精神看護学
	増田 真里	母性看護学 小児看護学
	吉田 智代美	成人看護学
	藤川 礼美	母性看護学 小児看護学
	武山 宴子	基礎看護学
	熊谷 真美	成人看護学
	伊藤 真介	
	宮西 由紀子	老年看護学 地域・在宅看護論
	林 敬貴	基礎看護学
	福元 小百合	基礎看護学
	鎌田 洋子	老年看護学 地域・在宅看護論
	芝 優美子	統合分野(看護の統合と実践)

事務部

事務長兼事務係長	阪上 恵美	
事務主任	前田 裕子	
事務員	高田 恭子	
	日東 香織	
	玉井 芙美	
司書	桐村 ひろみ	

XⅢ. 各授業科目の授業内容

分野【人と暮らし】人と倫理

目名	倫理学	配当時期	1 年次 後期	担当者
		単位数	1 単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容				
科目全体のねらい・授業目標				
人間の道義および人としての行動を支えている倫理的な価値・規範について理解し、各自の倫理観について考える				
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力				
1) 生命、生活、願いに関心を寄せ、倫理観に基づいた判断と行動ができる				
回	学習内容と成果			方法
1	倫理学とは何か 1～3 回 倫理学の概要について理解する			講義
2	人間と倫理 倫理学の本質、必要性			講義
3	人間と倫理 自由と規範			講義
4	道徳法と適法性の違い 道徳法と適法性の違いについて知る			講義
5	価値と相対主義の問題 価値と相対主義の問題について知る			講義
6	義務論と功利主義 義務論と功利主義について知る			講義
7	法律・経済と倫理の考察 法律・経済と倫理について意見を述べられ			講義
8	自己決定の功利主義的考察 自己決定の功利主義的考察にむけ意見を述べられる			講義
9	自己決定権の根拠とその実態の考察 自己決定の根拠とその実態について意見を述べられる			講義
10	義務論の人格論と現代の功利主義 義務論の人格論と現代の功利主義について知る			講義
11	幸福の倫理学定義 幸福の倫理学定義について知る			講義
12	規範倫理学への批判と判断規則の不可能性 規範倫理学への批判と判断規則の不可能性について知る			講義
13	「ケアの倫理」と「徳倫理」の特徴 「ケアの倫理」と「徳倫理」の特徴について知る			講義
14	「正義の倫理」の問題点 「正義の倫理」の問題点について知る			講義
15	学習のまとめと評価			講義 筆記試験
備考				
受講上の注意				
評価方法 出席状況と筆記試験による総合評価				
使用テキスト				
配布プリント				
参考文献 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院				

科目名 医療概論		配当時期 1年次 前期 単位数 1単位 時間数 15 時間(8 回)	担当者
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 医療の発展や現代医療のシステムを知り、医療を取り巻く諸問題について理解する			
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 1) 生命、生活、願いに関心を寄せ、倫理観に基づいた判断と行動ができる			
回	学習内容と成果		方法
1	医療の歩みと医療観の変遷について理解する 現代医学の起源、医療観のうつりかわり		講義
2	現在医学と先端医療技術について理解する がん診療の最前線、移植医療、人工臓器、再生医療		講義 演習
3	医療政策についての概要を理解する 医療保健、国民医療費、医療サービス		講義
4	医療における倫理について考える 生命倫理(代理母出産、脳死・臓器移植等)		講義 演習
5	生きることと死ぬことについて考える		講義
6	生命と尊ぶ、死を悼む、すこやかに生きる、おだやかに死ぬことについて考える		演習
7	保健・医療・福祉のあり方について理解する 健康・医療・社会の相関、チーム医療、プライマリーケア、在宅医療		講義
8	学習の評価		筆記試験
備考			
受講上の注意			
評価方法 筆記試験 50% 演習への参加状況・レポート課題 50%			
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保険制度[1] 医学概論 医学書院			
参考文献 系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院			

科目名	看護への招待	配当時期	1 年次 前期	担当者
		単位数	1 単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容:1. ナイチンゲールの伝記を 1 冊読む(漫画でも可) 2. 看護師を目指した理由を800字以内にまとめる 3. 授業内容ごとの事前学習課題は、別に提示します				
科目全体のねらい・授業目標 看護の歴史の変遷を捉え、看護理念や定義、看護の対象である人間、看護の役割と機能、看護の基本的倫理、看護実践の原理を学び、看護とは何か、また看護を実践するとは何かを考える				
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 1)生命、生活、願いに関心を寄せ、倫理観に基づいた判断と行動ができる				
回	学習内容と成果			方法
1	本科目での学習内容・学習方法について理解する 1)授業ガイダンス 2)協同学習について 自己紹介(事前学習課題2の活用)			講義 演習 提出:事前学習課題2
2	看護の仕事について考える 1)DVD 視聴「迷わず走れ、そして飛び込め」～専門看護師 北村愛子の仕事～ DVD 視聴を通して看護の仕事についての新たな発見や目指したい看護師像を言語化する			講義・DVD 視聴 課題レポートあり
3	看護の歴史の変遷と発展わかる①～近代看護に至るまで～ 1)看護の時代的変遷と発展 フローレンス・ナイチンゲールについて(事前学習課題1を活用) 2)看護の定義 3))看護概念の発展と変遷			講義 演習 提出:ナイチンゲールの生涯
4	看護の歴史の変遷と発展がわかる②～日本の看護の歴史～ 1)日本の看護の変遷と戦後における我が国の看護の変遷			講義 演習
5	看護の対象が理解できる① 1)人間とは、人間の基本的欲求 2)人間とライフサイクル			講義 演習
6	看護の対象が理解できる② 1)国民の全体像:衛生統計・人口構造の変化 2)看護の対象としての家族とその機能			講義 演習
7	看護の役割と機能がわかる① 1)看護実践における看護者の役割 2)看護と医療安全			講義 演習
8	看護の役割と機能がわかる② 1)健康障害と看護 2)看護実践と看護過程の展開			講義 演習 課題レポートあり
9	看護と健康について理解できる① 1)健康のとらえかた 2)障害のとらえかた			講義
10	看護と健康について理解できる② 1)国民全体の健康の指標 2)地域における看護について			講義
11	看護における倫理についてわかる 1)現代社会と倫理 2)職業倫理としての看護倫理			講義
12	看護理論とは何か概観を理解できる 1)看護理論の分類 2)看護理論の変遷 3)看護理論を読む枠組み			講義・演習 文献の読み取り
13	看護理論の読み取りができ 2)ナイチンゲールの看護覚え書を通して、看護師の役割を考える			
14	看護職者と保健医療サービスの関係について理解できる 1)看護職者のキャリア開発 2)サービスとしての看護			講義
15	看護への招待、学習の振り返りができる 筆記試験			講義 終講試験
評価方法 出席状況、課題提出、筆記試験による総合評価				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 看護学概論 医学書院 看護覚え書き 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版 看護職の基本的責務 日本看護協会出版 参考テキスト やさしく学ぶ看護理論 日総研				

科目名 在宅療養者の健康と意思決定をささえる看護		配当時期 2年次 後期 単位数 1単位 時間数 15 時間(8 回)	担当者
事前学習内容 ALS、終末期の看護(グリーフケア、エンパワメント、デスエデュケーションアドヒアランス)ヘルスプロモーション・プライマリーケア 看護倫理について学習しておく			
科目全体のねらい・授業目標 1. 自己決定支援と倫理について理解できる 2. 在宅療養者の健康状態に応じた支援について理解できる			
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 1) 生命、生活、願いに関心を寄せ、倫理観に基づいた判断と行動ができる			
回	学習内容と成果		方法
1	在宅看護特有の倫理問題・基本理念について理解できる ・意思決定支援に必要な概念・各種ガイドライン(ACP・リビングウィル・アドバンスディレクティブ) ・パートナーシップ ・退院支援・調整について		講義・演習
2	慢性疾患(ALS・認知症・重症心身障害)を持つ対象者への支援①		講義・演習
3	慢性疾患(ALS・認知症・重症心身障害)を持つ対象者への支援②		演習
4	慢性疾患(ALS・認知症・重症心身障害)を持つ対象者への支援③		演習
5	介護予防の必要な高齢者への支援について理解する ・介護予防・日常生活支援総合事業		演習
6	在宅で終末期の状態にある人への支援① ・終末期に生じやすい身体症状 ・在宅における看取りについて ・デスエデュケーション・アドヒアランス・ ・家族へのグリーフケア		講義・DVD 演習
7	在宅で終末期の状態にある人への支援②		講義 演習
8	在宅で終末期の状態にある人への支援③ (11 月頃)		校外学習(看取りの研修)
備考 必要時、資料を配布します。教科書と 1 回目からの資料も使用しますので授業時は準備しておいてください			
受講上の注意 演習が多いためメンバーの一員として貢献できるように考えて行動することを期待します			
評価方法 レポート 90%・出席状況 10%			
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院			
参考文献			

科目名	医療安全	配当時期	3年次 前・後期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	30 時間 (15 回)	
事前学習内容				
講義:看護技術の基本「感染予防の基礎」、診断・治療をささえる看護「与薬の技術」での学習内容を復習する				
科目全体のねらい・授業目標				
医療現場の状況に即した対象や自己の安全を守るために必要な知識・技術・態度を習得する				
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力				
1)生命、生活、願いに関心を寄せ、倫理観に基づいた判断と行動ができる				
回	学習内容と成果			方法
1	安全の重要性と医療における安全が理解できる 医療安全を学ぶ意味とその重要性 医療安全とは 看護における安全			講義
2	安全の重要性と医療における安全 が理解できる 看護師の法的責任 看護業務の範囲と責任 医療事故と医療過誤の定義と分類			講義
3	事故とヒューマンエラーが理解できる			講義
4	事故発生のメカニズムとリスクマネジメントが理解できる			講義
5	患者・家族との協同と安全文化の醸成が理解できる			講義
6	主な医療事故と対策が理解できる 医療事故の種類 看護における医療事故			講義・演習
7	主な医療事故と対策が理解できる 環境調整技術(誤嚥・経管栄養) 呼吸循環の援助技術			講義・演習
8	主な医療事故と対策が理解できる① 療養の世話 与薬			講義・演習
9	主な医療事故と対策が理解できる② 輸液ポンプ・シリンジポンプ・医療機器・計算			講義・演習
10	主な医療事故と対策が理解できる③ 輸血 チューブ管理			講義・演習
11	リスク感性を高めることができる① KYT(危険予知トレーニング)			演習
12	リスク感性を高めることができる① KYT			演習
13	看護学生の実習と安全			講義
14	感染に関する標準予防策と感染経路別予防策の実際			講義
15	学習のまとめと評価			講義 筆記試験
備考 1・11・12 回目は DVD を視聴します				
受講上の注意				
評価方法 平常点(出席状況、レポート提出)10% 筆記試験 90%				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 医療安全 看護の統合と実践2 医学書院				
参考文献				

分野【人と暮らし】 人と健康

科目名	生物学	配当時期 単位数 時間数	1年次 前期 1単位 15 時間(8 回)	担当者
事前学習内容				
科目全体のねらい・授業目標				
生物・生命現象の一般原理や基礎を理解する				
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	生命体のつくりとはたらき 生命現象を形態と機能、物質レベルで理解する必要性を知る			講義
2	生体維持のエネルギー 生体内の化学反応について知る			講義
3	細胞の増殖とからだのなりたち ヒトと細胞周期の関係を知る			講義
4	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ 遺伝の法則と染色体について知る			講義
5	生命の発生 生殖による種の存続について知る			講義
6	個体の調節 循環系の調節機構について理解する			講義
7	生物と環境のかかわり ヒトと地球環境 生命体と環境との関連について理解する			講義
8	学習の評価			筆記試験
備考				
受講上の注意				
評価方法 出席状況と筆記試験で評価				
使用テキスト				
系統看護学講座 基礎分野 生物学				
参考文献				

科目名 心理学		配当時期 1年次 前期	担当者
		単位数 1単位	
		時間数 30 時間(15 回)	
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標			
基礎心理学について学び、人間を多面的に理解する能力を養い、こころの健康について考える			
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	心理学とは	心理学の概要について理解する	講義
2	感覚と知覚	感覚と知覚について理解する	講義
3	記憶 1	学習の心理(記憶)について理解する	講義
4	記憶 2		講義 演習
5	思考・言語・知能 1	思考・言語・知能について理解する	講義
6	思考・言語・知能 2		講義
7	学習 1	心理学領域における学習について理解する	講義
8	学習 2		講義
9	感情と動機づけ 1	感情と動機づけについて理解する	講義
10	感情と動機づけ 2		講義
11	性格とパーソナリティ 1	性格とパーソナリティについて理解する	講義
12	性格とパーソナリティ 2		講義
13	社会と集団 1	社会と集団について理解する	講義
14	社会と集団 2		講義
15	学習のまとめと評価		講義 筆記試験
備考			
受講上の注意			
評価方法 出席状況と筆記試験による総合評価			
使用テキスト			
系統看護学講座 基礎分野 心理学			
参考文献			

科目名	発達心理学	配当時期	1 年次 後期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	15 時間(8 回)	
事前学習内容				
科目全体のねらい・授業目標 ライフサイクルにおける人間の発達を心理社会的側面から理解する				
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	発達の定義と区分を理解する 発達の定義 発達の区分			講義
2	発達理論について知る 発達理論:エリクソンのライフサイクル			講義
3	胎児期・乳児期の発達について理解する 胎児期・乳児期の発達			講義
4	幼児期・児童期の発達について理解する 幼児期・児童期の発達			講義
5	発達障害について理解する 発達障害の理解と対応			講義
6	青年期の発達について理解する 青年期の発達			講義
7	成人期初期から老年期の発達について理解する 成人期初期から老年期の発達			講義
8	学習の評価			筆記試験
備考				
受講上の注意				
評価方法 出席状況と筆記試験による総合評価				
使用テキスト 系統看護学講座 基礎分野 心理学				
参考文献				

科目名 保健体育		配当時期 1年次 前・後期 単位数 1単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 運動の楽しさを味わい、生涯にわたって運動を実践する態度を育てる 身体活動によるレクリエーションへの理解を深める			
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	授業ガイダンス 講義・実技・演習の受け方 実技の場の設営・片付け等について		講義
2	体力と体力トレーニングの原則について理解する 体力とは 体力トレーニングの原則		講義
3	体力測定		実技
4	体力測定により自己の体力を数値化し、自己評価できる 体力トレーニングの原理を理解する		講義
5	体力トレーニングの原則を理解する		講義
6	6～10 回体育実技をとおして運動の楽しさを体感する 体育実技 バレーボール		実技
7	体育実技 レクリエーション バレーボール		実技
8	体育実技 レクリエーション バレーボール		実技
9	体育実技 レクリエーション バレーボール		実技
10	体育実技 ストレッチ エアロビクス		実技
11	高齢者のレクリエーションの企画・運営について理解する		講義
12	高齢者のレクリエーション 実際(身体活動のレクリエーションを企画・運営する)		演習
13	高齢者のレクリエーション 実際(身体活動のレクリエーションを企画・運営する)		演習
14	高齢者のレクリエーション 実際(身体活動のレクリエーションを企画・運営する)		演習
15	学習のまとめと評価		講義/筆記試験
備考			
受講上の注意			
評価方法 出席状況、演習(発表)、筆記試験			
使用テキスト プリント			
参考文献			

科目名	人体の構造と機能Ⅰ (細胞、組織、動く)	配当時期	1年次 前期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容: 予習 次回講義の範囲のテキストを音読する				
科目全体のねらい・授業目標 解剖生理学の基礎及び人体を構成している諸器官および組織の基本について理解するとともに「動く」、「感じる」機能を生み出す構造と機能を理解する				
DPとの関連 DP1 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	解剖生理学基礎知識を理解する(1) 人体の構造と機能とは 形からみた人体 : 触知する人体の構造			講義
2	解剖生理学基礎知識を理解する(2) 構造と区分・部位と器官			講義
3	解剖生理学の基礎知識を理解する(3) 細胞の構造と機能について①			講義
4	解剖生理核の基礎知識を理解する(3) 細胞の構造と機能について②			講義
5	解剖生理学の基礎知識を理解する(4) 組織について①			講義
6	解剖生理学の基礎知識を理解する(4) 組織について②			講義
7	解剖生理学の基礎知識を理解する(5) 機能から見た人体: 体液とホメオスタシス			講義
8	動くことに関連した器官のしくみとはたらきを理解する(1) 骨格、骨の形態と構造、関節			講義
9	動くことに関連した器官のしくみとはたらきを理解する(2) 骨格筋、体幹の骨格と筋			講義
10	動くことに関連した器官のしくみとはたらきを理解する(3) 上肢・下肢の筋肉			講義
11	動くことに関連した器官のしくみとはたらきを理解する(4) 頭頸部の骨格と筋			講義
12	動くことに関連した器官のしくみとはたらきを理解する(5) 神経から筋への指令と筋の収縮①			講義
13	動くことに関連した器官のしくみとはたらきを理解する(5) 神経から筋への指令と筋の収縮②			講義
14	日常生活の中での基本的動きに関連する器官としくみを理解する 歩く、つまむ、表情、声を出す、聞く等の「動き」を繋げて考える			講義 演習
15	学習のまとめと評価			講義 筆記試験
備考 知識の確認テストがあります				
受講上の注意 受講後は、復習をすること				
評価方法 確認テストと筆記試験(終講試験)の総合評価				
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1 医学書院				
参考文献 看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ : 菱沼典子著 メヂカルフレンド社				

科目名 人体の構造と機能Ⅱ (食べる、内部環境、体液、尿)		配当時期 1年次 前期 単位数 1単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 予習 次回講義の範囲のテキストを音読する			
科目全体のねらい・授業目標			
1. 食べる、トイレに行くという生活行動に関連した器官のしくみとはたらきについて理解する			
2. 内臓機能の調整に関わる器官のしくみとはたらきについて理解する			
3. 体液の調整と尿の生成に関わる器官のしくみとはたらきについて理解する			
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力(を有している)			
2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	消化器系の概観、消化器系の構成について理解する(1) 口・咽頭・食道のしくみとはたらき、		講義
2	消化器系の構成について理解する(2) 腹部消化管のしくみとはたらき①		講義
3	消化器系の構成について理解する(2) 腹部消化管のしくみとはたらき②		講義
4	消化器系の構成について理解する(3) 膵臓・肝臓・胆嚢、腹膜のしくみとはたらき		講義
5	消化器系のしくみとはたらきについて理解する 学習したことをアウトプットするために作問演習をする		講義 演習
6	内臓機能の調整について理解する(1) 自律神経による調整、内分泌による調整		講義
7	内臓機能の調整について理解する(2) 視床下部・下垂体、甲状腺と副甲状腺、		講義
8	内臓機能の調整について理解する(3) 膵臓、副腎、性腺、その他		講義
9	内臓機能の調整について理解する(4) ホルモン分泌の調整と調整の実際		講義
10	体液の調整と尿の生成について理解する(1) 腎臓のしくみとはたらき①		講義
11	体液の調整と尿の生成について理解する(1) 腎臓のしくみとはたらき②		講義
12	体液の調整と尿の生成について理解する(2) 排尿路のしくみとはたらき		講義
13	体液の調整と尿の生成について理解する(3) 体液の調整		講義
14	生活行動の「トイレに行く(排尿する)」という一連の行動に関わる各器官のしくみとはたらきを繋げて考える		講義 演習
15	学習のまとめと評価		講義 筆記試験
備考 知識の確認テストがあります 5 回目は反転授業の予定			
受講上の注意 受講後は復習をすること			
評価方法 確認テストと筆記試験の総合評価			
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1 医学書院			
参考文献 看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ :菱沼典子著 メヂカルフレンド社			

科目名 人体の構造と機能Ⅲ (息をする、循環、血液、生殖器)		配当時期 1年次 前期 単位数 1単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 予習 次回講義の範囲のテキストを読む			
科目全体のねらい・授業目標 1. 呼吸、循環、血液のしくみとはたらきを理解する 2. 生殖と発生と老化のしくみを理解する			
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力(を有している) 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	呼吸器の構造を理解する(1) 呼吸器の構成 上気道		講義
2	呼吸器の構造を理解する(2) 下気道と肺、胸膜・縦隔		講義
3	呼吸のはたらきを理解する(1) 内呼吸・外呼吸、呼吸運動		講義
4	呼吸のはたらきを理解する(2) ガス交換とガスの運搬、肺循環、		講義
5	血液のはたらきについて理解する(1) 組成と機能、赤血球と白血球、免疫		講義
6	血液のはたらきについて理解する(2) 血小板、血液凝固、血液型		講義
7	循環器系のしくみとはたらきについて理解する(1) 肺循環・体循環 心臓の構造		講義
8	循環器系のしくみとはたらきについて理解する(2) 心臓の拍出機能、		講義
9	循環器系のしくみとはたらきについて理解する(3) 冠状動脈、刺激伝導系		講義
10	循環器系のしくみとはたらきについて理解する(4) 血管の構造		講義
11	血液の循環の調整について理解する 血圧、血液の循環、微小循環、リンパとリンパ管		講義
12	生殖・発生のしくみについて理解する(1) 男性生殖器、女性生殖器		講義
13	生殖・発生のしくみについて理解する(2) 受精と胎児の発生		講義
14	呼吸・循環器のしくみとはたらきについて理解する 学習したことをアウトプットするために作問をする		講義 演習
15	学習のまとめと評価		講義 筆記試験
備考 知識の確認テストがあります 14 回は反転授業の予定です			
受講上の注意 受講後は復習をすること			
評価方法 確認テストと筆記試験の総合評価			
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1 医学書院			
参考文献 看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ :菱沼典子著 メディカルフレンド			

科目名 人体の構造と機能Ⅳ (情報の受容と処理に関連した器官)	配当時期 1年次 前期 単位数 1単位 時間数 15時間(8回)	担当者
事前学習内容 予習 次回講義の範囲のテキストを読む		
科目全体のねらい・授業目標 情報の受容と処理に関連した器官のしくみとはたらきを理解する		
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力(を有している) 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	情報の受容と処理に関連した器官のしくみとはたらきについて理解する(1) 神経系の構造と機能①	講義
2	情報の受容と処理に関連した器官のしくみとはたらきについて理解する(1) 神経系の構造と機能②	講義
3	情報の受容と処理に関連した器官のしくみとはたらきについて理解する(2) 脊髄と脳、脊髄神経と脳神経、脳の高次機能	講義
4	情報の受容と処理に関連した器官のしくみとはたらきについて理解する(3) 脳の高次機能	講義
5	情報の受容と処理に関連した器官のしくみとはたらきについて理解する(4) 運動機能と下行伝達路、感覚機能と上行伝達路	講義
6	情報の受容と処理に関連した器官のしくみとはたらきについて理解する(5) 眼の構造、視野耳の構造と聴覚・平衡覚	講義
7	情報の受容と処理に関連した器官のしくみとはたらきについて理解する(6) 味覚と嗅覚、痛み	講義
8	学習の評価	筆記試験
備考 知識の確認テストがあります		
受講上の注意 受講後は復習すること		
評価方法 確認テストと筆記試験の総合評価		
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1 医学書院		
参考文献 看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ : 菱沼典子著 メヂカルフレンド		

科目名	形態機能学	配当時期	1年次 前・後期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	15 時間(8 回)	
事前学習内容 次回講義内容に関連するテキストを音読する				
科目全体のねらい・授業目標				
1. きれいにする、さっぱりするという生活行動から皮膚のしくみとはたらきを理解する				
2. 「トイレに行く(排便する)」という一連の動作に関わる体のしくみとはたらきを理解する				
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力(を有している)				
2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	なぜ、皮膚をきれいにするのかを理解する 皮膚のしくみとはたらき			講義 演習
2	体性感覚(触覚、圧覚、温感覚)について理解する 感覚が伝わるしくみ(復習) 「さする」という刺激と伝達経路			講義 知識確認テスト 演習
3	皮膚・粘膜の防御機能について理解する 皮膚粘膜における防御			講義
4	体温とその調整について理解する 熱の産生と放出、汗 温熱刺激と冷却刺激:なぜ、気持ちよいと感じるのか考える			講義 演習
5	復習 大腸の構造と機能、排便を調整するしくみを想起できる			知識確認テスト 講義
6	排泄行動に伴う一連の行為に関わるからだのしくみとはたらきを理解する			演習
7	排泄行動に伴う一連の行為に関わるからだのしくみとはたらきを理解する			発表
8	学習の評価			筆記試験
備考				
受講上の注意 演習が多いためメンバーの一員として貢献できるように考えて行動することを期待します				
評価方法 筆記試験 80% 発表内容 10% 平常点(出席、知識確認テスト) 10%				
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1 医学書院				
参考文献 看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ :菱沼典子著 メヂカルフレンド社				

科目名	人体と微生物	配当時期	1年次 前期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容				
科目全体のねらい・授業目標 微生物の特徴と生体におよぼす影響を理解し、その対応について学ぶ				
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	微生物学の基礎知識を理解する 微生物学の歩み			講義
2	微生物の基礎知識を理解する 微生物の性質			講義
3	微生物の基礎知識を理解する 細菌の性質			講義
4	微生物の基礎知識を理解する 真菌の性質、原虫の性質			講義
5	微生物の基礎知識を理解する ウイルスの性質			講義
6	感染とその防御について理解する 感染の成立から発症までの基本的な経路			講義
7	感染症とその防御について理解する 細菌感染①			講義
8	感染症とその防御について理解する 細菌感染② 真菌感染、原虫感染			講義
9	感染症とその防御について理解する ウイルス感染			講義
10	感染症とその予防について理解する 1) 滅菌と消毒、感染症の現状と対策			講義
11	病原細菌と感染症について理解する グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性好気性桿菌			講義
12	病原細菌と感染症について理解する グラム陰性通性桿菌、カンピロバクター、ヘリコバクター、抗酸菌、嫌気性菌			講義
13	病原細菌と感染症について理解する リケッチア、クラミジア、スピロヘーター、マイコプラズマ			講義
14	病原原虫と原虫感染症について理解する 根足虫類、鞭毛虫類、孢子虫類、絨毛虫類			講義
15	学習のまとめと評価			講義 筆記試験
備考				
受講上の注意				
評価方法 筆記試験 100%				
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進 4 医学書院				
参考文献				

科目名 代謝と栄養		配当時期 1年次 前・後期	担当者
		単位数 2 単位	
		時間数 45 時間(23 回)	
事前学習内容 疾患・症状別の食事療法の授業前に提示する課題を行う			
科目全体のねらい・授業目標			
1. 生命現象を引き起こす物質とその化学反応について理解する			
2. エネルギーとさまざまな栄養素のはたらきを理解し、食事療法の基本や栄養指導の基礎を理解する			
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力			
2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	代謝と栄養を学ぶ意義、生体の化学の基礎知識を理解する 細胞の構造と機能をについて理解する(復習)		講義 小テスト
2	栄養素の種類とはたらきを理解する ①糖質の種類とはたらき		講義
3	栄養素の種類とはたらきを理解する ②脂質の種類とはたらき		講義
4	栄養素の種類とはたらきを理解する ③タンパク質の種類とはたらき		講義
5	栄養素の種類とはたらきを理解する ④ビタミン		講義
6	栄養素の種類とはたらきを理解する ⑤ミネラル		講義
7	エネルギー代謝の基礎知識を理解する 食品のエネルギー、ATP、エネルギー消費		講義
8	糖質代謝を理解する 糖質の消化と吸収、グルコースの分解、グリコーゲン代謝、 糖新生		講義
9	脂質代謝を理解する 脂質の消化と吸収、脂肪酸の分解、脂質の合成		講義
10	タンパク質代謝を理解する タンパク質の消化と吸収、アミノ酸分解		講義
11	核酸の代謝を理解する 核酸の構造と機能、核酸の代謝		講義
12	食品ごとの特徴を理解する 食事とその変遷、食事摂取基準、食品群と分類		講義
13	食品ごとの特徴を理解する 食品に含まれる栄養素、 食品の調理		講義
14	栄養状態の評価・判定の基礎知識を理解する 栄養アセスメント		講義
15	ライフステージごとの特徴と栄養について理解する 乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、妊娠期、高齢期		講義
16	チームで取り組む栄養管理の基礎知識を理解する 病院食 栄養補給法 病院における栄養サポートチームの役割		講義・演習
17	疾患・症状別食事療法について理解する① 低栄養、肥満		講義・演習
18	疾患・症状別食事療法について理解する② 循環器疾患患者の食事療法		講義・演習
19	疾患・症状別食事療法について理解する③ 消化器疾患患者の食事療法		講義・演習
20	疾患・症状別食事療法について理解する④ 栄養・代謝疾患患者の食事療法		講義・演習
21	疾患・症状別食事療法について理解する⑤ 腎臓疾患患者の食事療法		講義・演習
22	疾患・症状別食事療法について理解する⑥ がん患者の栄養食事療法		講義・演習
23	学習の評価		筆記試験
備考			
受講上の注意			
評価方法 演習内容の発表と筆記試験の総合評価			
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能2	医学書院	
	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能3	医学書院	
参考文献	系統看護学講座 別巻 栄養食事療法	医学書院	

科目名	おとなの暮らしと健康	配当時期	1年次 後期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	20 時間 (10 回)	
事前学習内容				
講義 発達心理学で学習した成人期のライフサイクルと発達の復習、				
講義 看護学概論で学習した看護の対象、健康と看護を復習				
科目全体のねらい・授業目標				
1. 成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる				
2. 現代社会において成人を取り巻く社会環境とその生活について理解できる				
3. 成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策について理解できる				
4. 成人期にある人を看護するうえで有用な理論や概念を理解できる				
DPとの関連				
DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力				
2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	成人期にある人の特徴を概観しライフサイクルの中の成人期の位置づけが理解できる			講義
2	成人期にある人の身体的・社会的・精神的特徴と現代社会について理解できる			講義
3	成人期にある人をとりまく現状が及ぼす影響について理解できる 家族をめぐる状況・労働をめぐる状況			講義/演習
4	成人期にある人をとりまく現状が及ぼす影響について理解できる 環境・日常生活スタイルが及ぼす影響			講義/演習
5	成人期にある人の健康の動向を理解できる 人口構造の変化とその影響 疾病構造の変化			講義
6	成人期にある人の生活と健康をまもりはぐくむシステム			講義
7	生活習慣病に関する健康課題と対策について理解できる			講義
8	「病みの軌跡」を知り、病気を持った「おとな」の理解と看護に有効であることを知る			講義
9	成人期にある人の健康を促進する援助に有用な理論について理解できる 危機理論 成人学習理論 健康信念モデル エンパワメントアプローチ 自己効力感			講義
10	学習のまとめ			筆記試験
備考				
受講上の注意				
評価方法（出席状況 提出物）筆記試験 90%による総合評価				
使用テキスト				
系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院				
厚生指針 増刊 国民衛生の動向 厚生労働省統計協会				
参考文献				

科目名	高齢者の暮らしと健康	配当時期 単位数 時間数	1 年次 後期 1 単位 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 日本の人口構成で高齢者の人口割合を確認しておいてください 高齢者の定義を確認しておいてください 高齢者の発達課題を確認しておいてください				
科目全体のねらい・授業目標 生涯発達する存在である老年期にある人の健康な暮らしを理解する				
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 1) 生命、生活、願いに関心を寄せ、倫理観に基づいた判断と行動がとれる				
回	学習内容と成果			方法
1	老いるということを理解する 1) 高齢者の定義 2)加齢による変化 3)発達と成熟			講義・演習
2	高齢者が暮らす社会を理解する 1)高齢社会 2)高齢者と社会保障			講義
3	高齢者の暮らしの変遷を理解する			講義
4	高齢者のからだの特徴を理解する 1)身体の高齢変化			講義・演習
5	高齢者のからだの特徴を体験する①(高齢者体験)			演習
6	高齢者のからだの特徴を体験する②(高齢者体験)			演習
7	高齢者の心理・霊的(スピリチュアリティ)特徴を理解する 1) 高齢者の心理・社会的特徴			講義・演習
8	高齢者のライフステージと暮らし(エンドオブライフケア)を理解する 1)エンドオブライフケアの概念 2)生きることを支える			講義・演習
9	高齢者を保健・医療・福祉チームで支えることを理解する 1) 高齢者を支える多職種連携			講義・演習
10	高齢者を取り巻く倫理的課題を考える 1) 高齢者に対するスティグマと差別 2) 高齢者の権利擁護			講義・演習
11	高齢者の権利擁護を理解する 1) 高齢者の虐待 2) 身体拘束			講義・演習
12	高齢者と介護者の暮らしを理解する 1) 高齢者と家族			講義
13	地域の高齢者と生きがいを考える①			演習/フィールドワーク
14	地域の高齢者と生きがいを考える②			演習/フィールドワーク
15	学習のまとめ			試験・講義
備考 フィールドワークを取り入れ、地域で暮らす高齢者の調査をしてきてもらっての演習をします。				
受講上の注意 身近な高齢者、社会的な情報から知る高齢者に関心をもちながら、学習を進める				
評価方法 筆記試験70%・レポート20%・平常点(出席状況・演習態度など)10%				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 厚生指針 増刊 国民衛生の動向 厚生労働省統計協会				
参考文献 高齢社会白書 内閣府				

科目名 子どもの育みと家族をささえる看護	配当時期 2年次 前期 単位数 2単位 時間数 30時間（15回）	担当者
事前学習内容 事前レポート課題「私の“こども観”と“小児看護観”」		
科目全体のねらい・授業目標 小児各期の特徴と成長発達について理解し、時代とともに変化する社会と家族の状況をとらえて子どもが健康な社会・健康な家族に支えられながら成長発達していく存在であることを学ぶ。また、子どもの権利を擁護し子どもと家族にとって最善の利益になるよう支え、多職種と協働する小児看護の意義と役割について学ぶ		
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる		
回	学習内容と成果	
1	子どもの育みと家族を支える小児看護の理念と特徴を理解する	講義
2	子どもを守る看護を理解する～子どもの権利と最善の利益～	講義
3	子どもと家族を取り巻く社会について理解する	講義
4	子どもの生活と健康問題について理解する	講義
5	子どもと家族を取り巻く保健、福祉を理解する	講義
6	小児看護で用いられる概念と理論・その活用について理解する	講義
7	成長発達のとらえ方、原則とその評価、 乳児期にある子どもの成長・発達と看護を理解する	講義
8	幼児期にある子どもの成長・発達と看護を理解する	講義
9	学童期にある子どもの成長・発達と看護を理解する	講義
10	思春期にある子どもの成長・発達と看護を理解する	講義
11	子どもの成長・発達を支える家族を支援する意義を理解する	講義、演習
12	子どもの生活の実際とそこにある家族の思いを知る	演習
13	子どもを支える家族のあり方とその状況を捉えた看護を理解する	講義
14	小児看護の役割拡大とその意義を理解する	講義
15	子どもの育みと家族を支える看護の視点を振り返ることができる	講義・筆記試験
備考	12回の演習は赤ちゃん先生を運営するNPO 法人から赤ちゃん和妈妈を迎えて行う	
受講上の注意	各回の学習内容を関連する科目から復習するとともに、本科目の使用テキストで予習しておくこと 12回目の演習は11回目の演習の体験と連動するものであるため、続けて参加することが望ましい	
評価方法	出席状況、レポート、提出物、筆記試験による総合評価	
使用テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院	

科目名 次世代の命をつなぐ人々の健康		配当時期 1年次 後期 単位数 2 単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 人体の構造と機能Ⅲ（息をする、循環、血液、生殖器）、疾病と治療Ⅰ（検査、放射線、内分泌・代謝、女性生殖器）、女性の健康に関連した新聞記事を探し、内容について調べておく			
科目全体のねらい・授業目標 女性の生涯を通じた母性の健康の維持・増進・疾病予防を目的として、次世代の健全育成を目指す看護実践のための知識を理解する リプロダクティブヘルスに関する概念や倫理的課題と看護について学ぶ			
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1 2	あらゆる視点から「親になること」について考える 1)オリエンテーション 2)母性・父性・親性の発達 3)親になるということ 生物学的、社会的、文化的、発達心理学的な意味 4)母親になるということ 家族の役割 愛着・母子形成における理論		講義 演習
3 4 5	母性看護における理論と概念について理解できる 1)母性看護における主要な理論と概念 2)愛着・母子形成における理論 3)母親役割における理論 4)性と生殖に関する理論 リプロダクティブヘルス/ライツ セクシュアリティとジェンダー 性意識の発達・性同一性障害(性別違和) 5)女性の生涯の健康における理論 ヘルスプロモーション ウェルネス プレコンセプションケア		講義 演習
6 7	母性看護の歴史を知り、社会政策との関連を理解できる 1)母性看護の変遷と社会の動向 母性看護に関わる施策 2)母子保健統計からみる母性看護の変遷		講義 演習
8 9	人の生殖におけるメカニズム、性と生殖における多様性について理解できる 1)生殖に関する生理（女性の一生を通して） 2)人の発生と性分化のメカニズム・性分化疾患		講義 演習
10 11 12	女性の一生を通じた健康課題と支援について考え理解できる 1)女性のライフサイクル 2)思春期の身体・心理・社会的特徴と健康問題 3)成熟期の身体・心理・社会的特徴と健康問題 4)更年期の身体・心理・社会的特徴と健康問題 5)老年期の身体・心理・社会的特徴と健康問題		講義 演習
13 14	女性の健康に関する課題と倫理(多職種の連携を含む)について討論し看護を考える 1)HIV・STIに感染した女性に対する看護(予防を含む) 2)性暴力に対する看護(DV・強姦と性的同意) 3)人工妊娠中絶と看護 4)児童虐待予防の看護(愛着形成やボンディング障害との関連から) 5)災害時における女性と妊産婦・新生児への支援 6)外国人妊産婦への支援		演習 発表 課題
15	学習のまとめ 1)次世代の命をつなぐ人々の健康における看護の役割についてのまとめ 2)終講試験		講義 試験
評価方法 筆記試験 70%、レポート(課題提出含む)、グループワークの発表 30%、平常点による総合評価			
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 医学書院			
参考文献 中込さと子編:「概論・リプロダクティブヘルスと看護」「母性看護の実践」メディカ出版 有森直子:「母性看護学Ⅰ」医歯薬出版 大平光子編「母性看護学Ⅰ 概論・ライフサイクル」南江堂 渡邊浩子編:母性看護学① 母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護 メディカルフレンド社 渡邊浩子編:母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メディカルフレンド社 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			

科目名	人の暮らしとこころの健康	配当時期	1年次 後期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容 心理学のうち、こころについて学習したことを復習する				
科目全体のねらい・授業目標 個々人のこころのはたらきについて理解する 精神看護の歴史を学習することで、現在の制度や地域での支援について理解することができる				
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	人のこころについて理解できる(自我機能・不安)			講義
2	こころの働きについて理解できる(こころの理論・発達段階・防衛機制)			講義
3	不安がこころの健康に与える影響を理解できる。(自殺・自傷行為)			講義
4	家族とこころの健康の関連について理解できる(家族役割・家族療法)			講義
5	災害や危機状況がこころの健康に与える影響について理解できる。 (災害時の危機・発達段階での危機・医療現場における危機)			講義
6	精神看護における予防について理解できる(障がいへの捉え方・一～三次予防)			講義
7	精神看護の基本的な考え方が理解できる。(ストレス・リカバリー・ストレングス)			講義
8	精神科医療の現状が理解できる(DVD 視聴し、国民の意識、自分の考えを意識する)			講義・DVD
9	精神医療の歴史的な流れが理解できる(ギリシャ時代から近代医学へ)			講義
10	精神看護についての法制度の歴史が理解できる (明治時代からの精神保健福祉)			講義
11	現在の精神看護に関わる制度について理解できる (1980 年以降の人権擁護、地域移行の動き)			講義
12	精神看護における行動制限と倫理について理解できる (個人の権利保障と一時的制限)			講義
13	地域の精神障がい者の現状について理解できる(精神障がいを持ちながら地域で暮らす人を支えること・地域で生活するための原則)			講義
14	精神看護における社会資源・サービスについて理解できる (相談支援・医療にかかわるサービス・生活を支えるサービス・一般就労に向けたサービス・当事者のエンパワメントのためのサービス)			講義
15	学習のまとめと評価			講義・筆記試験
備考 必要に応じて資料を配布します				
受講上の注意				
評価方法	筆記試験 100%			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野	精神看護の基礎	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野	精神看護の展開	医学書院	
	系統看護学講座 別巻	精神保健福祉	医学書院	

分野【人と暮らし】人と社会

科目名 看護場面における英会話	配当時期 3年次 前期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	担当者
事前学習内容		
科目全体のねらい・授業目標 英語に親しみ、看護場面における英語表現や伝達能力を高め、多様な文化を持つ人々の理解を深める機会とする		
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を实践する力 3) 看護の対象である人を生活者として捉え、文化的背景が人々の生活や価値観に影響を及ぼすことが理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	日常英会話 英語表現の基礎 日常英会話について慣れ、授業時間内で英語を使って他者と会話することができる	講義 演習
2	日常英会話	講義 演習
3	日常英会話	講義 演習
4	医療・看護場面における英会話 医学・看護用語	講義 演習
5	医療・看護場面における英会話 医学・看護用語	講義 演習
6	医療・看護場面における英会話 医学・看護用語	講義 演習
7	医療・看護場面における英会話 医学・看護用語	講義 演習
8	医療・看護場面における英会話 医学・看護用語	講義 1～8回の内容について 中間筆記試験
9	医療・看護場面における英会話 医学・看護用語	講義 演習
10	医療・看護場面における英会話 医学・看護用語	講義 演習
11	医療・看護場面における英会話 医学・看護用語	講義 演習
12	医療・看護場面における英会話 医学・看護用語	講義 演習
13	医療・看護場面における英会話 医学・看護用語	講義 演習
14	医療・看護場面における英会話 医学・看護用語	講義 演習
15	パフォーマンステスト	試験
備考		
受講上の注意 授業はすべて日常英会話で進められ、積極的に発言、会話することが求められる		
評価方法 出席状況と筆記による中間試験及び看護場面の英語会話を評価		
使用テキスト クリスティーンのやさしい英会話 医学書院		
参考文献		

科目名 教育学	配当時期 1年次 後期 単位数 1単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容		
科目全体のねらい・授業目標 教育学の基礎的な知識を習得し、医療職者として対象者と関わる際に教育的な視点の必要性について理解する		
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 3) 看護の対象である人を生活者として捉え、文化的背景が人々の生活や価値観に影響を及ぼすことが理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	教育の概念について知る 教育とはなにか	講義
2	教育の対象について知る 教育と子ども観と発達。	講義
3	社会変動と教育について知る	講義
4	4～8 回 教育をなりたいさせる要素を理解する 学ぶ、教えることの意味を知る	講義
5	他者との関わりを導く 訓育の技法	講義
6	養護（看護 ケア 教育 養護）	講義
7	発達と教育	講義
8	8～11 回教育実践の基礎知識を理解する 学びの場 学校と家庭	講義
9	教育の目標と評価	講義
10	教育のデザイン	講義
11	教育の担い手 教育環境の変化	講義
12	12～14 回 現代教育の課題について理解する キャリア教育	講義
13	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	講義
14	シティズンシップ教育	講義
15	学習のまとめと評価	講義 筆記試験
備考		
受講上の注意		
評価方法 出席状況と筆記試験による総合評価		
使用テキスト 系統看護学講座 別巻 教育学		
参考文献		

科目名	家族社会学	配当時期	1年次 後期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容				
科目全体のねらい・授業目標 家族と社会の変化とそれに伴い生じている諸問題を題材に社会学の基本的な考え方を学びながら、人間をとりまく社会に共通の課題を理解し、社会のなかで生きる自己および他者を認識する能力を養う				
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 3)看護の対象である人を生活者として捉え、文化的背景が人々の生活や価値観に影響を及ぼすことが理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	人間の社会の特徴について理解する			講義
2	現代における家族と社会の様々なリスクについて知る			講義
3	3～5 回 家族のかたちとはたらきについて理解する ①親子関係と社会関係について理解する			講義
4	②核家族の概念について知る ジェノグラムの作成方法・演習			講義
5	③伝統的な家制度から現代の家族関係への変化を理解する			講義
6	婚姻関係の変化から家族のかたちの多様性について理解する			講義
7	家族をとりまく集団や組織について理解する			講義
8	男女の賃金格差から家族や社会におけるジェンダー・ギャップについて考える			講義
9	少子化と育児を支える社会について理解する			講義
10	生殖補助技術の発達と家族関係の変化について理解する			講義
11	貧困・格差が社会や家族に与える影響について理解する			講義
12	高齢者と家族について理解する			講義
13	変化する家族と社会のなかの介護について理解する			講義
14	変化する家族と社会のなかの死について理解する			講義
15	学習のまとめと評価			講義 筆記試験
備考 講義ごとにテーマに沿ったミニレポートの提出を課す				
受講上の注意				
評価方法 出席状況ミニレポートと筆記試験による総合評価				
使用テキスト				
講師作成プリント				
参考文献 系統看護学講座 基礎分野 社会学				

科目名 情報科学 I	配当時期 1年次 前期 単位数 1単位 時間数 15 時間(8 回)	担当者
事前学習内容		
科目全体のねらい・授業目標 ICT の基礎を理解し、安全にインターネットを利用する知識を得る ワードの基本操作を習得する		
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 3)看護の対象である人を生活者として捉え、文化的背景が人々の生活や価値観に影響を及ぼすことが理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	情報セキュリティの基礎	講義
2	情報リテラシー(PC 操作の基礎)	演習
3	情報科学の考え方とその理解	講義
4	Word1 書式	演習
5	Word2 図表	演習
6	Word3 複雑な書式	演習
7	Word4 総合演習	演習
8	Word5 終講試験	課題作成による評価
備考		
受講上の注意 受講には各自USBメモリを準備すること。 演習は情報科学室で実施する。各自割り当てられた番号PCを指定の机に準備して受講する		
評価方法 出席状況と課題作成で評価		
使用テキスト 系統看護学講座 別巻 看護情報学 プリント 参考文献		

科目名 暮らしと文化	配当時期 2年次 前期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	担当者
事前学習内容		
科目全体のねらい・授業目標 暮らしに根差す文化の多様性と普遍性を知り、医療や健康障害を文化の視点で見つめ、人類と人間個々を広い視野で理解する能力を養う		
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 3) 看護の対象である人を生活者として捉え、文化的背景が人々の生活や価値観に影響を及ぼすことが理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	文化人類学の概要を理解する 暮らしに根差す文化を考える	講義
2	医療人類学の歴史。基本概念を理解する 医療人類学の歴史・基本概念	講義
3	3～4回 多元的医療論について理解する 多元的医療論①	講義
4	多元的医療論②	講義
5	胎児を人間としてみなす基準の違いについて理解する 胎児をめぐる文化	講義
6	6～8回 家族と生殖補助医療をめぐる課題について考えることができる 家族をめぐる文化①	講義
7	家族をめぐる文化②	講義
8	家族をめぐる文化③	講義
9	9～10回 精神医療の社会について理解する 精神医療と社会①	講義
10	精神医療と社会②	講義
11	11～12回 身体をめぐる文化的社会的背景について理解する 身体をめぐる文化①	講義
12	身体をめぐる文化②	講義
13	13～14回 老いと死の文化的意味を理解する 老いをめぐる文化①	講義
14	老いをめぐる文化②	講義
15	学習のまとめと評価	講義 筆記試験
備考		
受講上の注意		
評価方法 出席状況と筆記試験による総合評価		
使用テキスト プリント		
参考文献 系統看護学講座 基礎分野 文化人類学		

科目名	看護と法律	配当時期	3年次 前後期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容 各看護学領域で学習した法律について復習しておくこと				
科目全体のねらい・授業目標 専門職業人として、保健医療福祉に関する法律について理解できる 社会人として必要な法律について理解できる				
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 3) 看護の対象である人を生活者として捉え、文化的背景が人々の生活や価値観に影響を及ぼすことが理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	法の概念について理解できる 法とは 法の種類 法の分類 法の制度 憲法について 条文の読み方			講義
2	法の概念について理解できる 覚えておくべき法律用語 社会保障法について 衛生法について 厚生労働行政の仕組み 看護と法:看護を巡る法と制度 保健師助産師看護師法について(沿革と用語の定義)			講義
3	看護と法 保健師助産師看護師法の構造と付属法令 保健師助産師看護師法(看護職の定義・免許など)			講義
4	保健師助産師看護師法について (籍の登録・国家試験・学校・業務)			GW・
5	保健師助産師看護師法について (研修・義務・医療過誤と罰則)			GW
6	保健師助産師看護師法について理解できる			GW・発表
7	看護師等の人材確保の促進に関する法律について ナースセンターについて 看護職員の就業状況・看護師陽性の状況			講義
8	医療法について理解できる			講義
9	(医療法の目的・定義・広告・設備・記録・医療計画・医療の安全・医療提供体制)			
10	医療法について理解できる(医療事故と医療過誤、医療事故と医療法ついて 看護師が負う法的責任について 看護師等の行政処分と再教育について)			講義
11	医療関係資格法(医師法 歯科医師法 薬剤師法 診療放射線技師 臨床検査技師 理学療法士及び作業療法士など)			講義
12	薬務法について薬事一般に関する法律 麻薬・毒物などの法			講義
13	保健衛生法:臓器移植に関する法律 がん対策基本法 自殺対策基本法 母体保護法 感染症予防に関する法律 難病患者に対する医療に関する法律 社会保険法:健康保険法			
14	労働と社会基盤整備:労働基準法 労働安全衛生法 育児休業 介護休業に関する法律 雇用保険法 DV 防止法 社会福祉に関する法律			講義
15	保健師助産師看護師法について再確認 学習のまとめ			講義・終講試験
備考 必要に応じて追加資料を配布することがあります				
受講上の注意 実際に働くうえだけでなく、社会人としても必要な科目であることを意識して学習しましょう				
評価方法 筆記試験 80% 出席状況・レポート提出状況を含む平常点 20%				
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 医学書院				

科目名 地域の特徴と人々の暮らし	配当時期 1年次 前期・後期 単位数 1 単位 時間数 20 時間(10 回)	担当者
事前学習内容 西宮市の概要について調べておく（所在地・各年代の人口分布・歴史・文化財など）		
科目全体のねらい・授業目標 1. 西宮市の特徴を理解する 2. 地域で暮らす人々の生活と環境との関連を理解する		
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 3) 看護の対象である人を生活者として捉え、文化的背景が人々の生活や価値観に影響を及ぼすことが理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	・暮らしとは ・暮らしと健康との関係 ・暮らしのなかで健康をとらえる ・地域・在宅看護の基盤となる考え方 ・地域・在宅看護に求められる役割	講義 演習
2	地域の特徴を理解できる ・西宮市の各地域の特性とブランドについて	講義
3	地域で暮らす人々について理解する① ・西宮市の人口分布と各世代への支援(子育て支援、学童への支援など)	演習
4	地域で暮らす人々について理解する② ・西宮市の人口分布と各世代への支援(働いている人への支援・高齢者、障害のある人への支援)	演習
5	ライフステージと関連づけて看護の対象となる人々について理解する③ ・調べ学習した内容を発表する	発表
6	西宮市の地域に暮らす人々の生活を理解できる① ・フィールドワークで環境(文化的・自然・社会的)が生活にどう影響しているのかを考える	演習
7	西宮市の地域に暮らす人々の生活を理解できる② ・フィールドワークで環境が生活にどう影響しているのかを考える	演習
8	西宮市の地域に暮らす人々の生活と環境との関連を理解する③ ・フィールドワークで生活と環境との関連について調査した内容をグループでまとめる	演習
9	地域に暮らす人々の生活と環境との関連を理解する④	発表
10	学習のまとめ 「地域の特徴と人々の暮らしを通して健康を考える」 ・西宮市の特徴とそこに暮らす人々の生活と環境との関連を理解した上で、生活環境が健康に与える影響について考える	レポート
備考 ・夏休み 地域の支援の実際を知るための、1 日ボランティア活動がある ・フィールドワークは 10 月から 12 月の間に実施する		
受講上の注意 演習が多いため、メンバーの一員として貢献できるように考えて行動することを期待する		
評価方法 ①個人課題レポート 40 点 ②パフォーマンス課題 24 点 ③知識確認テスト 20 点④出席・その他(授業・夏休みの課題) 16 点		
使用テキスト 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 1 医学書院		
参考文献		

分野【看護の実践】疾病の回復と看護

科目名	病理総論	配当時期	1年次 前期	担当者
		単位数	1 単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容	人体の構造と機能Ⅰ 細胞・組織についての復習をすること 人体の構造と機能Ⅲ 循環器系 血液のはたらき等関連する内容を復習すること			
科目全体のねらい・授業目標	病気の原因やなりたちを理解する			
DPとの関連	DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象に生じている疾病・症状の関連と回復促進の方法が理解できる			
回	学習内容と成果			方法
1	病理学で何を学ぶか、概要を理解する 病理学とは 病理学を学ぶ意義 病気の原因、 病気の分類			講義
2	細胞・組織の損傷とその原因を理解する ① 適応現象:委縮、肥大と過形			講義
3	細胞・組織の損傷とその原因を理解する ② 細胞の死:壊死 ③細胞の変性 ④間質の変性 ⑤色素沈着			講義
4	細胞・組織の損傷に対する反応としての炎症について理解する ① 局所の炎症反応 ②創傷治癒			講義
5	細胞・組織の損傷に対する反応としての炎症について理解する ② 炎症の種類と治療			講義
6	免疫と免疫反応について理解する ① 免疫とは 獲得免疫・自然免疫、ワクチン、液性免疫・細胞性免疫			講義
7	免疫と免疫反応について理解する ② 免疫不全 ③アレルギー ④自己免疫疾患 ⑤移植と拒絶反応			講義
8	循環障害によっておこる症状、病気のメカニズムを理解する ① 浮腫 ②充血とうっ血 ③出血 ④血栓症 ⑤塞栓症			講義
9	循環障害によっておこる症状、病気のメカニズムを理解する ⑥虚血 ⑦梗塞 ⑧高血圧 ⑨DIC ⑩ショック			講義
10	代謝障害によって生じる主な疾患について理解する ①脂質代謝障害 ②タンパク質代謝障害 ③糖質代謝障害 ④痛風 ⑤黄疸			講義
11	老化のメカニズムと細胞・組織・臓器の変化を理解する ①老化のメカニズム			講義
12	先天異常や遺伝性疾患とその原因を理解する ①先天性奇形 ②染色体異常 ③遺伝子の異常と疾患			講義
13	腫瘍とその発生原因を理解する ①腫瘍の分類 ②腫瘍の増殖・浸潤・広がり ③がんの進行度			講義
14	腫瘍とその発生原因を理解する ①腫瘍の発生機序 ②腫瘍の発生因子			講義
15	学習のまとめと試験			筆記試験
備考				
受講上の注意	毎回、復習すること			
評価方法	筆記試験 100%			
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学			
参考文献				

科目名 薬理学	配当時期 1年次 後期 単位数 1単位 時間数 15 時間(8 回)	担当者
事前学習内容 肝臓、腎臓のはたらき、について復習する		
科目全体のねらい・授業目標 薬理学の基礎知識や薬物の管理について理解する		
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象に生じている疾病・症状の関連と回復促進の方法が理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	薬理学で何を学ぶかの概要を理解する 医薬品の基礎知識(医薬品とは、形状と特徴)を理解する	講義
2	薬が作用するしくみについて理解する ① 薬理受容体 ② 薬の体内挙動(投与経路、代謝と排泄、薬物動態)	講義
3	薬が作用するしくみについて理解する ③ 薬物相互作用	講義
4	薬効の個人差に影響する因子について理解する 対象特性、	講義
5	薬物使用の有益性と危険性を理解する ① 用量 ②副反応 ③耐性 ④依存	講義
6	薬に関する法律やルールについて理解する 医薬品に関する法律 薬に関する単位 処方箋 添付文書	講義
7	チーム医療における看護師の役割について理解する 地域医療のなかでの薬物療法 薬物療法における看護師の役割	講義
8	学習の評価	筆記試験
備考		
受講上の注意		
評価方法 筆記試験 100%		
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学		
参考文献		

科目名 臨床薬理	配当時期 2年次 前期 単位数 1単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 薬が作用するしくみについて復習する		
科目全体のねらい・授業目標 さまざまな疾患や症状に対して使用される薬物についての基礎知識を理解する		
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を解決するために行動できる		
回	学習内容と成果	方法
1	感染症治療に関する薬物の基礎知識を理解する 抗感染症薬 抗菌薬 抗ウイルス薬	講義
2	がん治療に関する薬物の基礎知識を理解する 抗がん薬	講義
3	免疫治療薬に関する薬物の基礎知識を理解する 免疫反応の復習 免疫抑制薬 免疫増強薬 予防接種薬	講義
4	抗アレルギー薬と抗炎症薬の基礎知識を理解する 抗ヒスタミン薬 抗アレルギー薬 抗炎症薬 抗リウマチ薬	講義
5	物質代謝に作用する薬物の基礎知識を理解する 糖尿病治療薬 甲状腺疾患治療薬 ビタミン	講義
6	末梢神経での神経活動に作用する薬物の基礎知識を理解する 自律神経系作用薬 交感神経系作用薬 副交感神経作用薬	講義
7	末梢神経での神経活動に作用する薬物の基礎知識を理解する 筋弛緩薬 局所麻酔薬 前進麻酔薬	講義
8	中枢神経系に作用する薬物の基礎知識を理解する 催眠薬 抗不安薬 向精神病薬 抗うつ薬	講義
9	中枢神経系に作用する薬物の基礎知識を理解する パーキンソン症候群治療薬 抗てんかん薬 麻薬性鎮痛薬	講義
10	循環器系に作用する薬物の基礎知識を理解する 高血圧治療薬	講義
11	循環器系に作用する薬物の基礎知識を理解する 狭心症治療薬 心不全治療薬 抗不整脈薬 脂質異常症治療薬	講義
12	血液系に作用する薬物の基礎知識を理解する 抗血液凝固薬 血栓溶解薬 抗血小板薬 貧血薬 血液悪性腫瘍治療薬 輸血剤	講義
13	呼吸器系に作用する薬物の基礎知識を理解する 気管支喘息治療薬 鎮咳薬・去痰薬 呼吸促進薬	講義
14	消化器系に作用する薬物の基礎知識を理解する 消化性潰瘍治療薬 制吐薬 止痢薬 急性中毒に対する薬物の基礎知識を理解する 薬物中毒	講義
15	学習のまとめと評価	講義 筆記試験
備考		
受講上の注意		
評価方法 筆記試験 100%		
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学		
参考文献		

科目名 疾病と治療Ⅰ (検査、放射線、内分泌・代謝、女性生殖器)		配当時期 1年次 後期 単位数 1単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 「内分泌・代謝」「女性生殖器」については関連する「人体の構造と機能」の復習をする			
科目全体のねらい・授業目標 1. 検査・治療の目的と方法及び生体への影響を理解する 2. 内分泌・代謝・女性生殖機能の障害のメカニズムおよび主要疾患の病態生理・検査・治療・処置について理解する DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象に生じている疾病・症状の関連と回復促進の方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	臨床検査とその役割について理解する 臨床検査の種類、臨床検査の場面と目的 臨床検査の流れについて理解する 検査の流れ、臨床検査の準備と説明、検体の採取方法、保存・移送、		講義
2	検査に伴う危険とその防止について理解する 検査実施過程、患者に起こりうる危険、感染予防、		講義
3	一般検査の種類と意味を理解する 尿検査、便検査 血液学的検査の種類と意味を理解する 血球検査、出血・凝固検査		講義
4	生化学的検査の種類と意味を理解する 血清タンパク質、血清酵素、糖代謝、腎機能、水・電解質		講義
5	医療における放射線医学の役割について理解する 放射線とは、画像診断の役割、放射線治療の役割 画像診断の特徴を理解する X 線診断の特徴、CT の特徴、MRI の特徴		講義
6	放射線治療の原理、特徴を理解する 放射線の種類、照射法の種類、有害反応		講義
7	放射線による障害と防護について理解する 放射線障害、放射線防護		講義
8	内分泌・代謝障害の診断における主な検査を理解する 内分泌疾患の検査、代謝疾患の検査 脂質異常症の診断・治療に関連した検査		講義
9	内分泌・代謝障害における主要疾患の病態生理と治療について理解する 内分泌疾患(視床下部一下垂体系疾患、甲状腺疾患、副腎疾患、性腺疾患)		講義
10	内分泌・代謝障害における主要疾患の病態生理と治療について理解する 代謝疾患(脂質異常症、肥満症、尿酸代謝異常)		講義
11	内分泌・代謝障害における主要疾患の病態生理と治療について理解する 代謝疾患(糖尿病)		講義
12	女性生殖器に発生する疾患の病態生理と治療について理解する 外陰部の疾患、膣の疾患、性感染症		講義
13	女性生殖器に発生する疾患の病態生理と治療について理解する 子宮の疾患、卵管の疾患、卵巣の疾患		講義
14	女性生殖器に発生する疾患の病態生理と治療について理解する 乳房の疾患		講義
15	女性生殖器に発生する疾患の病態生理と治療について理解する 機能的疾患(月経異常、月経随伴症状、不妊症)		講義
備考			
受講上の注意			
評価方法 筆記試験 100%			
使用テキスト	臨床検査 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 放射線治療 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 内分泌・代謝 系統看護学講座 専門分野 内分泌・代謝 医学書院 女性生殖器 系統看護学講座 専門分野 女性生殖機能 医学書院		
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 医学書院		

科目名 疾病と治療Ⅱ (呼吸、循環器機能障害)		配当時期 1年次 後期 単位数 1単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 呼吸器、循環器の構造とはたらきに関する「人体の構造と機能」について復習をする			
科目全体のねらい・授業目標 呼吸・循環障害のメカニズムや主要疾患の病態生理と検査・治療・処置について理解する			
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象に生じている疾病・症状の関連と回復促進の方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	呼吸器のしくみと機能について理解する(復習) 呼吸器疾患に伴うおもな症候と発生機序について理解する 咳嗽、喀痰、血痰・咯血、胸痛		講義
2	呼吸器疾患に伴うおもな症候と発生機序について理解する 呼吸の異常、チアノーゼ、ばち指		講義
3	呼吸器疾患の診療と診断の流れを理解する 身体所見、検査、画像診断、内視鏡検査、呼吸機能検査 ガス交換検査		講義
4	呼吸器疾患・症状の治療・処置について理解する 吸入療法、酸素療法、気道確保、人工呼吸器療法 呼吸リハビリテーション、胸腔ドレナージ		講義
5	呼吸器疾患の病態と治療について理解する 感染症、間質性肺炎		講義
6	呼吸器疾患の病態と治療について理解する 気道疾患、肺循環疾患		講義
7	呼吸器疾患の病態と治療について理解する 肺腫瘍		講義
8	循環器のしくみと機能について理解する(復習) 循環器疾患に伴うおもな症候と発生機序について理解する 胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、ショック		講義
9	循環器疾患の診療と診断の流れを理解する 心電図、胸部レントゲン、心エコー、心臓カテーテル法、血行動態モニタリング		講義
10	循環器疾患・症状の治療・処置について理解する 薬物療法の基礎、PCI、ペースメーカー、外科的治療、補助循環装置		講義
11	循環器疾患の病態と治療について理解する 虚血性心疾患		講義
12	循環器疾患の病態と治療について理解する 心不全		講義
13	循環器疾患の病態と治療について理解する 不整脈		講義
14	循環器疾患の病態と治療について理解する 弁膜症、心膜疾患、先天性疾患、血管系疾患		講義
15	学習のまとめと評価		講義 筆記試験
備考			
受講上の注意			
評価方法:筆記試験 100%			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 循環器 医学書院		
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 医学書院		

科目名 疾病と治療Ⅲ (排泄・運動・脳・神経障害))		配当時期 1 年次 後期 単位数 1 単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 関連する器官の構造とはたらき(人体の構造と機能)を復習する			
科目全体のねらい・授業目標 排泄機能・運動機能・脳・神経機能の障害のメカニズムおよび主要疾患の病態生理、検査、治療、処置について理解する			
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象に生じている疾病・症状の関連と回復促進の方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	排泄機能(腎・泌尿器)障害における主な症状について理解する 尿の異常、腫脹・腫痛、腎疾患による浮腫		講義
2	排泄機能障害の診断における主な検査について理解する 診察法、尿検査、腎機能検査、画像検査 経尿道的操作および内視鏡検査、尿流量検査		講義
3	排泄機能が障害される主要疾患の病態生理と治療について理解する 尿路・性器の感染症、尿路の通過障害と機能障害		講義
4	排泄機能が障害される主要疾患の病態生理と治療について理解する 尿路結石、腫瘍、腎盂腎炎、先天性異常、男性不妊症、性機能障害		講義
5	排泄機能が障害される主要疾患の病態生理と治療について理解する 腎不全、慢性腎臓病、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、腎盂腎炎		講義
6	運動機能障害における主要な症状について理解する 疼痛、形態の異常、関節運動の異常		講義
7	運動器機能障害の診断における主な検査について理解する 神経診察、画像検査、筋電図、関節		講義
8	運動機能が障害される主要疾患の病態生理と治療・処置について理解する 骨折、脱臼、関節リウマチ		講義
9	運動機能が障害される主要疾患の病態生理と治療・処置について理解する 関節の変形性疾患、骨腫瘍		講義
10	運動機能が障害される主要疾患の病態生理と治療・処置について理解する 先天性疾患、脊椎の疾患		講義
11	脳・神経機能障害における主な症状について理解する 意識障害、高次脳機能障害、運動機能障害、感覚器障害		講義
12	脳・神経機能障害の診断における主な検査について理解する 神経学的診察、画像診断、電気生理学的検査、脳脊髄液検査		講義
13	脳・神経障害機能が障害される主要疾患の病態生理と治療・処置について理解する 脳血管疾患(クモ膜下出血、脳出血、		講義
14	脳・神経障害機能が障害される主要疾患の病態生理と治療・処置について理解する 脳血管疾患(脳梗塞、脳腫瘍)		講義
15	脳・神経障害機能が障害される主要疾患の病態生理と治療・処置について理解する 脊髄疾患、末梢神経障害、脳炎、てんかん		講義
備考			
受講上の注意			
評価方法 筆記試験 100%			
使用テキスト	排泄機能障害 運動機能障害 脳・神経機能障害	系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 専門分野	腎・泌尿器 医学書院 運動器 医学書院 脳・神経 医学書院
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野	病態生理学	医学書院

科目名 疾病と治療Ⅳ (消化・感覚・血液造血器・アレルギー)		配当時期 1年次後期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	担当者
事前学習内容 関連する器官の構造とはたらき(人体の構造と機能)について復習して受講すること			
科目全体のねらい・授業目標 消化機能、感覚機能、血液造血機能の障害およびアレルギー疾患のメカニズムおよび主要疾患の病態生理・検査・治療・処置について理解する			
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象に生じている疾病・症状の関連と回復促進の方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	消化吸収障害における主要疾患の病態生理と診断・治療を理解する	食道疾患	講義
2	消化吸収障害における主要疾患の病態生理と診断・治療を理解する	胃・十二指腸疾患	講義
3	消化吸収障害における主要疾患の病態生理と診断・治療を理解する	腸および腹膜疾患	講義
4	消化吸収障害における主要疾患の病態生理と診断・治療を理解する	肝臓・胆道の疾患	講義
5	消化吸収障害における主要疾患の病態生理と診断・治療を理解する	膵臓の疾患	講義
6	感覚機能障害(皮膚)の主要疾患の症状と診断・治療について理解する 湿疹・皮膚炎、感染症(蜂窩織炎、带状疱疹)、全身性エリテマトーデス		講義
7	感覚機能障害(視覚)の主要疾患の症状と診断・治療について理解する 網膜・硝子体疾患、水晶体疾患、角膜疾患		講義
8	感覚機能障害(聴覚・鼻)の主要疾患の症状と診断・治療について理解する 耳疾患、鼻疾患、咽頭疾患、口腔・咽頭疾患、頸部疾患		講義
9	感覚機能障害(口腔)の主要疾患の症状と診断・治療について理解する 齲歯、歯周病、口腔粘膜の疾患、顎関節症		講義
10	血液・造血機能障害の主要な疾患の症状・診断・治療・処置について理解する 造血のしくみと血液のはたらき(復習)		講義
11	血液・造血機能障害の主要な疾患の症状・診断・治療・処置について理解する 赤血球系の異常(貧血)、白血球系の異常		講義
12	血液・造血機能障害の主要な疾患の症状・診断・治療・処置について理解する	造血器腫瘍	講義
13	血液・造血機能障害の主要な疾患の症状・診断・治療・処置について理解する	出血性疾患	講義
14	アレルギー疾患の症状と診断・治療・処置について理解する 薬物アレルギー、アナフィラキシー		講義
15	アレルギー疾患の症状と診断・治療・処置について理解する 気管支喘息、食物アレルギー		講義
備考			
受講上の注意			
評価方法 筆記試験 100%			
使用テキスト			
消化吸収障害	系統看護学講座 専門分野	消化器 医学書院	
感覚機能障害	系統看護学講座 専門分野	皮膚 医学書院	
	系統看護学講座 専門分野	眼 医学書院	
	系統看護学講座 専門分野	耳鼻咽喉 医学書院	
	系統看護学講座 専門分野	歯・口腔 医学書院	
血液・造血機能障害	系統看護学講座 専門分野	血液・造血器 医学書院	
アレルギー疾患	系統看護学講座 専門分野	アレルギー・膠原病・感染症 医学書院	
参考文献 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 医学書院			

科目名 健康と公衆衛生	配当時期 2年次後期 単位数 1単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容		
科目全体のねらい・授業目標 健康生活に影響する環境および健康問題の現状及び組織的な公衆衛生活動について理解する		
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象に生じている疾病・症状の関連と回復促進の方法が理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	1～3 回 公衆衛生の概要を理解する 公衆衛生の考え方	講義
2	公衆衛生システムと政策	講義
3	公衆衛生の理念、概念	講義
4	公衆衛生活動における疫学、統計情報収集、活用について理解する 公衆衛生のものさし①	講義
5	公衆衛生のものさし②	講義
6	6～9 回 年齢ごとの健康の状況および施策について理解する 子どもと保健	講義
7	高齢者と保健	講義
8	成人の健康づくり①	講義
9	成人の健康づくり②	講義
10	10～14 回様々な健康の施策について理解する 精神保健 精神保健福祉	講義
11	難病	講義
12	健康管理と災害	講義
13	感染症 学校保健	講義
14	産業保健 環境保健	講義
15	試験	試験
備考		
受講上の注意		
評価方法 出席状況と筆記試験による総合評価		
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院		
参考文献		

科目名 リハビリテーション概論		配当時期 1年次 後期 単位数 1単位 時間数 15 時間(8 回)	担当者
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 リハビリテーションの概要とリハビリテーション看護について理解する			
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を解決するために行動できる			
回	学習内容と成果		方法
1	リハビリテーションの定義と理念について理解する リハビリテーションの歴史、定義、目標 リハビリテーションの分野		講義
2	リハビリテーションの対象と制度について理解する 障害者の定義、法律と制度、障害の分類と状況 疾病・障害・生活機能の分類		講義
3	リハビリテーション医療の提供について理解する 経過別にみるリハビリテーション 連携職種、多職種連携のあり方		講義
4	リハビリテーション看護について理解する リハビリテーション看護の定義、看護の対象		講義
5	リハビリテーション看護について理解する リハビリテーション看護の方法 アセスメント、ADL 評価、援助方法		講義
6	リハビリテーションの実際を体験する 杖、松葉杖の処方とその指導方法 ベッド⇄車椅子の移乗動作		実技演習
7	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護について理解する 急性期～回復期までの症状と問題点 高次脳機能障害		講義
8	学習の評価		筆記試験
備考			
受講上の注意			
評価方法 筆記試験 100%			
使用テキスト 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院			
参考文献			

科目名	疾病・障害を持つ高齢者の看護	配当時期 2年次 前期 単位数 1 単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 高齢者の身体の特徴を復習しておいてください。看護を考える「経過別看護」の急性期、回復期、慢性期の定義を復習しておいてください。			
科目全体のねらい・授業目標 ・高齢者に特徴的な疾患・症状、治療・処置を理解する ・老年看護の視点と高齢者の自立生活の維持・拡大に焦点を当てた看護の基本を理解する			
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象に生じている疾病・症状の関連と回復促進の方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	老年看護の役割と機能が理解できる 1) 老年看護の成り立ち 2) 老年看護の役割 3) 老年看護における理論		講義
2	高齢者とのコミュニケーションの基本が理解できる 1) 高齢者とのコミュニケーションとかかわり方 2) コミュニケーション能力のアセスメント		講義・演習
3	高齢者の生活機能を支える援助が理解できる(基本動作・転倒・廃用症候群・フレイル) 1) 高齢者の日常生活を支える看護		講義・演習
4	高齢者のヘルスアセスメントができる-摂食・嚥下食生活の支援が理解できる		講義 ゲストティーチャー
5	高齢者のヘルスアセスメントができる-皮膚ケアの理解できる 1) 高齢者の皮膚のヘルスアセスメント 2) 褥瘡・スキン・ケア		講義 ゲストティーチャー
6	老年期に多い健康障害と疾患が理解できる 1) 高齢者に多い循環器疾患		講義・演習
7	老年期に多い健康障害と疾患が理解できる 1) 高齢者に多い呼吸器疾患		講義・演習
8	老年期に多い健康障害と疾患が理解できる 1) パーキンソン症候群 2) 骨粗鬆症		講義・演習
9	認知症とその看護を理解できる①		講義
10	認知症とその看護を理解できる②		講義
11	高齢者の治療処置に伴う看護が理解できる 1) 入院治療を受ける高齢者の看護 2) 検査を受ける高齢者の看護		講義
12	高齢者の健康状態別看護が理解できる 1) 高齢者の急性期看護		講義
13	高齢者の健康状態別看護が理解できる 1) 高齢者のリハビリテーション		講義
14	高齢者の健康状態別看護が理解できる 1) 高齢者の慢性期(維持期)看護		講義
15	学習のまとめ		講義・試験
備考 第4回・5回の高齢者のヘルスアセスメント、第9回・10回の認知症と看護はゲストティーチャーを招く			
受講上の注意 高齢者の身体的特徴を踏まえ、社会的情報にも関心を持ちながら、高齢者に特有な健康障害や疾患の学習を進める			
評価方法 筆記試験 80%・レポート等 20%			
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
参考文献 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社			

分野【看護の実践】 看護を考える

科目名 保健指導論	配当時期 2年次 前・後期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	担当者
事前学習内容 ヘルスプロモーションの意味、ライフサイクルと発達、関連する法律、法令について復習する		
科目全体のねらい・授業目標 健康教育の基本となる理論と活用方法について学び、個人・集団を対象とした健康教育の企画・実施に必要な知識や技術を理解する		
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	保健指導論 保健指導とは 公衆衛生看護とは 公衆衛生看護における保健指導とは ヘルスプロモーションと健康支援環境	講義
2	公衆衛生看護学概論: 1.生涯にわたる各段階(発達段階)、健康レベルに応じた保健サービス A. 生涯にわたる各段階(発達段階)に応じた保健サービス B. 健康レベルに応じた各種サービス	講義
3	保健指導の基本 公衆衛生看護技術 1. 保健指導:保健指導の目的と変遷 2. 保健指導の場面 3. 保健指導における役割	講義
4	地域の健康問題の構造	講義
5	保健行動理論と保健指導で活用できる理論	講義
6 7	健康教育企画書・指導案作成	演習
8	健康教育発表会・評価	講義 演習
9	職場・地域における健康診断と看護職の役割 健康診断の企画と実施手順・事後指導・生活習慣病の保健指導・特定保健指導	講義
10	母子保健の動向 母性各期の健康課題と保健指導 ・乳幼児期の成長発達と保健指導・健康上のリスクをもつ母子への保健指導	講義
11	成人保健指導における保健指導 成人の保健の動向 成人期の動向と保健指導	講義
12	高齢者保健指導 高齢者保健の動向 高齢者の生活と保健指導 在宅高齢者と家族への保健指導	講義
13	精神保健指導 精神保健の動向 精神障害者と生活上の障害と保健指導 難病保健指導	講義
14	ストレスチェック メンタルヘルス保健指導	講義
15	学習のまとめと評価	講義 筆記試験
備考		
評価方法 筆記試験 70% 課題提出 20% 平常点 10%		
使用テキスト 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 講師プリント		

科目名	看護技術の基本	配当時期	1 年次 前期	担当者
		単位数	1 単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する				
科目全体のねらい・授業目標 看護を実践するために共通して必要な基本的知識・技術・態度を習得する。(対象の安全・安楽・自立の視点、観察・記録・報告、対象に合わせたコミュニケーションの方法と媒体の工夫)				
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し 解決するための方法が理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	看護技術とは何かを考えることができる 1) 技術とは 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術の範疇 4) 看護技術の適切な実践(安全・安楽・自立と倫理的配慮)			講義
2	看護におけるコミュニケーション技術の基本と実際が理解できる 1) コミュニケーションの意義と目的 2) 関係構築のためのコミュニケーションの基本 話し方、聞き方の技術 3) 情報収集・説明の技術 4) アサーティブ行動			講義
3	コミュニケーション障害がある人への対応がわかる 1) オープンドクエスチョンとクローズドクエスチョン 2) 手話言語			講義 演習
4	看護における観察・記録・報告の技術の基本が理解できる 1) 観察・記録・報告 看護における情報の取り扱いについて考えることができる 1) 情報における看護師の責務・倫理的配慮			講義
5	看護における情報伝達と共有 1) 看護チームカンファレンス			講義・演習
6	看護における学習支援の対象者と看護の役割がわかる 1) 学習の基礎知識 2) 学習支援の対象者とニーズ 3) 看護の役割			講義
7	学習支援の技術として、支援の進め方や指導方法、教材がわかる			講義
8	事例を通して、学習支援の実際について学ぶ 1) 効果的な学習支援の方法の探求			講義/演習
9	事例を通して、学習支援の実際について学ぶ 1) 健康教育の実際とリフレクション			演習
10	感染予防の基礎が理解できる 1) 感染と感染症 2) 感染成立の条件および感染予防 3) 院内感染の防止			講義
11	感染予防の基礎が理解できる 1) 標準予防対策(スタンダードプリコーション) 2) 感染経路別予防策			講義
12	医療器具の管理および感染性廃棄物の取り扱いが理解できる 1) 洗浄・消毒・滅菌 2) 無菌操作 3) 感染性廃棄物の取り扱い			講義
13	感染予防の基本的技術を実践できる			技術演習
14	1) 手指衛生 2) PPE 3) 個人防護用具の装着(ガウンテクニック、滅菌手袋の装着) 3) 無菌操作			【感染予防】
15	学習のまとめと評価			講義・筆記試験
備考 第3回の講義はゲストティーチャーによる講義				
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること				
評価方法 出席状況、提出物、筆記試験による総合評価				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
参考文献 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア				

科目名	フィジカルアセスメント	配当時期	1 年次 前期	担当者
		単位数	1 単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容 各回の学習内容に関連する人体の構造と機能の学習内容を復習する 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する				
科目全体のねらい・授業目標 看護の対象の身体的状況を、解剖生理の知識を活かし、五感を使って把握するための基礎的な知識・技術・態度を習得する				
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	ヘルスアセスメントの意義と目的が理解できる 1)ヘルスアセスメントとは 2)ヘルスアセスメントにおける観察と視点 3)フィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション 4)健康歴とセルフケア能力のアセスメント			講義
2	健康歴とセルフケア能力のアセスメントができる 1)健康歴の情報収集 2)セルフケア能力のアセスメント 3)情報の整理			講義
3	フィジカルアセスメントに必要な技術が理解できる 1)フィジカルアセスメントに必要な技術 2)全身状態・全体印象の把握(身長・体重・体型)			講義 演習
4	バイタルサインの観察とアセスメントができる(体温) 1)バイタルサインとは 2)体温の理解とアセスメント 3)体温測定の方法			講義 演習
5	バイタルサインの観察とアセスメントができる(血圧) 1)血圧の理解とアセスメント 2)血圧測定の方法			講義 演習
6	バイタルサインの観察とアセスメントができる(脈拍・呼吸) 1)脈拍・呼吸の理解とアセスメント 2)脈拍測定の方法 3)呼吸の観察方法			講義 演習
7.8	バイタルサイン測定の方法を実践できる 1)体温測定の方法 2)脈拍測定の方法 3)血圧測定の方法 4)呼吸の観察			技術演習 【バイタルサイン測定】
9	外皮系と四肢のフィジカルイグザムとアセスメントが理解できる			講義 演習
10	頭・頸部、感覚器系、神経・意識のフィジカルイグザムとアセスメントが理解できる			講義 演習
11	胸部(心臓・血管系と呼吸器系)のフィジカルイグザムとアセスメントが理解できる			講義 演習
12	腹部のフィジカルイグザムとアセスメントが理解できる			講義 演習
13.14	フィジカルイグザミネーションの方法を実践できる 1)フィジカルイグザミネーションの実際 (呼吸音聴診の方法、腹部の聴診・触診を中心に)			技術演習 【フィジカル イグザミネーション】
15	フィジカルアセスメントの学習内容の振り返り 技術試験と筆記試験			講義 筆記試験
備考 技術習得のため、タスクトレーニングを実施。タスクトレーニング終了後、技術試験を実施				
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること				
評価方法 出席状況、提出物、筆記試験による総合評価				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア				

科目名 生活をささえる看護技術Ⅰ (環境・食事)		配当時期 1 年次 前期 単位数 1 単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 人体の構造と機能(摂食に関する機能)の復習 「看護覚え書き」第 1. 2. 8. 9 章を読む 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する			
科目全体のねらい・授業目標 対象が日常生活を円滑に営めるよう、身の回りを整える。また、食事摂取、栄養代謝に関する健康障害を持つ対象の看護を実践するための知識・技術・態度を習得する			
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し 解決するための方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	看護における環境を理解する 1) 環境とは 2) 人と環境(物理的環境、人的環境とは) 3) 生活環境とは	講義	
2	療養生活環境が理解できる 1) 療養環境とは 2) 生活環境の調整 病室の環境のアセスメントと調整方法が理解できる 1) 病室の選択 2) 温度・湿度・光と音・色彩・匂い・人的環境	講義	
3	病床を整える援助の実践が理解できる 1) ベッド周囲の環境整備 2) 安全を考えた病床整備の実践 3) 療養環境の援助に関わる倫理的配慮	講義 演習	
4	環境整備の技術が実践できる	技術演習【環境整備】	
5.6	ベッドメイキングの技術が実践できる	技術演習【ベッドメイキング】	
7.8	リネン交換の技術が実践できる	技術演習【リネン交換】	
9	看護における食事援助の基礎知識が理解できる 1) 人にとっての食事の意義 2) 栄養状態のアセスメント(栄養・水分・食欲) 3) 食事援助に関わる倫理的配慮	講義	
10	食事援助に必要な摂食嚥下の基礎知識が理解できる 1) 摂食・嚥下機能の基礎知識 2) 摂食行動のアセスメント 3) 摂食に必要な口腔内環境 4) 医療機関で提供される食事の種類と形態 5) 非経口的栄養摂取の援助	講義	
11	看護における食事摂取の援助(食事介助・口腔ケア)ができる	技術演習 【食事介助・口腔ケア】	
12	食欲不振・低栄養など栄養・代謝に関連する症状を示す対象者への看護が理解できる	講義 演習	
13.14	食欲不振・低栄養など栄養・代謝に関連する症状を示す対象者への看護が実践できる	シミュレーション	
15	生活をささえる看護技術Ⅰの学習内容の振り返りができる	筆記試験	講義 筆記試験
備考 技術習得のため、【ベッドメイキング】のタスクトレーニングを実施。タスクトレーニング終了後に技術試験を実施する 受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること			
評価方法 出席状況、提出物、筆記試験による総合評価			
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 参考文献 看護覚え書き 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版 看護過程に沿った対症看護 学研			

科目名 生活をささえる看護技術Ⅱ (活動・休息)	配当時期 1年次 前期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	担当者
事前学習内容 人体の構造と機能(面・筋・関節・脳神経・感覚器) キャリア支援Ⅰ(重力・重心線・摩擦・てこの原理・力のモーメント)の復習 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する		
科目全体のねらい・授業目標 対象が日常生活を円滑に営めるように活動・休息をとるための知識・技術・態度を習得する		
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し 解決するための方法が理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	人が活動するための構造と機能、意義が理解できる 1) 基本的活動の基礎知識 2) 姿勢の基礎知識 3) 良肢位・関節可動域	講義
2	看護における活動援助の意義が理解できる 1) 姿勢の生理学的影響 2) 廃用症候群 3) ボディメカニクスの原理 4) 関節可動域訓練	講義 演習
3	様々な体位とその目的が理解できる 1) 基本体位と特殊体位 2) 体位変換 3) 安楽な体位・ポジショニング	講義 演習
4	体位変換の援助を実践できる	技術演習【体位変換】
5	安全・安楽・自立を考えた活動援助が理解できる 1) 日常生活活動のアセスメント 2) 様々な方法での移動の援助 3) 活動援助を実施する際の倫理的配慮	講義
6.7	安全・安楽・自立を考えた移動援助を実践できる	技術演習【移動・移乗】
8	睡眠と休息の意義が理解できる 1) 1人にとっての睡眠の意義 2) 睡眠の種類 3) 睡眠のメカニズム 4) 睡眠障害のアセスメント	講義
9	睡眠・休息の基礎知識と援助方法が理解できる 1) 援助の基礎知識 ①睡眠の種類とメカニズム ②睡眠障害のアセスメント 2) 睡眠休息の援助 ①体内時計のリズム調整 ②睡眠習慣 ③睡眠を妨げる因子 ④入眠を促す援助	講義 演習
10	睡眠・休息・安楽確保の技術が理解できる 1) 寝法の援助と基礎知識 2) 身体ケアを通じてもたらされる安楽の援助と基礎知識	講義 演習
11	看護における苦痛の緩和・安楽確保の援助技術を実践できる	技術演習【寝法】
12	活動・休息・痛み(認知・知覚)に関連する症状を示す対象者への看護を考えることができる	講義 演習
13.14	活動・休息・痛み(認知・知覚)に関連する症状を示す対象者への看護を実践できる	シミュレーション
15	生活をささえる看護技術Ⅱの学習内容の振り返りができる 筆記試験	講義 終講試験
備考		
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること		
評価方法 出席状況、提出物、筆記試験による総合評価		
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 医学書院 系統看護学講座 別巻 「リハビリテーション看護」医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会		

科目名	生活をささえる看護技術Ⅲ (清潔)	配当時期 単位数 時間数	1 年次 前後期 1 単位 30 時間 (15 回)	担当者
事前学習内容 人体の構造と機能(骨格・関節)と形態機能学(皮膚)の復習 身の回りの繊維と被服の成り立ちについての観察と記録 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する				
科目全体のねらい・授業目標 対象が日常生活において、身体の清潔を保つ意義・目的を理解する。その上で、対象の状況に合わせた清潔の援助の種類・方法の選択、援助の際の観察を行うための知識・技術・態度を習得する				
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1)対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を解決するために行動できる				
回	学習内容と成果			方法
1	身体を清潔に保つ意義・日常生活における清潔の援助の基本的知識・技術・態度が理解できる。 1)人にとっての清潔の意義 2)日常生活における清潔 3)清潔援助における倫理的配慮 4)清拭援助における観察と留意点			講義
2	衣生活の基礎知識と療養生活での衣生活の援助について理解できる 1)被服をきることの意義 2)熱生産・熱放散・被服機構 3)被服の成り立ちと素材の種類・特徴 4)被服・病衣の選択			講義
3.4	安全・安楽を考えた寝衣交換の援助が実践できる			技術演習【寝衣交換】
5	療養生活での清潔の援助の実践がわかる(入浴・シャワー浴・全身清拭) 1)対象者の状態に応じた援助の決定と留意点 2)入浴・シャワー浴の基礎知識 3)全身清拭の基礎知識			講義
6.	安全安楽な清潔援助を実施するための準備・方法がわかる。 安全安楽な方法で、部分清拭ができる			技術演習【部分清拭】
7.8	安全・安楽を考えた全身清拭の援助が実践できる			技術演習【全身清拭】
9	療養生活での清潔の援助の実践がわかる(部分浴・陰部洗浄) 1)部分浴の援助の基礎知識と留意点 2)陰部洗浄の基礎知識と留意点			講義
10.11	安全・安楽を考えた部分浴・陰部洗浄の援助が実践できる			技術演習 【部分浴・陰部洗浄】
12	療養生活での清潔の援助の実践がわかる(洗髪) 1)洗髪の援助の基礎知識 2)対象の生活の場に応じた洗髪の援助 3)整容の援助の基礎知識			講義
13.14	安全・安楽を考えた洗髪・整容の援助を実践できる			技術演習【洗髪・整容】
15	生活をささえる看護Ⅲの学習の振り返りができる 筆記試験			講義 終講試験
備考 技術習得のため、タスクレーニングを実施する				
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること 事前課題の内容については、レポート提出および授業内で確認テストを行う				
評価方法 出席状況、提出物、筆記試験による総合評価				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 参考文献 看護覚え書き 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版 看護過程に沿った対症看護 学研				

科目名	生活をささえる看護技術Ⅳ (排泄)	配当時期	1 年次 後期	担当者
		単位数	1 単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容 人体の構造と機能(腎・泌尿器・消化器)の復習 感染予防で習得したスタンダードプリコーション、無菌操作の技術の復習 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する				
科目全体のねらい・授業目標 対象が排泄を適切に行うための知識・技術・態度を習得するため。また、排泄に症状を示す対象者に適切な援助を提供する				
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を解決するために行動できる				
回	学習内容と成果			方法
1	排泄の援助の意義とメカニズムが理解できる 1) 人にとっての排泄の意義 2) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム			講義
2	排泄のアセスメントができる 1) 排尿、排便のアセスメント 2) 排泄動作のアセスメント			講義
3	自然排尿・自然排便の援助の方法がわかる① 1) トイレ・ポータブルトイレ・床上での排泄 2) 排泄援助時の倫理的配慮			講義 演習
4	自然排尿・自然排便の援助の方法がわかる② 1) 排泄援助に必要な排泄用具 2) オムツ			講義 演習
5.6	自然排尿・自然排便の援助が実践できる			技術演習【オムツ交換・排泄用具】
7	排便困難のある患者への援助方法が理解できる 1) 浣腸 2) 摘便			講義
8	排尿困難のある患者への援助方法が理解できる 1) 一時的導尿 2) 持続的導尿			講義
9.10	浣腸・摘便の援助が実践できる			技術演習【浣腸・摘便】
11.12	一時的導尿・持続的導尿の援助が実践できる			技術演習【導尿】
13.14	排泄に関連する症状を示す対象者への看護が実践できる			シミュレーション
15	生活をささえる看護Ⅳの学習の振り返りができる 筆記試験			講義 終講試験
備考				
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること				
評価方法 出席状況、提出物、筆記試験による総合評価				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 参考文献 看護覚え書き 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版 看護過程に沿った対症看護 学研				

科目名	経過別看護	配当時期	1 年次 後期	担当者
		単位数	1 単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する				
科目全体のねらい・授業目標 健康障害にある患者を経過別に理解し、健康状態に応じた看護を考えるための基本的な知識・技術を理解する				
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を解決するために行動できる				
回	学習内容と成果			方法
1	経過別看護の概要が理解できる 1) 急性期、慢性期、回復期、終末期とは 2) 対象を 3 側面で捉える			講義
2	健康障害を持つ人の基本的な考え方が理解できる 急性期における看護を考えることができる 1) 事例紹介 2) 事例患者の援助の必要性を考える			講義
3	事例患者に必要な援助計画を考えることができる			講義 演習
4・5	事例患者に必要な援助(CPR・吸引・吸入・酸素療法)を実践できる			技術演習 【心肺蘇生(CPR)吸引・吸入・酸素療法・】
6	慢性期における看護を考えることができる 1) 慢性期とは 慢性期の疾患・治療の特徴 慢性期患者の特徴とニーズ 2) 慢性期の経過を捉える情報収集の視点 3) 事例紹介			講義
7	事例患者の情報を整理して、対象を理解する 1) 三側面の視点で情報を整理する			講義 演習
8	事例患者にとって援助の必要性を考える 1) 事例患者に必要な援助を立案できる			演習
9	回復期における看護を考えることができる 1) 回復期とは 回復期の疾患・治療の特徴 回復期患者の特徴とニーズ 2) 回復期の経過を捉える情報収集の視点 3) 事例紹介 事例患者の情報を整理して、対象を理解する 1) 三側面の視点で情報を整理する			講義
10	事例患者に必要な援助計画を考えることができる			講義 演習
11・12	事例患者に必要な援助計画を考えることができる 事例患者に必要な援助を実践できる			シミュレーション
13	終末期における看護を考えることができる 1) 死に近づく人について 終末期の特徴 2) 終末期医療の特徴 終末期医療の倫理的課題 3) 終末期患者・家族の全人的苦痛 ACP			講義
14	事例患者に必要な援助計画を考えることができる 1) 終末期患者の看護 2) 終末期患者のニーズ: 身体的ニーズ・心理的ニーズ・社会的ニーズ・スピリチュアルなニーズ 3) 終末期患者の看護援助: 緩和ケア・痛みのケア・真実の告知・家族への援助・グリーフケア 4) エンゼルケアについてその方法と留意点分かる			講義・演習
15	終末期にある対象を理解し必要な看護を考える 健康障害のある患者の経過別に適切な看護の振り返りができる 学習のまとめ 筆記試験			講義 終講試験
備考				
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること				
評価方法 出席状況、筆記試験、レポートによる総合評価				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 参考文献 看護過程に沿った対症看護 学研				

科目名	看護を考える道のり	配当時期	2年次 前期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	30時間(15回)	
事前学習内容 ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」を読み、事前課題レポートを提出				
科目全体のねらい・授業目標 紙上事例において、対象の経過と個別性に応じた看護活動を科学的・系統的に展開するために、問題解決過程を踏んで看護過程を理解する				
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を解決するために行動できる				
回	学習内容と成果			方法
1	看護過程の意義と基礎的理論が理解できる 1) 援助の必要性について考える			講義
2	看護過程の5つの構成要素が理解できる① 情報収集のための視点とその内容 代表的なアセスメントの枠組み 1) ヘンダーソンの14の基本的欲求 2) ゴードンの11の機能的パターン			講義
3	看護過程の5つの構成要素が理解できる② 情報収集のための視点とその内容			講義
4	看護過程の5つの構成要素が理解できる③ (アセスメント・看護上の問題の抽出)			講義
5	看護過程の5つの構成要素が理解できる④ (計画の立案・実施・評価)			講義
6	事例の情報整理ができる			講義・演習
7	事例の病態関連図が書ける			講義・演習
8	事例の看護過程が理解できる(アセスメント・看護上の問題の抽出)			講義・演習
9	事例の看護過程が理解できる(アセスメント・看護上の問題の抽出)			演習
10	事例の看護過程が理解できる(関連図と計画の立案)			講義・演習
11	事例の看護過程が理解できる(関連図と計画の立案)			演習
12	実施・評価の考え方が理解できる			講義
13	事例の看護計画を立案できる			演習
14	事例の看護計画の発表ができる			発表
15	看護を考えるみちのりの学習内容の振り返りができる 筆記試験			講義 終講試験
備考				
受講上の注意 グループでの演習が多くなりますが、個々が理解して(理解しようとして)取り組むこと				
評価方法 出席状況、筆記試験、レポートによる総合評価				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]「基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 NANDA-Ⅰ 看護診断一定義と分類 医学書院 参考文献 看護の基本となるもの 日本看護協会出版 看護過程に沿った対症看護 学研				

科目名	診断・治療をささえる看護	配当時期	2 年次 前期	担当者
		単位数	2 単位	
		時間数	45 時間(23 回)	
事前学習内容 人体の構造と機能(血管の走行)と薬理学の薬物動態について復習しておくこと 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する				
科目全体のねらい・授業目標: 健康障害を持つ対象を把握し、その状況に応じた看護の原則及び方法を理解する 診療の補助・治療別に対象を捉え、それに適用する看護援助の知識・技術・態度を習得する				
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護に必要な基礎が理解できる 1)身体侵襲とは 2)身体侵襲を伴う検査・治療の種類 3)身体侵襲を伴う検査・治療における看護師の役割			講義
2	身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護が理解できる 1)血液検査 2)放射線検査(単純・造影・血管造影) 3)MRI			講義
3	身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護が理解できる 1)内視鏡検査 2)超音波検査 3)血管造影 4)その他の検査			講義
4.5	身体侵襲を伴う検査の援助技術が実践できる :検体検査(採血)を受ける患者の援助技術			技術演習【静脈血採血】
6	与薬の基礎知識を得ることができる 1)剤形と吸収経路 2)看護師の役割 ①正しい与薬②薬の管理			講義
7	与薬経路に応じた援助が理解できる 1)経口与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬の援助の基礎知識 2)安全・安楽な援助の実際			講義
8	経口薬・経皮・外用薬・坐薬の投与ができる			技術演習【与薬】
9	注射の基礎知識を得ることができる			講義
10	注射の種類に応じた援助が理解できる 1)皮下注射・皮内注射・筋肉内注射の実施法 2)安全・安楽な注射の援助の実際			講義・演習
11	静脈内注射・輸液療法を受ける対象者への看護が理解できる 1)静脈内注射・点滴静脈内注射と管理 2)輸液療法			講義 演習
12	筋肉内注射を実践できる			技術演習【筋肉内注射】
13	化学療法を受ける対象者への看護が理解できる 1)化学療法の基礎知識 2)化学療法を受ける患者・家族への看護			講義 演習
14	輸血を受ける対象者への看護が理解できる 1)輸血の基礎知識 2)輸血の援助の実際			講義/演習
15・16	輸液療法・輸血の援助が実施できる			技術演習 【輸液療法・輸血】
17	医療機器の原理と実際が理解できる 1)医療機器を安全に使うために 2)測定用医療機器の原理と実際 3)治療用医療機器の原理と実際 4)医療機器使用時の看護			講義
18	手術療法を受ける対象者への看護を考えることができる 1)手術療法とは 2)周手術期の看護 3)手術療法の進歩 4)手術の経過と生体反応			講義
19	術前患者の援助技術がわかる 1)術前患者の特徴 2)術前検査と処置 3)術前オリエンテーション 4)術前訪問と心理的援助 5)インフォームドコンセントと術前看護師の役割			講義
20	術中患者の援助技術がわかる 1)術中患者の特徴 2)手術室における看護師の役割			講義演習
21	術後患者の援助技術がわかる① 1)術後患者の特徴 2)全身麻酔を受ける患者への援助 3)術直後から麻酔覚醒までの援助			講義/演習
22	術後患者の援助技術がわかる② 1)麻酔覚醒から創傷癒合までの援助:弾性ストッキング ドレーンの種類 創傷管理の方法 2)社会復帰への援助 3)集中治療を受ける対象者への看護			講義 演習
23	学習の評価			筆記試験
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること				
評価方法 出席状況、レポート、筆記試験による総合評価				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 看護がみえる Vol.1. 2. 3. メディックメディア				
参考文献 看護過程に沿った対症看護 学研				

科目名 在宅療養者とその家族の暮らしと健康をささえる看護	配当時期 2 年次 前期・後期 単位数 2 単位 時間数 45 時間(23 回)	担当者
事前学習内容 慢性心不全、COPD、神経難病、医療行為(在宅酸素療法・経管栄養・褥瘡など)について学習しておくこと		
科目全体のねらい・授業目標 1. 在宅療養者とその家族の暮らしと健康を支える看護実践について理解できる		
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し決するための方法が理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	在宅療養生活を支える基本姿勢や技術がわかる ・地域・在宅看護実践とは ・地域・在宅看護実践に欠かせない要素 ・セルフケアを支える対話、コミュニケーション	講義
2	・地域・在宅看護における家族を支える看護	講義
3	・地域・在宅看護における安全を守る技術 ・療養環境調整に関する地域・在宅看護技術	講義 演習
4	・地域・在宅における時期別看護(在宅療養準備期・在宅療養移行期・安定期・急性増悪期・終了期)	講義
5	在宅看護技術の実践について理解できる ・褥瘡 ・在宅酸素療法、人工呼吸療法 ・胃ろう ・中心静脈栄養 ・服薬管理	講義 演習
6	医療行為(在宅酸素療法)に伴う援助技術	講義
7	医療行為(気管内吸引・口腔内吸引・鼻腔吸引)に伴う援助技術	講義
8	医療行為(中静脈栄養・経鼻胃管チューブの挿入・経管栄養)に伴う援助技術	演習
9	在宅療養と食事(嚥下と栄養)の援助技術 ・在宅療養における食生活の特徴 ・援助の技術と実際	講義 演習
10	在宅療養と排泄の援助技術(おむつ交換・ポータブルトイレ・尿失禁・便失禁・摘便) ・在宅療養の場における排泄の基本 ・社会資源の活用と調整	講義 演習
11	在宅療養と清潔の援助技術(簡易クレーパッドの作成) ・在宅療養の場における清潔と更衣の特徴 ・社会資源と多職種連携	演習
12	在宅療養と移乗・移動の援助技術(福祉用具の活用) ・在宅における移動と肢位の保持の重要性・移動能力に関わる身体機能のアセスメント	演習
13	在宅におけるリハビリテーションの実際 ・生活リハビリテーションの基本 ・障害や状態に応じた生活リハビリテーション	演習
14	・エイジレスセンター見学	見学
15	事例を用いた看護過程の展開の実際①(慢性心不全)	講義・演習
16	事例を用いた看護過程の展開の実際②(慢性閉塞性肺疾患)	
17	事例を用いた看護過程の展開の実際③(神経難病)	
18	パフォーマンス課題	演習
19		
20	災害サイクルと地域における看護活動について理解できる ・災害サイクル別の在宅療養者支援	講義
21	地域における減災・防災の取り組み①	演習
22	地域における減災・防災の取り組み②	演習
23	学習のまとめ	筆記試験
備考 14回目はエイジレスセンターへ見学		
受講上の注意 生活をささえる看護技術Ⅰ～Ⅳについて学習することを期待します		
評価方法 筆記試験 60%・課題提出 30%・出席状況 10%		
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 ・ 地域・在宅看護の実践 医学書院		

科目名 おとなの暮らしをささえる看護Ⅰ (周手術期看護)		配当時期 2年次 後期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	担当者
事前学習内容 人体の構造 病態生理の基礎知識(胃がん) フィジカルアセスメント(バイタルサイン)の復習 経過別看護 (手術を受ける患者の看護)			
科目全体のねらい・授業目標 手術侵襲を受ける人の術前・術後の看護の特徴と援助方法について理解する			
DPとの関連DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	周手術期の概念が理解できる クリニカルパス 多職種連携		講義
2	麻酔による身体侵襲の影響と回復過程が理解できる 全身麻酔 術中体位 侵襲と生体反応		講義/演習
3	術前検査とアセスメント 術前の身体の準備		
4	手術による身体侵襲の影響と回復過程が理解できる 腹腔鏡下手術		講義/演習
5	術後合併症の予防		
6	疼痛マネジメント		
7			
8	術直後の看護がわかる。回復促進の看護がわかる 対象理解・アセスメント・関連図		講義/演習
9	回復促進の支援 退院支援		
10	術後1日目の看護の実践がイメージできる		演習
11	回復促進の支援ができる		技術演習
12	術後1日目の看護		
13	回復促進の支援が理解できる 退院支援		講義/演習
14	術中の看護がわかる		講義
15	学習のまとめと評価		講義 筆記試験
備考 胃切除術を受ける患者の事例を使って周手術期の看護を学ぶ 事前課題を提示します。小テストの実施あり			
受講上の注意			
評価方法 出席状況、レポート、筆記試験による総合評価			
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 はじめてのドレーン管理 メディカ出版			
参考文献			

科目名 おとなの暮らしをささえる看護Ⅱ (急性期)	配当時期 2年次 前期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	担当者
事前学習内容 呼吸・循環の解剖生理 緊張性気胸に関する検査と治療 心筋梗塞に関する検査と治療について復習する		
科目全体のねらい・授業目標 急性期にある人の身体・心理・社会的特徴を理解し、看護の特徴および援助方法について理解する		
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	急性期看護についての理解ができる 生命の危機状態	講義
2	急性期にある人の特徴が理解できる 侵襲刺激に対する生体反応 急性期の心理的反応 健康破綻による危機状況	講義
3	急性期にある人々への看護援助が理解できる① 危機にある人々への支援 合併症予防	講義
4	急性期にある人々への看護援助が理解できる② モニタリング 疼痛管理 環境調整 多職種との連携	講義
5	急性の呼吸機能障害のある患者の看護が理解できる (呼吸機能の解剖生理、病態と症状)	講義
6	急性の呼吸機能障害のある患者の看護が理解できる (検査・治療に伴う看護)	講義/演習
7	緊張性気胸を発症した患者の看護について考えることができる ①情報収集	演習
8	緊張性気胸を発症した患者の看護について考えることができる ②アセスメント・看護計画立案	演習
9	急性の循環機能障害のある患者の看護について考えることができる ①循環機能の解剖生理、病態と症状の関連についての復習	講義
10	急性の循環機能障害のある患者の看護について考えることができる ②検査・治療に伴う看護	講義
11	急性の循環機能障害のある患者の看護について考えることができる ③検査・治療に伴う看護	講義/演習
12	心筋梗塞患者の看護について考えることができる ①情報収集	演習
13	心筋梗塞患者の看護について考えることができる ②アセスメント	演習
14	心筋梗塞患者の看護について考えることができる ③看護計画立案	演習
15	学習のまとめと評価	講義 筆記試験
備考 7～8、12～14 は事例展開、 9～11 回はゲストティーチャーによる講義		
受講上の注意		
評価方法 平常点(出席状況、提出物)10% 筆記試験 90%		
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 はじめてのドレーン管理 メディカ出版		
参考文献		

科目名 おとなの暮らしをささえる看護Ⅲ (リハビリ期)		配当時期 2年次 前期 単位数 1単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 心理学:ライフサイクルと発達(成人期)を復習する。成人看護学総論:障害がある人の生活とリハビリテーション、成人看護学「脳・神経」:脳神経系の構造と機能、クモ膜下出血、成人看護学「運動器」脊髄損傷を予習する			
科目全体のねらい・授業目標 1. リハビリ期にある人の特徴を理解し、看護について理解することができる 2. 機能障害のある人のセルフケア確立への看護の特徴と援助方法を理解することができる			
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	リハビリ期にある人の特徴と援助方法を理解することができる		講義
2	セルフケア確立を支援する看護について理解することができる セルフケアの概念、看護におけるセルフケア、セルフケア確立を支援する人的システム		講義
3	セルフケアのアセスメントと評価について理解することができる アセスメントの視点 1)生活維持レベル 2)生活基本行動レベル 3)社会生活レベル		講義
4	セルフケアのアセスメントと評価について理解することができる セルフケアのアセスメントの内容と方法		講義
5	セルフケアの低下した状態にある人を理解することができる セルフケア確立の支援において考慮すべき要素・喪失体験、障害の受容と再獲得への支援		講義
6	セルフケアの低下した状態にある人を理解することができる セルフケア確立の支援において考慮すべき要素:・学習の困難さに合わせた援助・人的・物的環境の整備		講義
7	セルフケアの低下した状態にある人を理解することができる セルフケア再獲得プロセスにおける心理・精神的変化(障害受容)		講義
8	脳卒中でリハビリテーションを必要とする人のセルフケア確立への看護が理解できる 病態の理解		講義/演習
9	脳卒中でリハビリテーションを必要とする人のセルフケア確立への看護が理解できる 患者の特徴をふまえた看護計画 セルフケアを再獲得する援助		講義/演習
10	脳卒中でリハビリテーションを必要とする人のセルフケア確立への看護が理解できる 患者の特徴をふまえた看護計画 社会復帰をふまえた具体的な援助		講義/演習
11	脊髄損傷でリハビリテーションを必要とする人のセルフケア確立への看護が理解できる 病態の理解		講義/演習
12	脊髄損傷でリハビリテーションを必要とする人のセルフケア確立への看護が理解できる 患者の特徴をふまえた看護計画 セルフケアを再獲得する援助		講義/演習
13	脊髄損傷でリハビリテーションを必要とする人のセルフケア確立への看護が理解できる 患者の特徴をふまえた看護計画 社会復帰をふまえた具体的な援助		講義/演習
14	地域で障害を持ちながら暮らしている人を理解することができる 地域で障害を持ちながら暮らしている人(当事者)の講話		講義
15	学習のまとめと評価		講義試験
備考 8～10、11～13 は事例展開 (病態関連図) 14 回はゲストティーチャーによる講義			
受講上の注意 1～7での学習内容が8～13 での事例展開でのアセスメントの内容につながります 実習で使用する記録用紙を用いて事例展開を行います			
評価方法 平常点(出席状況、提出物 10%) 筆記試験 90%			
使用テキスト 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10]「運動器」 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 「脳・神経」 医学書院			

科目名 おとなの暮らしをささえる看護Ⅳ (慢性期)		配当時期 2年次 前期 単位数 1単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 講義 経過別看護・慢性期における看護、人体の構造と機能Ⅱ (内部環境の恒常性) ・ 腺ホルモン系の機能 人体の構造と機能Ⅱ (内部環境の恒常性) ・ 腎臓のしくみとはたらき、代謝と栄養 ・ 糖代謝 について復習する			
科目全体のねらい・授業目標 1. 慢性期にある人の暮らしや療養の特徴を理解することができる 2. 疾病の自己管理が必要な人の看護の特徴とセルフマネジメントにむけた援助方法を理解することができる			
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	慢性期にある人の特徴と援助方法を理解することができる		講義
2	対象理解と援助方法を理解することができる 対象理解について 援助方法 評価の方法		講義
3	糖尿病の理解することができる 疾患の概要 糖尿病の分類 糖尿病の診断 糖尿病の治療		講義
4	糖尿病について理解することができる 糖尿病の治療 糖尿病の慢性合併症 糖尿病の急性合併症		講義
5	糖尿病患者のセルフマネジメント支援の方法を理解することができる 各理論の特徴 各理論の活用方法 ①		講義/演習
6	糖尿病患者のセルフマネジメント支援の方法を理解することができる 各理論の特徴 各理論の活用方法 ②		講義/演習
7	糖尿病患者のセルフマネジメント支援の方法を理解することができる ①患者が必要とする技術(自己血糖測定・インスリン自己注射)		講義/演習 DVD視聴
8	糖尿病患者のセルフマネジメント支援の方法を理解することができる ②セルフマネジメント能力を高めるための支援の方法 セルフモニタリング 看護師の役割		
9	糖尿病患者のセルフマネジメント支援の方法を理解することができる ③疾患を持ちながら生活するために必要な支援		
10	腎不全について理解することができる 診断基準 慢性腎不全の症状 慢性腎不全の治療		講義
11	腎不全患者のセルフマネジメント支援を理解することができる 血液透析療法を受ける患者の理解		講義
12	腎不全患者のセルフマネジメント支援を理解することができ 血液透析を受ける患者の事例展開 事例患者が疾患を抱えながら生活するための課題は何か、事例患者に必要な支援は何か		演習
13	腎不全患者のセルフマネジメント支援を理解することができる 血液透析を受ける患者の事例展開 事例患者が疾患を抱えながら生活するための課題は何か、事例患者に必要な支援は何か		演習
14	腎不全患者のセルフマネジメント支援を理解することができる 血液透析を受ける患者の事例展開 事例患者が疾患を抱えながら生活するための課題は何か、事例患者に必要な支援は何か		演習
15	学習のまとめ		講義・試験
備考 11 回はゲストティーチャーによる講義			
受講上の注意: 病態とその治療をふまえて学習を進めます 事例展開に必要なアセスメントにつながるよう学習を進めましょう			
評価方法 平常点 (出席状況 提出物)10% 筆記試験 90%			
使用テキスト 系統看護学講座 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎泌尿器 医学書院			

科目名 がん看護	配当時期 2 年次 後期 単位数 1 単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 成人期の発達課題 大腸の構造と機能 血液の組成と機能 経過別看護(終末期)を復習しておく		
科目全体のねらい・授業目標 がん患者の身体的・精神的・社会的を総合的に理解する 患者のおかれている状況と患者や家族が直面している課題を解決するための看護を考える		
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2)対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	がん看護の対象を理解することができる がん看護の対象となる患者のすがた 看護のポイント 病の軌跡	講義
2	がん医療の現在を理解することができる がんを取り巻く状況 エビデンスに基づく看護実践	講義
3	がんサバイバーシップケアについて理解することができる がんサバイバーシップとは がんサバイバーシップケアとは	講義
4	がん治療に対する看護について理解することができる(薬物療法①)	講義
5	がん治療に対する看護について理解することができる(薬物療法②)	講義
6	がん治療に対する看護について理解することができる(放射線療法)	講義
7	がん治療に対する看護について理解することができる 大腸がんで手術を受けた患者の看護① 大腸がんに関する知識	講義
8	がん治療に対する看護について理解することができる 大腸がんで手術を受けた患者の看護② 看護の実践について	講義
9	がん治療に対する看護について理解することができる 大腸がんで手術を受けた患者の看護③ ストーマリハビリテーションとストーマケア	講義 演習
10	緩和ケアについて理解することができる がん疼痛とは スピリチュアルペイン	講義
11	症状マネジメントについて理解することができる 各症状マネジメントの実践	講義
12	末期がん患者の看護が理解できる(悪性リンパ腫) 情報収集	演習
13	末期がん患者の看護(悪性リンパ腫) アセスメント	演習
14	末期がん患者の看護(悪性リンパ腫) 看護計画立案	演習
15	学習のまとめと評価	講義／筆記試験
備考 7～9 回はゲストティーチャーによる講義 12 ～14 回は事例展開		
受講上の注意		
評価方法 平常点(出席状況、提出物) 10% 筆記試験 90%		
使用テキスト 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院		

科目名	高齢者の暮らしをささえる看護	配当時期	2年次 後期	担当者
		単位数	2単位	
		時間数	30時間(15 回)	
事前学習内容 高齢者の身体、心理・霊的、社会的特徴を復習しておくこと				
科目全体のねらい・授業目標 高齢者の様々な生活と療養の場における健康の維持・増進、自立に向けた基本的な看護を理解する				
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	高齢者の暮らしをささえる看護を包括的に理解する 1) 高齢者の暮らしを支える			講義・演習
2	高齢者の保健医療福祉施設および居住施設における看護を理解する 療養の場を知る(施設サービス・居宅サービス)			講義
3	高齢者の生活機能をささえる看護を理解する① 1) 高齢者の日常生活をささえる基本的活動のアセスメントと看護 2) 高齢者の生活リズムを整えるためのアセスメントと看護 3) リスクマネジメント			講義・演習
4	高齢者の生活機能をささえる看護を理解する② 1) 高齢者の生活機能をささえる食事・排泄・清潔のアセスメントと看護 2) リスクマネジメント			講義・演習
5	高齢者の社会参加と看護 1) 高齢者の社会参加とは 2) 高齢者の社会参加と看護			講義・演習
6	高齢者と災害時の看護を理解する 1) 高齢者と災害			講義・演習
7	高齢者の暮らしをささえる看護 事例展開① ICFの活用、情報収集ができる			講義・演習
8	高齢者の暮らしをささえる看護 事例展開②	アセスメントができる		演習
9	高齢者の暮らしをささえる看護 事例展開③	アセスメントができる		演習
10	高齢者の暮らしをささえる看護 事例展開④	援助計画の立案ができる		講義・演習
11	高齢者の暮らしをささえる看護 事例展開⑤	援助計画の立案ができる		演習
12	高齢者の暮らしをささえる看護 事例展開⑥	日常生活援助/機能訓練		演習
13	高齢者の暮らしをささえる看護 事例展開⑦	発表		演習
14	高齢者の暮らしをささえる看護 音楽療法			講義
15	学習のまとめ 高齢者の生活と療養の場における基本的な看護とは			講義・試験
備考 第7回目～第14回目まで介護老人保健施設に入所している利用者の事例展開をする				
受講上の注意: 身近な高齢者、社会的な情報から知る高齢者に関心を持ちながら、学習を進める				
評価方法 筆記試験 70%・レポート・平常点等 30%				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院				
参考文献 高齢者福祉白書 内閣府 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社 ICF(国際機能分類)の使い方 MC メディカ出版				

科目名 子どもの生活と看護		配当時期 2 年次 前期 単位数 1 単位 時間数 30 時間 (15 回)	担当者
事前学習内容 関連科目である、人と健康の領域の心理学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳを復習し、理解しておくこと			
科目全体のねらい・授業目標 健康障害や入院が子どもとその家族に及ぼす影響を理解する。健康障害があり、援助が必要である子どもと家族に必要な看護実践ができるための援助内容・方法について習得する			
DPとの関連:DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2)対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	健康障害や入院が子どもと家族の生活に及ぼす影響と看護が理解できる 1)子どもの病気・障害の理解 2)健康障害に伴う子どものストレスと対処 3)子どもの健康障害に伴う家族のストレス		講義
2	検査や処置を受ける子どもと家族への看護と子どもの体験が理解できる 1) 検査や処置を受ける子どもの検査・処置体験と援助 2) 検査や処置を受ける子どもの家族への援助 3) プレパレーション・ディストラクション		講義
3	外来における子どもと家族への看護が理解できる 1)外来看護の果たす役割 2)外来における子どもと家族への援助		講義
4	入院中の子どもの生活における医療安全が理解できる(概要と全体的な内容) 1)子どもの事故や外傷の特徴と事故防止の方法 2)子どもに多い感染症と感染予防の方法		講義
5	子どもの生活に関わる、多職種が子どもと家族の生活をどのように援助をしているかを知る 小児看護専門看護師 もしくは 小児看護認定看護師 による、 小児看護の実際や付き添い家族との関わり、多職種との連携といった、子どもの生活をささえる上での看護の特徴を学ぶ		ゲストティーチャーによる講義
6	子どもの生活に応じた援助の実際とその根拠が分かる ～動く・話す～ 1)安全・安楽・環境(病床環境・行動制限・安楽な体位) 2)診察検査と検査の援助(体位固定・穿刺・検体の採取) 3)コミュニケーション(援助関係を形成する技術)		講義
7	子どもの生活に応じた援助の実際とその根拠が分かる～息をする・循環～ 4)体温(電法) 5)呼吸・循環(酸素療法・吸引・吸入・人工呼吸器の管理) 6)与薬の技術(経口薬・坐薬・注射・輸液管理) 7)清潔と衣生活(清拭、部分浴、シャワー浴)		講義
8	子どもの生活に応じた援助の実際とその根拠が分かる～食べる・排泄する～ 8)食事(食行動と健康状態に応じた栄養補給) 9)排泄(浣腸・導尿・ストーマ)		講義
9	子どもの身体的アセスメントに必要な観察の視点を理解する バイタルサイン測定・身体計測の知識と手順、根拠		講義
10	プレパレーション・ディストラクションの実際を通じて子どもの生活に応じた援助を実践する 1) コミュニケーション 2) バイタルサイン測定・身体計測の技術(衣服の着脱を含む)		技術演習
11	3) 薬物療法・検査の援助・プレパレーション・ディストラクション 4) 療養環境の整備		
12	子どもに行われる検査や処置、療養生活が送る中で大人との違いや根拠を熟考することができる 1)今までの学びから考察する		講義・演習
13	子どもの生活の中で救命のための援助ができる 1)子どもへの救命処置(CPR)		講義 技術演習
14			
15	学習のまとめと評価		講義・課題 筆記試験
備考 第 5 回は専門職であるゲストティーチャー(講師)の視点から子どもをどのように捉え、子どもと家族の生活を援助しているのか、子どもの生活を支える多職種や看護師に期待することを知る。第 10～11 回の技術演習に向けては実習用名札の作成とレポートが課される			
受講上の注意 主体的、積極的に講義やグループワーク、技術演習に参加すること			
評価方法 出席状況、レポート、提出物、筆記試験による総合評価			
使用テキスト 小児看護学[1]小児看護学概論・小児臨床看護総論(医学書院) 新訂版 写真でわかる小児看護技術 アドバンス(インターメディカ)			

科目名 子どもの病気と看護		配当時期 2年次 後期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	担当者
事前学習内容 事前レポート課題「健やかな成長・発達に影響を及ぼす要因とその生活、家族の状況」			
科目全体のねらい・授業目標 子どもの病気の経過に応じた主要な症状と子どもと家族への必要な看護援助について理解する。胎生期と小児各期で発症する主な疾患の診断時期・病態生理と治療の知識をもとに成長・発達に応じた看護を理解する。これらより子どもの成長・発達に応じた代表的疾患の看護過程の展開を理解する			
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	病気の経過と主要症状に応じた看護 急性期にある子どもと家族への看護を理解する		講義
2	慢性期にある子どもと家族への看護を理解する		講義
3	終末期にある子どもと家族への看護を理解する		講義
4	手術を受ける子どもと家族への看護を理解する		講義
5	小児期に発症・好発する代表的な疾患の基礎知識と看護 新生児疾患・ハイリスク状態にある子どもの看護を理解する 遺伝性疾患・染色体異常を持つ子どもの看護を理解する		講義
6	代謝・内分泌疾患を持つ子どもの看護を理解する		講義
7	免疫・アレルギー・膠原病を持つ子どもの看護を理解する		講義
8	腎・泌尿器疾患を持つ子どもの看護を理解する		講義
9	小児期の感染症の症状、合併症、治療、予防について理解する		講義
10	呼吸器疾患を持つ子どもの看護を理解する		講義
11	小児がんを持つ子どもの看護を理解する		講義
12	循環器疾患を持つ子どもの看護を理解する		講義
13	小児期にある子どもとその家族への看護過程展開 情報収集の視点が分かり看護問題が抽出できる		講義・演習
14	看護目標と看護計画が立案できる		講義・演習
15	小児各期の主な疾患とその好発・診断時期・治療の特徴を踏まえた看護を振り返ることができる		講義・筆記試験
備考			
受講上の注意	疾病と治療Ⅰ～Ⅳで学んだ系統別疾患から、胎生期小児期に発症し治療を受ける疾患を復習しておく		
評価方法	出席状況、レポート、提出物、筆記試験による総合評価		
使用テキスト	小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院)		
参考文献	新訂版 写真でわかる小児看護技術 アドバンス(インターメディカ)		

科目名	新しい命を育む看護Ⅰ	配当時期	2年次 前期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	30時間(15 回)	
事前学習内容				
人体の構造と機能Ⅲ(息をする、循環、血液、生殖器)、疾病と治療Ⅰ(検査、放射線、内分泌・代謝、女性生殖器)の復習				
科目全体のねらい・授業目標				
正常な妊娠・分娩における対象の特徴と看護を理解する				
妊娠期・分娩期における異常と看護を理解する				
DPとの関連				
DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力				
2)対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	妊娠期・分娩期・産褥期の分類と定義について理解できる 妊娠、分娩、産褥の定義とそれぞれの特徴			講義
2	正常な妊娠の経過について理解できる 妊娠期の身体的心理的社会的特性			講義
3	妊娠成立までにおける異常について理解できる 生殖補助医療、着床前診断、不妊治療			講義
4	妊娠期における異常について理解できる ハイリスク妊娠・合併症妊娠・出生前診断、胎児と胎児付属物の異常			講義
5	妊娠期における健康と生活についてのアセスメントの視点を理解できる 妊婦健康診査の内容、生活におけるマイナートラブル			講義
6	妊娠期における看護について理解できる 正常な事例のアセスメントと援助の抽出			演習
7	妊娠期の異常における看護について理解できる 妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、切迫早産			演習
8	妊娠期に関わる看護技術について実践できる 妊婦体験、レオポルド触診法、NST、子宮底長・腹囲測定			技術演習
9	正常な分娩の経過について理解できる 分娩の経過と3要素、産婦の身体的心理的社会的特性			講義・DVD 視聴
10	分娩経過における異常について理解できる 常位胎盤早期剥離、誘発分娩、			講義
11	分娩期における健康と生活についてのアセスメントの視点を理解できる 分娩経過のアセスメント、基本的ニーズの充足			講義
12	分娩期における看護について考える 正常な事例のアセスメントと援助の抽出			演習
13	分娩経過における異常時の看護について理解できる 微弱陣痛、胎児機能不全、異常出血			演習
14	分娩期のシミュレーションを通して看護を実践できる 陣痛の観察、胎児の観察、基本的ニーズの充足、家族へのケア			技術演習
15	学習のまとめと評価			講義/筆記試験
受講上の注意				
評価方法 筆記試験 70 点 レポート (事前課題含む)、グループワークの発表 30 点 平常点による総合評価				
使用テキスト 森恵美:系統看護学講座 「母性看護学各論」 医学書院 森恵美:系統看護学講座 「母性看護学概論」 医学書院 北川眞理子他:「看護実践のための根拠がわかる母性看護技術」メヂカルフレンド社				
参考文献 渡邊浩子編:母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社 有森直子編:「母性看護学Ⅱ 周産期各論」医歯薬出版 小林康江編:「母性看護の実践」メディカ出版				

科目名	新しい命を育む看護Ⅱ	配当時期	2年次 後期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	30時間(15回)	
事前学習内容				
人体の構造と機能Ⅲ(息をする、循環、血液、生殖器)、疾病と治療Ⅰ(検査、放射線、内分泌・代謝、女性生殖器)の復習。 前期の次世代の命をつなぐ人々の健康、新しい命を育む看護Ⅰの復習				
科目全体のねらい・授業目標				
正常な産褥期、新生児期における対象の特徴と看護を理解する 産褥期や新生児期における異常の看護を理解する				
DPとの関連				
DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	正常な産褥の経過が理解できる ビジョン・ゴールの決定、産褥期の身体的心理的社会的変化			講義
2	産褥期における異常時の看護について理解ができる 子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥期の精神障害 帝王切開の適応と看護			講義
3	産褥期における健康と生活についてのアセスメントの視点が理解できる 産褥期の看護の視点、事例を用いての看護の抽出			講義、グループワーク
4	産褥期における看護の実践について理解できる 事例を用いての看護の抽出、抽出した看護についての発表			講義、グループワーク
5	新生児の特徴と子宮外生活への適応について理解できる 新生児の生理、新生児の胎外生活への適応			講義
6	新生児にみられる異常時の看護について理解できる 新生児仮死、低出生体重児、高ビリルビン血症			講義
7	新生児の健康状態についてのアセスメントの視点を理解できる 新生児期の看護の視点、事例を用いての看護の抽出			講義、グループワーク
8	新生児の看護の実践について理解できる 事例を用いての看護の抽出、抽出した看護についての発表			講義、グループワーク
9・10	産褥期と新生児に関わる看護技術を実践できる 子宮底の観察、授乳の援助、骨盤底筋運動			技術演習
11・12	産褥期と新生児に関わる看護技術を実践できる 新生児のバイタルサイン、おむつ交換、抱き方、沐浴			技術演習
13・14	産褥期と新生児期における看護を表現できる 凝縮ポートフォリオの作成と発表、ビジョン・ゴールの振り返り、自己評価			グループワーク
15	学習のまとめ			筆記試験
備考				
受講上の注意				
評価方法:筆記試験 70 点、事前課題・グループワークの発表・自己評価 30 点、平常点による総合評価				
使用テキスト				
森恵美:系統看護学講座 「母性看護学各論」 医学書院 森恵美:系統看護学講座 「母性看護学概論」 医学書院 北川眞理子他:「看護実践のための根拠がわかる母性看護技術」メヂカルフレンド社 櫛引美代子:「カラー写真で学ぶ 新生児の観察と看護技術」医歯薬出版				
参考文献				
渡邊 浩子編:母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社 渡邊 浩子編:母性看護学① 母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護 メヂカルフレンド社 荒木奈緒編:ナースングラフィカ母性看護学③「母性看護技術」メディカ出版 小林康江編:ナースングラフィカ母性看護学②「母性看護の実践」メディカ出版 大田 操編:ウェルネス診断にもとづく母性看護過程 第2版 医歯薬出版				

科目名 こころの健康と看護Ⅰ	配当時期 2年次 前期 単位数 2単位 時間数 30時間(15回)	担当者
事前学習内容 「人の暮らしとこころの理解」の資料を整理しておくこと		
科目全体のねらい・授業目標 精神科における主要疾患について理解できる 精神科における主要状態とその看護について理解できる		
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	精神科における薬物療法と有害反応・電気けいれん療法・について理解できる (向精神薬・抗精神病薬・抗うつ薬・抗不安薬)	講義
2	精神療法、環境療法について理解できる(個人療法・集団精神療法・作業療法)	講義
3	主な疾患の病態生理・主要症状・治療について理解できる(統合失調症)	講義
4	主な疾患の病態生理・主要症状・治療について理解できる(気分障害)	講義
5	主な疾患の病態生理・主要症状・治療について理解できる (神経症性障害・ストレス関連障害・摂食障害・睡眠障害)	講義
6	主な疾患の病態生理・主要症状・治療について理解できる。 (パーソナリティ障害・器質性精神障害・アルコール依存症)	講義
7	療養環境について理解できる(精神病院の特徴)	講義
8	主要状態と看護について理解できる(陽性症状・陰性症状・解体症状)	講義
9	主要状態と看護について理解できる(不安状態・強迫症状など)	講義
10	主要状態と看護について理解できる(心気傾向など)	講義
11	主要状態と看護について理解できる(抑うつ状態・躁状態)	講義
12	主要状態と看護について理解できる(幻覚・妄想、自傷・自殺、隔離・拘束、発達障害)	講義
13	精神科リハビリテーションの概念・方法・あり方について理解できる ①	講義
14	精神科リハビリテーション 社会資源の活用(地域における支援)について理解できる(目的・内容・関連機関との連携)	講義
15	学習のまとめと評価	講義・筆記試験
備考 必要に応じて、DVD や映像資料を使用します		
受講上の注意 講義で使用する画像や動画のなかには、精神的に影響を与える可能性のあるものがあります その場合は、事前に申し出てください		
評価方法 筆記試験 100%		
使用テキスト 系統看護学講座「精神看護の基礎」「精神看護の展開」「精神保健福祉」医学書院		

科目名 こころの健康と看護Ⅱ		配当時期 2年次 後期 単位数 1単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 統合失調症患者の病態と看護、薬理作用などの復習をして理解する			
科目全体のねらい・授業目標 看護過程の展開を通して、精神疾患患者の理解ができる プロセスレコードを通して、自己理解ができる 他者理解、自己理解をすることで、適切な援助について理解できる			
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	プロセスレコードの意義・目的・場面の構成について理解できる		講義
2	プロセスレコードの事例検討、記述・評価方法について理解できる		講義
3	コミュニケーションの実際とプロセスレコードへの記載ができる		講義・演習
4	患者-看護師関係について理解できる（患者-看護師関係における感情体験、転移と逆転移、アンビバレンスなど）		講義
5	精神疾患患者の看護過程の基本事項が理解できる（精神看護学の基本的な考え方、発達課題、病期、BPS モデルなど）		講義
6	精神疾患患者の看護過程の基本事項が理解できる（セルフケア理論①～⑥領域、ストレングスマッピングシート）		講義
7	精神疾患患者の看護過程の基本事項が理解できる（DVD 視聴 患者事例）		講義・演習
8	精神疾患患者の看護過程の展開 事例の情報整理ができる （事例：統合失調症患者 慢性期）		講義・演習
9	精神疾患患者の看護過程の展開 事例のアセスメントができる（オレム①～②）		講義・演習
10	精神疾患患者の看護過程の展開 事例のアセスメントができる（オレム③～④）		講義・演習
11	精神疾患患者の看護過程の展開 事例のアセスメントができる（オレム⑤～⑥）		講義・演習
12	精神疾患患者の看護過程の展開 事例のアセスメントができる（ストレングスなど）		講義・演習
13	精神疾患患者の看護過程の展開 事例の看護計画が立案できる		講義・演習
14	精神看護過程を振り返ることができる		講義・演習
15	終講試験、学習のまとめ(DVD 視聴)		講義・筆記試験
備考 記録用紙は、原則として実習と同じものを使用します			
受講上の注意 これまでのこころの健康に関連する科目で配布された資料だけでなく、各自で必要と考える資料を持参してください			
評価方法 筆記試験 30% 出席状況・演習レポート 70%			
使用テキスト 系統看護学講座「精神看護の基礎」「精神看護の展開」「精神保健福祉」医学書院			

科目名 家族看護	配当時期 2年次 前・後期 単位数 1 単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 家族社会学 で学習した家族の役割について理解する		
科目全体のねらい・授業目標 家族看護の対象や特徴、家族看護を支える理論を学び、家族看護の介入方法が理解できる		
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	家族看護の特徴と家族看護の目標が理解できる 家族看護の歴史、家族看護の特徴と目標 家族看護が必要となる状況や場面が理解できる	講義
2	家族看護の対象について理解できる 家族のとらえ方、家族の構造	講義
3	家族看護の対象について理解できる 家族の機能	講義・演習
4	家族を理解するための理論について理解できる 家族発達理論、家族システム理論	講義・演習
5	家族を理解するための理論について理解できる 家族ストレス対処理論	講義・演習
6	家族看護展開の方法を理解できる 家族看護過程の視点、家族看護過程の枠組み	講義
7	家族看護展開の方法を理解できる	講義・演習
8	情報収集、アセスメント、家族の看護問題、家族看護計画の立案、評価	
9	家族看護における看護師の役割が理解できる 家族とのかかわり、看護師の基本姿勢、家族へのはたらきかけ	講義・演習
10	急性期から回復期患者の家族看護が理解できる(成人) 紙上事例を用いた家族看護の展開	講義・演習
11	慢性期の小児患者の家族看護ができる(小児) 紙上事例を用いた家族看護の展開	講義・演習
12	高齢患者の家族看護が展開できる(老年) 紙上事例を用いた家族看護の展開	講義・演習
13	周産期に関する家族看護が理解できる(母性) 紙上事例を用いた家族看護の展開	講義・演習
14	精神疾患患者の家族看護が理解できる(精神) 紙上事例を用いた家族看護の展開	講義・演習
15	学習のまとめと評価	講義 筆記試験
備考		
受講上の注意 看護への招待・家族社会学で学習したことを復習して講義に臨むことを期待します		
評価方法 筆記試験 60% 課題:40%		
使用テキスト 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院		
参考文献		

分野【看護の実践】 看護を実践する

科目名	スタートアップ ～看護の場を知る実習～
単位数	1単位 30 時間
実習目的	あらゆる看護の場を見学することで、看護の対象が病院だけではないことを知る。また、入学時の漠然とした看護のイメージを、具体的なものとし、看護師の仕事を具体化する
ねがい	入学して初めての臨地実習である。まずは様々な看護の場を見学し、あらゆる看護の場を見学することで、看護の対象が病院だけではないことに気づいてほしい。また、看護師が対象と関わる姿を見学し、対象の健康を守るために行っていることは何かを掴み取ってほしい。そのために、あらゆる状況にある対象に看護を実践している、看護の場や看護師の仕事を具体化してほしい
実習目標	1) 様々な場所で看護が行われていることを理解する 2) あらゆる場での看護場面を通して、看護師の仕事について具体化する 3) 看護学生として責任をもった行動がとれる
対象	1) 病院や施設で療養生活を送っている人 2) 在宅で療養生活を送っている人
実習場所	病院 介護老人保健施設 デイサービスセンター 訪問看護ステーション
実習方法	病院・施設における療養・看護場面および在宅での療養生活や看護師の看護場面を見学し、対象者の生活や看護職者の仕事を理解する 1) プロジェクト学習を取り入れ、ポートフォリオに目標を達成するために必要な学習内容や、実践内容を整理し、成果物を発表・提出する 2) 4 日間の実習のうち 1 日は訪問看護ステーション、1 日は老人保健施設またはデイサービスセンターで、見学実習を行う 3) 4 日間の実習のうち、1.5 日は病院での見学実習とするあらゆる看護の場で、対象者の生活や看護職者の仕事を見学する
評価規準	1) 看護の場・看護師の仕事を理解するために主体的に学習する態度 ① 実習を行うためのマナーを守っている ② 目標を達成するために必要な学習計画を自主的に進める 2) 様々な場所で働く看護師の仕事を理解するための思考・判断・表現 ① 見学を通して、看護を必要としている場で生活している人を理解する 3) 看護師の仕事を具体化するための知識・技能 ① 対象への看護場面を通して、あらゆる場での看護の必要性を考えることができる ② あらゆる場での看護師の役割を知るために、自己の思いや疑問を表出することができる

スタートアップ～看護の場を知る実習～ ルーブリック評価表

実習目標	学習活動	評価規準	評価の観点	評価資料	評価基準		評価基準	
					A(10点～)	B(8点～)	C(6点～)	D(2点～)
様々な場所で看護が行われていることを理解する	本実習でのビジョンとゴールを明確にし、ゴールを達成するために必要な学習を計画的に実施する	目標を達成するために必要な学習計画を自主的に進める	主体的に学習する態度	ポートフォリオ ビジョン・ゴールシート 面接	臨地実習に臨む自らのビジョン・ゴールを明確かつ、具体的に表現している 目標を達成するために必要な学習を、計画的にすすめて、学習したことは、学習と目標との関連がわかるように整理している	臨地実習に臨む自らのビジョン・ゴールを具体的に表現している 目標を達成するために必要な学習を進めている。しかし、学習したことをポートフォリオに整理しているが、目標との関連性がわかりにくい。	臨地実習に臨む自らのビジョン・ゴールを記載しているが、具体的に表現できない 目標を達成するために必要な学習の進め方について何度もアドバイスすることで、進めることができるが、学習した内容をポートフォリオに挟んでいるが、整理できていない。	臨地実習に臨む自らのビジョンまたはゴールを書いていない 目標を達成するために必要な学習の進め方について、多くのアドバイスをもらうが、進めることができず、ポートフォリオが完成しない
	あらゆる場での看護場面で、どのような対象がどのような生活を送っているか、どんな支援を受けているかを見学する	見学を通して、看護を必要としている場で生活している人を理解する	思考 判断 表現	ポートフォリオ 記録 面接	実習先で関わった看護の対象について、その人の特徴・生活環境・生活の仕方、支援の内容等を整理し、表現している。また、その人の生活や看護場面を具体的に描写し、看護の必要性について表現している。	実習先で関わった看護の対象について、その人の特徴や支援の内容について整理し表現できている。生活環境や生活の仕方については表現しているが不足がある。また、その人の生活や看護場面は描写しているが、看護の必要性について不足がある。	実習先で関わった看護の対象について、対象への支援内容は表現しているが、その人の特徴や生活について不足が多い。また、その人の生活や看護場面を描写しているが、具体的に看護の必要性についても不足がある。	実習先で関わった看護の対象について、対象への支援内容やその人の特徴、生活について不足が多い。また、その人の生活や看護場面、看護の必要性についての表現がない。
あらゆる場での看護場面を通して、看護師の仕事について具体的に表現し、成果物を作成する	あらゆる場での看護場面を見学し、看護師の仕事について具体的に表現し、成果物を作成する	対象への看護場面を通して、あらゆる場での看護の必要性を考えることができる	知識 技能	ポートフォリオ 凝縮ポートフォリオ 面接 インパクトシート	あらゆる看護場面の見学を通して得た学びを、テーマに沿って成果物に表現し、看護師の仕事や役割についての自己の考えを、具体的に相手に伝えるように表現している	あらゆる看護場面の見学を通して得た学びを、成果物に表現し、看護師の仕事や役割についての自己の考えを表現している	あらゆる看護場面の見学を通して得た学びを、成果物に表現しているが、看護師の仕事や役割についての表現が浅い	成果物に実習の学びは表現しているが、看護師の仕事や役割についての表現がない
	看護師の仕事や見学内容で疑問に感じたことについて、学習や質問したことを元に、凝縮ポートフォリオを作成する	あらゆる場での看護師の役割を知るために、自己の思いや疑問を表出し、知り得た情報を共有できる	知識 技能	ポートフォリオ 凝縮ポートフォリオ 面接 インパクトシート	実習中に感じた疑問を解決するために、看護師や実習場のスタッフに積極的に質問している また、質問し、解決できた内容についてもポートフォリオ内に記録を残し、学生間で共有することができる	実習中に感じた疑問を解決するために、看護師や実習場のスタッフに積極的に質問し、ポートフォリオに記録を残している	実習中に感じた疑問を解決するために、看護師や実習場のスタッフに積極的に質問している	実習中に感じた疑問を看護師や実習場のスタッフに質問していない
看護学生として責任をもった行動がとれる	実習を行うためのマナーを遵守し、必要な準備を整え、報告・連絡・相談を行う	実習を行うためのマナーが遵守でき、みだしなみ、健康管理に努めることができる	主体的に学習に向かう態度	プロフィール用紙 面接 健康管理表 ビジョン・ゴールシート	①心身の健康状態に留意し実習に支障をきたさないよう行動している ②看護学生として実習を行うためのマナー(あいさつ、報告・連絡・相談、みだしなみ)を遵守している ③実習を行うための準備を整え、忘れ物をしない ④医療に携わる者として、個人情報の保護を遵守し、守秘義務に努める	①心身の健康状態に留意し実習に支障をきたさないように準備を整えているが、2回未満の欠席・遅刻・早退があった ②看護学生として実習を行うためのマナー(あいさつ、報告・連絡・相談、みだしなみ)を遵守している ③実習を行うための準備を整えているが、2回未満の忘れ物があった ④医療に携わる者として、個人情報の保護を遵守し、守秘義務に努める	①心身の健康状態に留意し実習に支障をきたさないように準備を整えているが、2回以上3回未満の欠席・遅刻・早退があった ②看護学生として実習を行うためのマナー(あいさつ、報告・連絡・相談、みだしなみ)を守れないことがあったが、実習期間内に遵守できた ③実習を行うための準備を整えているが、2回以上3回未満の忘れ物があった ④医療に携わる者として、個人情報の保護を遵守し、守秘義務に努める	①心身の健康状態に留意できず、実習に支障をきたした ②実習期間を通して実習を行うためのマナーが守れなかった。 ③実習期間中、3回以上の忘れ物があった ④守秘義務が守れなかった

科目名	ステップアップⅠ ～生活をささえる看護技術の実習～
単位数	1 単位 45 時間
実習目的	これまでに学んだ知識・技術・態度を統合して、健康障害のある対象に適用し、看護実践の基礎となる能力を養う
ねがい	本実習は「看護技術の基本」「フィジカルアセスメント」「生活をささえる看護技術」で学んだ知識・技術を適用し、さまざまな健康レベルにある対象とコミュニケーションをとり、日常生活援助を実践する実習である。 実践を通して、患者に応じた技術を活用することの大切さを実感するとともに、その援助を行うためには患者の3側面を理解し、根拠を明確にした安全な技術が必要であることを学んでほしい。また、本実習が初めて受け持ち患者と関わる実習となるため、療養している患者に関心をもって関わり、コミュニケーションや援助を通して患者の反応を捉え、気づいたことを表現する能力を養ってほしい。 今回の実習では、対象とコミュニケーションをとり、対象に応じた日常生活援助を実践する中で、対象の思いを尊重するという、対象に合わせた援助とはどのようなことかを考えてほしい。そして、患者の生活をささえるために必要な知識・技術・態度について考え、表現できることを期待する。
実習目標	1) 患者の身体的・心理的・社会的側面を把握し、援助の必要性を理解する 2) 患者の状態に応じた日常生活援助を実践し、患者の反応を捉えて振り返ることができる 3) 患者や家族、看護チームと良い関係を保つための基本的態度を養う 4) 受け持ち患者の日常生活を支える援助について考える
対象	健康障害のある成人・老年患者
実習場所	・兵庫県立西宮病院 ・西宮市立中央病院 ・明和病院 ・笹生病院 ・西宮協立リハビリテーション病院 ・協和マリナホスピタル ・三好病院
実習方法	1) 実習目標を達成するためや、受け持ち患者の日常生活援助を実践するために必要な学習を行う 2) 患者を受け持ち、援助の必要性を考えて実習計画表を記載し、コミュニケーション、バイタルサインの測定、日常生活援助を実施する 3) 受け持ち患者の日常生活援助について、患者の状態に配慮した、計画・実施を行う。また、援助の見学・実施後は、目標・方法・患者の反応などを振り返り、評価・考察する。 4) 援助体験は、見学→共同実施→単独実施の段階を踏む <u>単独実施で行える技術は、単独実施の許可があったバイタルサイン測定とコミュニケーション</u> 5) 臨地実習終了後の学内実習では、実習終了後の振り返りを行う
評価規準	1) 日常生活援助を必要とする患者を支援するために主体的に学習に取り組む態度 ①受け持ち患者に必要な日常生活援助を実践するための準備が整っている ②看護学生としての責任を持ち、臨地実習の約束事を守っている 2) 日常生活援助を必要とする患者を支援するための思考・判断・表現 ①患者の日常生活について観察したことを、援助の必要性和関連付ける ②患者の状態に応じ、安全安楽に実施するための日常生活援助計画を立案する ③実践した日常生活援助について、患者の反応と既習の学習とを関連させながら、振り返る 3) 日常生活援助を必要とする患者を支援するための知識・技能 ①見学・体験を通して、患者の日常生活やADLの自立度を観察している ②受け持ち患者とのコミュニケーションを通して、患者の思いや希望を聴く ③既習の知識・技術を適用し、患者の状態に応じた安全で安楽な日常生活援助を実践する ④患者の状態・状況に応じた声掛けや配慮ができる ⑤受け持ち患者の日常生活を支える援助について考えを表現する

ステップアップⅠ～生活をささえる看護技術の実習～ ルーブリック評価表

実習目標	学習活動	評価規準	評価の観点	評価資料	評価基準			
					10点	8点	6点	2点
患者の身体的・心理的・社会的側面を把握し援助の必要性を理解する	見学・体験を通して患者のADLの自立度、患者の気持ちや願いを知り、援助の必要性について考える	見学・体験を通して、患者の日常生活やADLの自立度を観察している	知識・技能	記録用紙カンファレンス面接	日常生活援助の見学・体験を通して、患者の日常生活やADLの自立度を観察している	日常生活援助の見学・体験を通して、患者の日常生活やADLを観察している。	見学・体験を通して患者の日常生活を観察をしているが、ADLの観察に不足がある	日常生活援助の見学・体験をしているが、日常生活・ADLの観察に不足がある
		患者の日常生活について観察したことを、援助の必要性和関連付け	思考・判断・表現	記録用紙カンファレンス面接	患者の日常生活や3側面について観察したことを、患者シートに表現している。また援助の必要性に関連させ、その内容が援助計画に反映している	患者の日常生活や3側面について観察したことを、患者シートに表現している。しかし援助の必要性和関連はあるが、援助計画への反映が乏しい	患者の日常生活や3側面について観察しているが、患者シートへの表現に不足がある。また、援助の必要性和関連が浅く、援助計画への反映が乏しい	患者と関わる中で観察したことを表現できず、援助の必要性和関連させることができない
	患者の思いや願いを尊重した日常生活援助を行うために、コミュニケーション技術を活用する	受け持ち患者とのコミュニケーションを通して、患者の思いや希望を聞く	知識・技能	援助場面記録用紙カンファレンス面接	患者の状況に応じて積極的にベッドサイドに行き、コミュニケーションをとることができる。また、コミュニケーションを通して、患者の気持ちや願いに気づくことができる	積極的にベッドサイドに行き、患者が嫌な思いをしないようにコミュニケーションをとることができる。また、患者の気持ちや願いに気づくことができる	ベッドサイドに行きコミュニケーションをとることができるが、患者の状況に合っていない。また、コミュニケーションの内容が、日常会話にとどまっている	ベッドサイドになかなか行けず、患者とのコミュニケーションが取れない
患者の状態に応じた日常生活援助を実施し、患者の反応を捉えて振り返ることができる	患者の状態に応じた日常生活援助の計画を立案する	患者の状態に応じ、安全・安楽に実施するための日常生活援助計画を立案する	思考・判断・表現	記録用紙カンファレンス面接	患者の状態に応じ、安全・安楽に実施するための日常生活援助計画を、ADLを考え、具体的に立案している	患者の状態に応じ、安全・安楽に実施するための日常生活援助計画を具体的に立案している	患者の状態に応じ、安全・安楽に実施するための日常生活援助計画を立案しているが具体的でない	患者の日常生活援助計画を立案しているが、患者の状態に合っていない
		患者の状態に応じた安全で安楽な日常生活援助を実施する	知識・技能	援助場面自己学習ノート面接	患者のADLや状況に応じて、計画に基づき安全・安楽に援助を実践している	計画に基づき、患者のADLや状況に合わせた援助を実践しようとしているが、実施することに精いっぱい、安楽への配慮に不足がある	計画に基づき援助を実践しているが、援助を実施することに精いっぱい、安全・安楽への配慮に不足がある	計画に基づき援助を実践しようとしているが、準備性に欠け、計画通りに実施できない
	患者の状態・状況に応じた声掛けや配慮ができる	患者の状態・状況に応じた声掛けや配慮ができる	知識・技能	援助場面面接	患者の状況に応じて援助を実施している。また、援助中も患者の状況に応じて声掛けや配慮をしている。	患者の状況に応じて援助を実施している。しかし、援助に精いっぱい、声掛けや配慮に不足がある	患者の状況に合わせて援助をしているが、援助に背一杯で、声掛けをしているが配慮ができていない	自分本位の援助のため、患者の反応を捉えられず、声掛けや配慮ができない
		実践した援助を患者が示す反応から、振り返る	思考・判断・表現	記録用紙カンファレンス面接	実践した援助を患者の反応を通して既習の学習と関連させながら、安全・安楽・自立の視点で振り返り、自己の課題や改善点を表現している	実践した援助を患者の反応を通して安全・安楽・自立の視点で振り返り、自己の課題や改善点を表現しているが、既習の学習との関連性が少ない	実践した援助を安全・安楽・自立の視点で振り返り、自己の課題を抽出しているが、既習の学習や患者の反応との関連がなく、改善点を表現していない	実践した援助を振り返るが、感想にとどまり、自己の課題や改善点の表現がない
患者や家族、看護チームと良い関係を保つための基本的態度を養う	受け持ち患者の日常生活に関心を寄せ、必要な援助を実施するための準備を行う	受け持ち患者に必要な日常生活援助を実施するための準備が整っている	主体的に学習に取り組む態度	自己学習ノート記録用紙面接	受け持ち患者に必要な日常生活援助を実施するために、既習科目の資料や書籍を用いて学習し、自ら考えまとめた内容が自己学習ノートに表現されている	受け持ち患者に必要な日常生活援助を実施するために、既習科目の資料や書籍を用いて学習しているが、自ら考えまとめたものが自己学習ノートに十分表現されていない	受け持ち患者に必要な日常生活援助を実施するための学習をしているが、書籍や資料のコピーにとどまっている	自己学習に多くの不足がある
	誠実な態度で実習に取り組む	看護学生としての責任を持ち、臨地実習の約束事を守っている	主体的に学習に取り組む態度	出席状況自己学習ノート面接記録の提出状況身だしなみ	①心身の健康状態に留意し実習に支障をきたさないよう行動している ②看護学生として実習を行うためのマナー（あいさつ、言葉遣い、みだしなみなど）を遵守している ③実習を行うための準備を整え、忘れ物をしない。 ④医療に携わる者として、個人情報保護の保護を遵守し、守秘義務に努める ⑤実習における様々な事象に関して、適切なツールで、相手にわかるように報告・連絡・相談ができる	①心身の健康状態に留意し実習に支障をきたさないよう準備を整えているが、1回の欠席・遅刻・早退があった ②看護学生として実習を行うためのマナー（あいさつ、言葉遣い、みだしなみなど）を遵守している ③実習を行うための準備を整えているが、1回の忘れ物があった ④医療に携わる者として、個人情報の保護を遵守し、守秘義務に努める ⑤実習における様々な事象に関して、適切なツールで報告・連絡・相談ができる	①心身の健康状態に留意し実習に支障をきたさないよう準備を整えているが、2回の欠席・遅刻・早退があった ②看護学生として実習を行うためのマナー（あいさつ、言葉遣い、みだしなみ）を守れないことがあったが、実習期間内に遵守できた ③実習を行うための準備を整えているが、2回の忘れ物があった ④医療に携わる者として、個人情報の保護を遵守し、守秘義務に努める ⑤実習における様々な事象に関して、適切なツールで報告・連絡・相談しているが、内容に不足がある	①心身の健康状態に留意できず、実習に支障をきたした ②実習期間を通して実習を行うためのマナーが守れなかった ③実習期間中、3回以上の忘れ物があった ④守秘義務が守れなかった ⑤適切なツールで報告・連絡・相談できず、伝達できていない
受け持ち患者の日常生活をささえる援助について考える	実習で学んだことを振り返り、受け持ち患者の日常生活をささえる援助について考えをまとめる	受け持ち患者の日常生活を支える援助について考えを表現する	知識・技能	カンファレンス実習のまとめ発表	実習中の患者や看護士との関わりを通して、学生自身が感じたり、気付いたりしたことをもとに、患者の日常生活を支える援助について、自己の考えを具体的に、相手に伝えるように表現している	実習中の患者や看護士との関わりを通して、学生自身が感じたり、気付いたりしたことをもとに、患者の日常生活を支える援助について表現しているが、表現が抽象的である	実習中の患者や看護士との関わりを通して、学生自身が感じたり、気付いたりしたことを表現しているが、患者に実践した日常生活援助との関連が少ない	実習で体験したことのみを表現にとどまっている

科目名	ステップアップⅡ～看護過程展開の実際～
単位数	2単位 90時間
実習目的	これまでに学んだ知識・技術・態度を実際の看護の場面で駆使し、対象に合わせて看護過程を展開し、問題解決するために必要な基礎的な実践能力を養う
ねがい	看護過程は、看護を実践するための系統的で意図的な手段や方法を表した思考過程である。ステップアップⅡ～看護過程展開の実際～では、看護問題を明確化し、看護計画立案、実施、評価の一連のプロセスを体験する。実習では、受け持ち患者の生活や健康回復への思いに関心を寄せ、患者の変化に気付いてほしい。また、患者の思いを聴き、患者の望む結果をもたらすための計画を立案し、実践する力を養ってほしい。さらに、患者と共に目標を共有し、立案した計画を、患者の反応を見ながら実践することの必要性を理解してほしい。
実習目標	1) 患者を身体的・心理的・社会的側面から把握できる 2) 患者の健康問題や看護問題をアセスメントできる 3) 患者に必要な看護計画が立案・実施・評価できる 4) 保健医療福祉チームの中で、看護学生としての役割・責任を果たす
対象	健康障害のある成人・老年患者
実習場所	・兵庫県立西宮病院 ・西宮市立中央病院 ・明和病院 ・笹生病院 ・市立芦屋病院 ・西宮協立リハビリテーション病院 ・西宮渡辺病院 ・西宮協立脳神経外科病院
実習方法	1) 受け持ち患者の選定:経過の穏やかな成人もしくは老年患者 2) 受け持ち患者の日常生活の援助を共同実施しながら看護過程の展開を行う ①受け持ち患者の日常生活に焦点を当てた看護過程の展開を行なう。 ②看護の実施は原則として見学、共同実施、単独実施の順とし指導看護師の確認のもと行なう
評価規準	1) 健康障害のある患者の看護をするために、主体的に学習に向かう態度 ①実習を行うために必要な準備を整えている 2) 健康障害のある患者を支援するための思考・判断・表現 ①身体的・心理的・社会的側面を関連付け、対象の全体が捉えられる ②受け持ち患者の情報をヘンダーソンの枠組みを用いて分析している ③受け持ち患者の看護診断を明確にし、優先順位を決定できる ④患者の状態に応じた目標・計画を立案できる ⑤受け持ち患者に実施した看護について、患者にあらわれた結果を評価できる 3) 健康障害を持つ患者を支援するために必要な知識・技能 ①看護に必要な情報収集ができる ②受け持ち患者に必要な援助を安全・安楽・自立を考慮して実施できる ③適切な人にタイムリーに必要な報告・連絡・相談ができる ④自己を振り返り、看護について考えることができる

ステップアップⅡ～看護過程展開の実際～ ルーブリック評価表

実習目標	学習活動	評価規準	評価の観点	評価資料	評価基準				
					A(10点)	B(8点)	C(6点)	D(2点)	ポイント
患者を身体的・心理的・社会的側面から把握できる	受け持ち患者の健康問題について、情報媒体や既習のアセスメント技術を活用し情報収集を行う	看護に必要な情報収集ができる	知識 技能	初期アセスメント用紙 実習計画用紙 カンファレンス 面接 援助場面	観察やコミュニケーション、フィジカルイグザミネーション技術を用いて、対象の看護に必要な情報を、適切にときに不足なくとれる	観察やコミュニケーション、フィジカルイグザミネーション技術を用いて、対象の看護に必要な情報を、概ねとれる	観察やコミュニケーション、フィジカルイグザミネーション技術のいずれかが未熟で、対象の看護に必要な情報に不足がある	観察やコミュニケーション、フィジカルイグザミネーション技術が未熟で、対象の看護に必要な情報に多くの不足がある	
	収集した情報から、身体的・心理的・社会的側面を関連付け、対象の全体を捉える	身体的・心理的・社会的側面を関連付け、対象の全体が捉えられる	思考 判断 表現	初期アセスメント用紙 全体像 カンファレンス 面接	収集した情報を十分な知識をもとに、身体的・心理的・社会的側面の関連を明確にして、今の対象の全体像を適切に捉えている	収集した情報を十分な知識をもとに、身体的・心理的・社会的側面の関連を考えながら、今の対象の全体像を概ねズレなく捉えている	収集した情報に対し、知識の活用をしているが不足があり、身体的・心理的・社会的側面の関連付けが乏しい	収集した情報に対し、知識の活用不足が明らかにあり、身体的・心理的・社会的側面の関連付けが弱く全体の把握も十分ではない	病態関連因子 常在条件 病理的状态 基本的ニーズ 関連因子
患者の健康問題をアセスメントできる	受け持ち患者の情報をヘンダーソンの枠組みを用いて整理し、ニーズの充足・未充足を明らかにする	受け持ち患者の情報をヘンダーソンの枠組みを用いて分析している	思考 判断 表現	初期アセスメント用紙 全体像 カンファレンス 面接	受け持ち患者について、ヘンダーソンの14の基本的ニーズ(欲求)に基づいたアセスメントの枠組みを用いて情報を整理し、現在のニーズの充足・未充足について根拠を明確にしている	受け持ち患者について、ヘンダーソンの14の基本的ニーズ(欲求)に基づいたアセスメントの枠組みを用いて情報を整理し、現在のニーズの充足・未充足について、概ね根拠を明らかにしている	受け持ち患者について、ヘンダーソンの14の基本的ニーズ(欲求)、常在条件、基本的ニーズを容容させる病態の状態が混在した状態で情報を整理しており、現在のニーズの充足・未充足の根拠に不足がある	受け持ち患者について、ヘンダーソンの14の基本的ニーズ(欲求)に基づいたアセスメントの枠組みを用いて情報を整理できず、情報が混在している。現在のニーズの充足・未充足が明らかに不十分でない	
	収集した情報や関連因子から看護診断を明確にし、優先順位を決定する	受け持ち患者の看護診断を明確にし、優先順位を決定できる	思考 判断 表現	初期アセスメント用紙 看護計画用紙Ⅰ (看護診断リスト) カンファレンス 面接	NANDA-Iを用いて、診断指標や関連因子から対象に必要な看護診断を明確にし、優先順位を根拠をもって決定できる	NANDA-Iを用いて、診断指標や関連因子から対象に必要な看護診断を明確にできるが、優先順位の決定や、その根拠に課題が残る	NANDA-Iを用いて、対象に必要な看護診断は行っているが、診断指標・関連因子が不足している。また、優先順位の決定やその根拠に課題が残る	NANDA-Iを用いて、対象に必要な看護診断を行っているが、一部適切に欠けるものがあり、診断指標・関連因子の不足が多い。また優先順位が決定できない	優先順位の根拠: マズローの欲求の階層 生命の危機的状況 患者の希望・願い
患者に必要な看護計画が立案、実施、評価できる	患者の看護目標を設定でき、安全・安楽・自立を考慮した具体的な看護計画を立案する	患者の状態に応じた目標・計画を立案できる	思考 判断 表現	看護計画用紙Ⅱ 実習計画用紙 カンファレンス 面接	診断指標から実現可能な目標を設定し、対象に必要な個別性のある計画を具体的に立案できる	診断指標から実現可能な目標を設定でき、対象に必要な個別性のある計画を立案できるが、具体性に課題がある	実現可能な目標は立てられ、対象に必要な個別性のある計画に不足が見られ、かつ計画には具体性に欠けているところがある	実現に困難さのある目標であり、対象に必要な計画も不十分で、計画に個別性・具体性がない	期待される成果 OP/TP/EP 具体性: 4W1H/個別性
	受け持ち患者に必要な日常生活援助を安全・安楽・自立を考慮して実施する	受け持ち患者に必要な援助を安全・安楽・自立を考慮して実施できる	知識 技能	援助場面	実施してよいかを適切に判断でき、実施にあたっては患者の反応を踏まえ、安全を確保し適切な方法で実施できる。また、安全・自立を考慮した実施で、患者に満足感を持ってもらうことができる。	実施してよいかを適切に判断でき、実施にあたっては患者の反応を踏まえながら実施できる。また、自立を考慮しながら、安全・安楽に実施できるが、患者の満足が得られない場合がある。	実施してよいかの判断ができ、実施にあたっては患者の反応を十分踏まえていないことがある。安全・安楽・自立を意識しているが、一部安全・安楽から逸脱した実施がある。	実施してよいかの判断ができ、自ら他者に聞くこともできない。実施にあたっては、目標に沿っての評価ができていない。安全・安楽・自立に欠ける実施がある。	
受け持ち患者に実施した看護について、患者にあらわした結果を評価する	受け持ち患者に実施した看護について、患者にあらわした結果を評価する	受け持ち患者に実施した看護について、患者にあらわした結果を評価できる	思考 判断 表現	看護計画用紙Ⅱ 実習計画用紙 受け持ち患者の経過記録 インバクシート カンファレンス 面接	受け持ち患者に実施した日常生活援助の結果を、目標に沿って評価し、必要時は改善策を記載している。また、看護目標の達成度を目標設定や解決策の妥当性から評価し、必要時は、看護計画の追加・修正をしている	受け持ち患者に実施した日常生活援助の結果を、目標に沿って評価し、必要時は改善策を記載している。また、看護目標の達成度を目標設定や解決策の妥当性から評価しているが、看護計画の追加・修正に不足がある。	受け持ち患者に実施した日常生活援助の結果を、目標に沿って評価し、必要時は改善策を記載している。また、看護目標の達成度を評価しているが、不足がある。また、看護計画の追加・修正に多くの不足がある	受け持ち患者に実施した日常生活援助の結果について、目標に沿っての評価ができていない看護目標の達成度を評価していない看護計画の追加・修正ができていない	内容 適時性 評価との関連性
保健医療福祉チームの中で、看護学生としての役割・責任を果たす	報告・連絡・相談時は、いつ・誰に・どのようにするかを考え、行動する	適切な人にタイムリーに必要な報告・連絡・相談ができる	知識 技能	実習場面 面接 カンファレンス	受け持ち患者の様々な状況、実習場面での様々な事象について、適切な人にタイムリーに必要な報告・連絡・相談ができる	受け持ち患者の様々な状況、実習場面での様々な事象について、指示をうけて報告・連絡・相談できる。しかし、タイムリーに欠ける報告・連絡・相談のことがある	受け持ち患者の様々な状況、実習場面での様々な事象について、指示をうけて報告・連絡・相談できる。しかし、タイムリーに欠ける報告・連絡・相談のことがある	受け持ち患者の様々な状況、実習場面での様々な事象について、指示をうけて報告・連絡・相談できないことがある。また、報告・連絡・相談は決してタイムリーとは言えない	教員への報道相 指導者への報道相 グループ内での報道相 5W1H 適時性
	自己を振り返り、看護について考える	自己を振り返り、看護について考えることができる	知識 技能	実習のまとめ カンファレンス 面接	自分の行動を振り返り、学び・気づきを文献から意味づけ、自己の課題を明確にし、より良い看護につなげるための方法を具体的に表現することができる。	自分の行動を振り返り、学び・気づきを文献から意味づけ、十分とは言えない。しかし自己の課題を考え、より良い看護につなげるための方法を考えることができる。	自分の行動の振り返りと文脈からの意味づけは浅いが、自己の課題を考えることはできる	自分の行動を振り返れない、あるいは振り返りが感想になり、学びの意味づけができていない	
実習および、受け持ち患者の看護に必要な準備を整える	実習を行うために必要な準備を整える	実習を行うために必要な準備を整えている	主体的に 学習に向かう態度	すべての記録用紙 実習に必要な事前学習 出欠表 プロフィール用紙 実習場面 面接	①心身の健康状態に留意し、実習に支障をきたさないよう行動している ②看護学生として実習を行うためにふさわしい身だしなみを整えている。 ③臨地実習に臨む自らの目標を明確かつ、具体的に表現している ④患者の看護に必要な事項を書籍を用いて学習し、学習したことは毎日記載され、実習記録に反映している	①心身の健康状態に留意し、実習に支障をきたさないよう準備を整えているが、1回の欠席・遅刻・早退があった ②看護学生として実習を行うためにふさわしい身だしなみを整えている。 ③臨地実習に臨む自らの目標を明確に表現している ④患者の看護に必要な事項を書籍を用いて学習し、学習したことは記載されているが、実習記録に反映していないことがある	①心身の健康状態に留意し、実習に支障をきたさないよう準備を整えているが、2回以上の欠席・遅刻・早退があった ②実習開始時、看護学生として実習を行うためにふさわしい身だしなみが整えられていなかったが、実習期間中に整えることができた ③臨地実習に臨む自らの目標を表現しているが抽象的である ④患者の看護に必要な学習をしているが、実習記録に反映されていない	①心身の健康状態に留意せず、実習に支障をきたした ②実習期間を通して身だしなみが不十分であった ③臨地実習に臨む自らの目標を表現していない ④患者の看護に必要な学習をしていない	

科目名	地域で療養する人々の健康をささえる実習
単位数	2 単位 60 時間
実習目的	地域で暮らす療養者を総合的に把握し、対象への看護実践を通して療養生活を継続するための看護や地域包括支援システムにおける看護師の役割を理解する
ねがい	地域包括ケアシステム的一端を担う看護師の役割は拡大してきている。看護活動の場は多様化し、地域で暮らす人々と家族の健康を支援するためには保健・医療・福祉の連携が重要となる。また、地域包括ケアシステムを推進するには、「4 つの助け＝自助・互助・共助・公助」が必要といわれている。社会構造の変化に伴い、共助（介護保険等の社会保障制度）・公助（一般財源による高齢者福祉事業等）が限界となる中、看護師は地域で暮らす人々と家族の意向を尊重し、自助（セルフケア）を高め、互助（町内会・NPO・ボランティア活動）の仕組み作りに参加し、専門職としての強みを発揮しつつ、多職種と連携のうえで支援を展開することが期待される 臨地実習では、地域包括支援システムの中核となる地域包括支援センターで、多岐にわたる業務と役割の理解、課題のある対象への支援の実践（連携・協働・社会資源）を学んでほしい 「訪問看護実習」では、対象者の暮らしの場に訪問することで、地域で暮らすあらゆる人々が自分たちの力で暮らすことを支えることができるように、疾病の予防、健康の増進を含めた支援についての学びを深めてほしい
実習目標	1) 地域で暮らす療養者の特徴を総合的に理解する 2) 地域で暮らす療養者を支える介護者の健康状態と生活の課題から援助の必要性を見出す 3) 地域で暮らす療養者と家族を支える支援について考えることができる 4) 地域で暮らす療養者を支える多職種連携の必要性和地域包括ケアシステムを理解する 5) 地域包括ケアチームの中で看護学生としての役割と責任を果たすことができる
対象	在宅療養中で、訪問看護を必要とする人々 地域包括支援センターを利用する人々
実習場所	西宮市訪問看護センター（サテライト甲子園）、訪問看護センター 明和 協立訪問看護ステーションマリナセンター、訪問看護ステーション そよかぜ、西宮協立訪問看護センター 上ヶ原訪問看護センターすまいる 訪問看護ステーション ゆめか 訪問看護ステーション つくし 地域包括支援センター：西宮すなご医療福祉センター指定相談支援事業あゆむ 甲武地域包括支援センター 瓦木地域包括支援センター いまづ聖徳園今津地域包括支援センター
実習方法	1) 訪問看護実習では訪問看護師と共に利用者宅へ同行訪問し、ケアの見学や共同実施を行う 2) 訪問看護実習では受け持ち患者を選定し、実習期間中に2回以上訪問しアセスメントを行う 3) 訪問看護実習や地域包括支援センターではケアマネージャーや社会福祉士に同行しケアマネジトの実践を学ぶ 4) 地域包括支援センターでは、地域性を理解した上で多岐にわたる課題についての支援の実践を学ぶ
評価規準	1) 地域で療養する人々と家族を支援するために主体的に取り組む態度 ①看護学生としての責任と役割を果たそうとしている 2) 地域で療養する人々を理解するための知識・技能 ①療養者の疾病や障害による日常生活への影響を理解している ②実習での体験を通して地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を理解できる 3) 地域で療養する人々を支援するための思考・判断・表現 ①在宅で療養している人の思いやニーズに関心を寄せて関わろうとしている ②介護者の健康状態・生活状況から介護力を分析し援助の必要性を表現している ③療養者や家族のニーズを満たすための援助を計画立案している ④療養者や家族の状況に応じた援助方法について考察している ⑤社会資源の活用状況と専門職との連携・協働について表現している 4) 地域で療養する人々を支援するための知識・技能 ①実習での体験を通して地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について理解できる

地域で療養する人々の健康をささえる実習 ルーブリック評価表

	学習活動	評価の観点	評価資料	具体的な評価規準	評価基準(尺度)			
					10点	8点	6点	2点
地域で生活する療養者の特徴を総合的に理解する	疾病や障害による日常生活への影響を考える	知識 技能	アセスメント記録 関連図 対話	療養者の疾病や障害による日常生活への影響を理解している	疾病や健康レベル・要介護度・日常生活自立度・認知度・価値観などの情報を系統的に整理し、日常生活への影響をヘルスアセスメントの視点で記載できている。	疾病や健康レベル・要介護度・認知度などの情報を整理し、疾病や障害による日常生活への影響を具体的にアセスメントしている	疾病や健康レベル・要介護度・認知度などの情報を整理し、疾病や障害による日常生活への影響を記載しているが不足がある	疾病や障害による日常生活への影響を記載しているが不足がある
	疾病や障害を持ちながら在宅で療養している人のニーズや思いを理解する	思考 判断 表現	アセスメント記録 カンファレンス 関連図 対話	在宅で療養している人の思いやニーズに関心を寄せて関わりようとしている	①在宅で療養している人の思いやニーズに関心を向け、健康障害が及ぼす影響について考え、意図的に関わりようとしている。 ②積極的に学習をおこない看護に結びつけようとしている	①在宅で療養している人の思いやニーズに関心を向け、健康障害が及ぼす影響について考え、関わりようとしている。 ②学習をおこない看護に結びつけようとしている	①在宅で療養している人の思いに関心を向け、健康障害が及ぼす影響について考えていない ②学習をおこない看護に結びつけようとしているが不足がある	①在宅で療養している人の思いに関心を向け、健康障害が及ぼす影響について考えていない ②学習をおこない看護に結びつけようとしているが不足がある
地域で生活する療養者を支える介護者の健康状態と生活の課題から援助の必要性について考えることができる	介護者の健康状態や生活の課題から援助の必要性を考える	思考 判断 表現	アセスメント記録 訪問看護実習記録 対話	介護者の健康状態・生活状況から介護力を分析し援助の必要性を表現している	介護力を分析し、介護者に応じた援助の必要性を具体的に表現している	介護力を分析し、介護者に応じた援助の必要性を表現している	介護力を分析し、介護者に対する援助の必要性を表現しているが、分析や必要性に不足がある	介護力を分析することができず、介護者に対する援助の必要性を表現することができない
地域で生活する療養者と家族を支える援助について考えることができる	療養者や家族に合わせた援助計画を考える	思考 判断 表現	実習計画表 アセスメント記録 関連図 対話 カンファレンス	療養者や家族のニーズを満たすための援助を計画立案している	療養者の健康状態をふまえ、療養者と家族のニーズを満たすための援助について、自己決定と経済性を考慮しながら具体的に計画立案している	療養者の健康状態をふまえ、療養者と家族のニーズを満たすための援助について、計画しているが自己決定の視点が弱い	療養者の健康状態をふまえ、療養者と家族のニーズを満たすための援助について計画しているが具体性がない	療養者の健康状態をふまえ、療養者と家族のニーズを満たすための援助について計画しているが不足がある
	援助場面の見学や看護師との共同実施の体験より療養者と家族の状況に応じた援助方法について考察する	思考 判断 表現	訪問看護実習記録 カンファレンス 対話	療養者と家族の状況に応じた援助方法について考察している	実践した援助内容や援助方法について安全性、経済性、生活の知恵などの視点で考察し、療養者と家族の個別性に応じた援助について自分の言葉で表現している	実践した援助内容や援助方法について安全性、経済性、生活の知恵などの視点で考察し、療養者と家族の個別性に応じた援助について表現している	実践した援助内容や援助方法について安全性、経済性、生活の知恵などの視点で考察している	実践した援助内容や援助方法について安全性、経済性、生活の知恵などの視点で考察しているが不足がある
地域で生活する療養者を支える保健・医療・福祉チームの連携の必要性和地域包括ケアシステムを理解する	地域包括ケア・保健・医療・福祉の連携、社会資源の活用状況について説明する	思考 判断 表現	地域包括支援センター実習記録 実習のまとめ カンファレンス	社会資源の活用状況と専門職の連携・協働について表現している	療養者・家族の状況及び活用している保険制度とサービスの利用状況との関連や専門職の連携・協働について具体的に表現している	療養者・家族の状況及び活用している保険制度とサービスの利用状況との関連や専門職の連携・協働について表現している	療養者・家族の状況及び活用している保険制度とサービスの利用状況との関連や専門職の連携・協働が一部のみの表現になっている	療養者・家族の状況及び活用している保険制度とサービスの利用状況との関連がなく専門職の連携・協働について表現できない
	地域包括支援ケアシステムにおける看護師の役割について考える	知識 技能	実習のまとめ カンファレンス 対話	実習での体験を通して地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について理解できる	①療養者を支える保健・医療・福祉チームの支援の現状について明確に表現している ②その人らしく生きるための看護師の役割について体験と知識を活用し自分の言葉で表現している	①療養者を支える保健・医療・福祉チームの支援の現状について表現している ②その人らしく生きるための看護師の役割について体験したことを自分の言葉で表現している	①療養者を支える保健・医療・福祉チームの支援の現状について表現しているが不足している ②その人らしく生きるための看護師の役割について体験したことを表現している	①療養者を支える保健・医療・福祉チームの支援の現状について表現していない ②その人らしく生きるための看護師の役割について体験したことを表現していない
地域包括ケアチームの中で看護学生としての役割と責任を果たすことができる	地域包括ケアチームの一員であることを認識し、訪問先や実習施設等、その場の状況に応じた態度で実習に臨める	主体的に取り組む態度	援助場面 出席状況 記録の提出状況 接遇態度 健康状態	実習を行うにあたり自分の目標を明確にして主体的に実習に関わりようとしている	①実習に臨む自らの目標を明確かつ具体的に表現している ②療養者・家族・指導者・スタッフ・教員に対し尊重した態度で関わっている ③看護に必要な事柄を書籍を用いて学習し、学習したことは毎日記載され、実習記録に反映している ④体調管理を行い支障をきたしていない	①実習に臨む自らの目標を明確に表現している ②療養者・家族・指導者・スタッフに対し尊重した態度で関わっている ③看護に必要な事柄を書籍を用いて学習し、学習したことは毎日記載されているが、実習記録に反映されていないことがある ④欠席はないが、遅刻、早退が1回以上あった	①実習に臨む自らの目標を表現しているが抽象的である ②療養者・家族に対してのみ尊重した態度で関わっている ③看護に必要な事柄を学習しているが、実習記録に反映されていないことがある ④欠席はないが、遅刻、早退が1回以上あった	①実習に臨む自らの目標を表現していない ②療養者・家族に対して対面では尊重した態度で関わっているが、自分の価値観でとらえようとするところがある ③看護に必要な事柄を学習していない ④体調管理に注意していたが、欠席が2日以上あった

科目名	おとなの暮らしをささえる実習Ⅰ（周手術期・回復期）
単位数	2単位 90時間
実習目的	周手術期および回復期にある患者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、生命維持・健康回復に向けての看護が実践できる
ねがい	手術は、生体への侵襲を伴う治療方法である。身体は疾患や外傷によるダメージに加え、手術や麻酔の侵襲により生体反応が生じる。そのため、それらを的確に捉えることができる観察力、判断力を養ってほしい。また、生命の危機状態にある時期、回復期など患者の状態に合わせた回復促進を促す援助が実践できることを目指したい。さらに、手術を受ける患者・家族の気持ちに寄り添い状況に応じた看護を実践してほしい。そして、手術を受ける患者・家族を取り巻く医療関係者の連携・協働とそこでの看護師の役割を学んでほしい。
実習目標	1) 周手術期あるいは回復期にある患者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解する 2) 周手術期あるいは回復期にある患者および家族の気持ちに寄り添った関わりができる 3) 周手術期にある患者の変化に応じた看護を実践する 4) チーム医療における連携・協働と周手術期における看護師の役割を理解する 5) 医療チームの中で看護学生としての役割と責任を果たすことができる
対象	成人・老年期であり、手術前後および術後の回復過程にある人
実習場所	兵庫県立西宮病院 西宮市立中央病院 明和病院 笹生病院 西宮渡辺病院 西宮協立脳神経外科病院
実習方法	手術前後および術後の回復期にある患者を受け持ち、心身の状態変化に応じた看護を実践する手術室見学を通して、患者の状態および術中看護について理解する
評価規準	1) 周手術期にある患者を支援するために主体的に学習に取り組む態度 ①看護学生としての責任と役割を果たそうと主体的に行動し、実習目標を達成するための学習を自主的に取り組んでいる。 2) 周手術期にある患者を支援するために必要な知識・技能 ①術前・術中・術後の患者を手術や麻酔の影響・合併症をふまえ、身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解している ②周手術期の患者の状況をふまえ、患者および家族と良好な関係を築きながら共感的な態度で接している ③周手術期の患者の症状や状況に配慮しながら、予測される合併症をふまえ、系統的に正確な観察をすることができる ④医療・看護の場が変わる中で周手術期のチーム医療における連携・協働をふまえ、看護師の役割を理解し表現できる 3) 周手術期にある患者を支援するための思考・判断・表現 ①日々の術後患者の全身状態の情報を整理分析し看護上の問題を表現している ②看護上の問題をふまえ、回復を促進するための援助計画を立案している ③看護上の問題をふまえ、状況にあわせて回復を促進するための援助が実践できる ④患者の退院後の生活を考え退院支援の必要性を理解し個別性をふまえて表現している ⑤実習での体験を振り返り、自己の成長と課題を明確にして表現している
評価基準	ルーブリック評価表を使用し 60 点以上を合格とする

おとなの暮らしをささえる実習Ⅰ（周手術期・回復期）ルーブリック評価表

学習活動	評価の観点	評価資料	具体的な評価標準	評価基準			
				10点	8点	6点	2点
周手術期にある患者の日々の状態を術後侵襲・術後合併症をふまえて考える	知識 技能	全体像 アセスメントシート	術前・術中・術後の患者を手術や麻酔の影響・合併症をふまえて、身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解している	患者が受けた術式をふまえて術後侵襲と麻酔の影響を表現している。また、その影響と患者の状態を関連付けて表現している	患者が受けた術式をふまえて術後侵襲と麻酔の影響を表現している。また、その影響と患者の状態を関連付けて表現しているが一部不足がある	患者が受けた術式をふまえて術後侵襲と麻酔の影響を表現している。また、その影響と患者の状態を関連付けて表現しているが不足がある	一般論としての術後侵襲や麻酔の影響は表現しているが、術式や患者の状態との関連が表現されていない
		実習日誌 学習ノート		予測される術後合併症や出現する症状を術後病日と関連づけて根拠をふまえて表現している	予測される術後合併症や出現する症状を術後病日と関連づけて根拠とともに表現している	予測される術後合併症や出現する症状を術後病日と関連づけているが根拠が浅い	予測される術後合併症や出現する症状を術後病日と関連づけているが根拠がない
		対話		手術による心理・社会的側面への影響について、入院前の生活や術式、患者の思いをふまえて表現している	手術による心理・社会的側面への影響について、入院前の生活や術式、患者の思いをふまえて表現しているが一部不足がある	一般論として手術による心理・社会的側面への影響は表現している	手術による心理・社会的側面への影響について、表現されていない
周手術期にある患者の苦痛や気持ちに寄り添って関わる	知識 技能	実習日誌 対話 カンファレンス	周手術期の患者の状況をふまえて、患者および家族と良好な関係を築きながら共感的な態度で接している	周手術期の患者の状況をふまえて、患者および家族と共感的な態度で、手術に対しての思い、回復過程や今後の生活についての思いを傾聴し、その思いを援助に結びつけている	周手術期の患者の状況をふまえて、患者および家族と共感的な態度で、手術に対しての思い、回復過程や今後の生活についての思いを傾聴し、その思いを援助に結びつけている	周手術期の患者の状況をふまえて、患者および家族と共感的な態度で、手術に対しての思い、回復過程や今後の生活についての思いを傾聴し、その思いを援助に結びつけている	患者および家族と良好な関係を築けているが、自分が知りたいことだけを質問し聞いている
周手術期にある患者の看護に必要な観察をする	知識 技能	場面 アセスメントシート 実習日誌 対話	周手術期の患者の症状や状況に配慮しながら、予測される合併症をふまえて、系統的に正確な観察をすることができる	患者の症状や状況に配慮しながら、系統的な身体観察を正確に実施している	患者の症状や状況に配慮しながら、系統的な身体観察を正確に実施しているが観察の項目や方法に一部不足がある	系統的な身体観察を正確に実施しているが、観察の項目や方法に不足があり、患者の症状や状況への配慮が少ない。	観察はできるが系統的にできず正確性にも欠ける。
周手術期にある患者の身体変化を捉え、回復に向けての必要な援助を実践する	思考 判断 表現	実習日誌 アセスメントシート 全体像 対話 面接	日々の術後患者の全身状態の情報を整理分析し看護上の問題を表現している	日々収集した情報や観察結果から患者の今の状態や起こり得る合併症に関連因子、危険因子、個性性を考えながら分析し、看護上の問題を表現している	日々収集した情報や観察結果から患者の今の状態や起こり得る合併症に関連因子、危険因子を考えながら分析し、看護上の問題を表現している	日々収集した情報や観察結果から患者の今の状態や起こり得る合併症に関連因子、危険因子があり、看護上の問題の表現に不足がある	収集した情報から患者の状態は日々変化していることは気づいているが分析していない
		実習計画表 アセスメントシート 実習日誌 対話 カンファレンス	看護上の問題をふまえて、回復を促進するための援助計画を立案している	看護上の問題をふまえて患者の回復過程に応じて、回復を促進するための援助内容と方法を4WHを用いて具体的に立案している	看護上の問題をふまえて患者の回復過程に応じて、回復を促進するための援助内容と方法を4WHを用いて立案しているが一部不足がある	看護上の問題をふまえて患者の回復過程に応じて、回復を促進するための援助内容と方法を具体的(4WH)に立案しているが不足がある	回復過程に応じた回復を促進するための援助内容や方法を立案していない
		場面 実習計画表 実習日誌 対話	看護上の問題をふまえて、状況にあわせて回復を促進するための援助を実践できる	計画に基づいて、その場の状況をとらえて回復促進に向かって安全・安楽・自立を考えた援助を実践することができる	計画に基づいて、その場の状況をとらえて回復促進に向かって安全・安楽・自立を考えた援助を実践しているがどこかに不足がある	計画に基づいて、その場の状況をとらえて安全・安楽・自立を考えた援助を実践している	その場の状況がとらえられていない。また、実施しているが安全・安楽・自立に不足がある
退院支援の必要性を考える	思考 判断 表現	場面 アセスメントシート 実習日誌 対話 カンファレンス リフレクション	患者の退院後の生活を考え退院支援の必要性を理解し個別性をふまえて表現している	入院前の患者の生活状況をふまえて、患者の思いとライフスタイルを考えた退院指導内容を表現している	入院前の患者の生活状況をふまえて、退院指導の内容を考え表現しているが個性が不足している	入院前の患者の生活状況をふまえて、退院指導の内容を考え表現しているが個性がない	入院前の患者の生活状況をふまえて退院後の生活の退院支援を考えていない
周手術期における看護師の役割を考える	知識 技能	対話 カンファレンス リフレクションシート 手術室見学実習記録 実習のまとめ	医療・看護の場が変わる中で周手術期のチーム医療における連携・協働をふまえて看護師の役割を理解し表現できる	医療・看護の場(病棟・外来・手術室・ICUなど)が変わる中で、チームの連携の必要性と看護師の役割を具体的に表現している	医療・看護の場(病棟・外来・手術室・ICUなど)が変わる中で、チームの連携の必要性と看護師の役割を表現しているが一部不足がある	医療・看護の場(病棟・外来・手術室・ICUなど)が変わる中で、チームの連携の必要性と看護師の役割を表現しているが不足がある	医療・看護の場(病棟・外来・手術室・ICUなど)が変わる中で、チームの連携の必要性と看護師の役割が表現できない
看護実践の振り返りやカンファレンスを通して自己の成長と課題を表現する	思考 判断 表現	実習日誌 カンファレンス リフレクション 面接 実習のまとめ	実習での体験を振り返り、自己の成長と課題を明確にして表現している	実習終了後に看護実践を振り返り、自己の成長と課題について具体的に表現している	実習終了後に看護実践を振り返り、自己の成長と課題について表現している	実習終了後に看護実践を振り返り、自己の成長と課題について表現しているが抽象的な表現である	実習終了後に看護実践を振り返り、自己の成長と課題について表現できていない
医療チームの中で看護学生としての役割や責任を果たし、主体的に実習する	主体的に学習に取り組む態度	自己学習ノート 場面観察 カンファレンス 出席状況 健康管理状況	看護学生としての責任と役割を果たそうと主体的に行動し、目標を達成するための学習を自主的に取り組んでいる	実習に支援を来さないように健康管理している	実習に支援を来さないように健康管理している	実習に支援を来さないように健康管理していたが、欠席・遅刻があった	健康管理し実習しようとしていたが、欠席・遅刻(早退)があり実習に支援を来した
				医療チームの一員としてふさわしい態度であり、情報共有や連絡・報告・相談を効果的なタイミングで進めている	医療チームの一員としてふさわしい態度であり、情報共有や連絡・報告・相談を進めている	医療チームの一員としてふさわしい態度であり、情報共有や連絡・報告・相談を行っているが効果的なタイミングを逸している	医療チームの一員としてふさわしい態度がとれず、情報共有や連絡・報告・相談を行っていたがタイミングを逸することが多く、内容も不足している
				患者の看護に活用できるよう、主体的に事前学習および日々の学習におおねに取り組んでいる	患者の看護に活用できるように事前学習および日々の学習におおねに取り組んでいる	患者の看護をイメージしながら看護に活用できるように学習しているが内容が不足している	患者の看護に活用できるように学習の取り組みがない

科目名	おとなの暮らしをささえる実習Ⅱ（慢性期・リハビリ期）
単位数	2 単位 90 時間
実習目的	疾病の自己管理やセルフケア確立を必要とする患者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、セルフマネジメント支援やセルフケア確立に向けた看護が実践できる
ねがい	成人・老年期にある人が何らかの慢性的な病気に罹患したとき、生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活の折り合いをつけて、自分らしく生きていくかが重要となる。そのためには、いかに病気と上手く付き合っていく能力を獲得するかが必要となる。また、老年期にある人は、加齢による身体面の変化から防衛力、予備力、適応力、回復力の低下がみられ、身体の回復や ADL の回復に時間を要する。 おとなの暮らしをささえる看護Ⅱ では、さまざまな役割を担いながら生活している成人・老年期にある人が病気や障害を持ったとき、それらとうまく折り合いをつけながら役割を持ち、ひとりの生活者として、その人らしく生きていくことを支える看護を学んでほしい。また、看護者の役割として、患者に必要な知識・技術を提供し、その人が自分の病気を受け入れて生活していく自信が持てるように支援する必要性を学んでほしい。
実習目標	1) 疾患や機能障害を持ちながら生活している患者の特徴を理解する 2) セルフマネジメント支援やセルフケア確立への支援ができる 3) 疾患や障害を持ちながら生活するために必要な社会資源や医療・福祉チームの連携を理解する 4) セルフマネジメント支援やセルフケア確立を支援するための看護師の役割を理解する 5) 医療チームの中で看護学生としての役割と責任を果たすことができる
対象	成人・老年期にある慢性疾患や機能障害を有する患者で、自己管理や生活調整、セルフケア確立への支援が必要な患者
実習場所	兵庫県立西宮病院 西宮市立中央病院 明和病院 笹生病院 市立芦屋病院 西宮協立リハビリテーション病院 西宮渡辺病院
実習方法	慢性疾患や機能障害を有する患者に自己管理や生活調整、セルフケア確立への支援を実践する
評価規準	1) 疾患の自己管理やセルフケア確立を必要とする人を支援するための主体的に学習に取り組む態度 ① 看護学生としての責任と役割を果たそうと主体的に行動し、目標を達成するための学習を自主的に取り組んでいる 2) 疾患の自己管理やセルフケア確立を必要とする人を支援するための知識・技能 ① 疾患や障害、治療等をふまえ、良好な関係を築きながら生活に及ぼす影響や患者・家族の思いに関心を寄せている ② 疾患や障害、治療等をふまえ、セルフマネジメント支援やセルフケア確立の援助に必要な情報を収集し整理・分類している ③ 患者の学習のレディネス及びセルフマネジメントに必要な力をどれくらい有しているのか分析している 3) 疾患の自己管理やセルフケア確立を必要とする人を支援するための思考・判断・表現 ① 疾患にともなう生活の変化と患者の思いをふまえて必要な援助を考え表現している ② 患者のセルフマネジメントやセルフケア確立に向けて、患者（家族）が実現可能な目標を設定し、目標達成のための行動計画を立案している ③ 患者のセルフマネジメントやセルフケア確立に向けて患者に適した学習方法や理論を活用し、患者の個別性に配慮して支援している ④ 援助実施後、患者の反応から目標と行動を評価し必要時は追加・修正した内容に基づいて再度実践している ⑤ 継続看護の必要性を考え、医療・福祉チームの連携の必要性を表現している ⑥ 体験を通してセルフマネジメント支援やセルフケア確立を支援するための看護師の役割を表現している
評価基準	ルーブリック評価表を使用し 60 点以上を合格とする

おとなの暮らしをささえる実習Ⅱ（慢性期・リハビリ期） ルーブリック評価表

学習活動	評価の観点	評価資料	具体的な評価規準	評価基準(尺度)			
				10点	8点	6点	2点
疾患や機能障害を持ちながら生活している患者・家族の思いに寄り添う	知識技能	自己学習ノート 対話 場面観察 カンファレンス	疾患や障害、治療等をふまへ、良好な関係を築きながら生活におよぼす影響や患者・家族の思いに関心を寄せている	疾患や障害、治療等がおおぼす影響について学習し、疾患や障害を持ちながら生活している患者・家族の思いに関心を寄せて意図的に関わっている	疾患や障害、治療等がおおぼす影響について学習し、疾患や障害を持ちながら生活している患者・家族の思いに関心を寄せて関わっている	疾患や障害を持ちながら生活している患者・家族の思いや疾患、障害、治療等がおおぼす影響について知ろうとしている	疾患や障害を持ちながら生活している患者・家族の思いや疾患、障害、治療等がおおぼす影響に関心がない
疾患や機能障害を持ちながら生活している患者の特徴を整理しアセスメントする	知識技能	アセスメントシート 実習日誌 対話 場面観察	疾患や障害、治療等をふまへ、セルフマネジメント支援やセルフケア確立の援助に必要な情報を収集・整理・分類している	患者の入院前や平常時および入院後の生活習慣、生活スタイル、日常生活行動の自立度、学習のレディネス等に関する情報を意図的に収集し順次整理・分析している	患者の入院前や平常時および入院後の生活習慣、生活スタイル、日常生活行動の自立度、学習のレディネス等に関する情報を収集し整理・分類している	患者の入院前や平常時および入院後の生活習慣、生活スタイル、日常生活行動の自立度、学習のレディネス等に関する情報のいずれかに不足はあるが整理・分類している	セルフマネジメント支援やセルフケアの確立の援助に必要な情報収集に不足があり、整理・分類できていない
	知識技能	アセスメントシート 実習日誌 カンファレンス 対話	患者の学習のレディネス及びセルフマネジメントに必要な力をどれくらい有しているのか分析している	発達段階をふまへ、現在の患者のセルフマネジメント能力や学習意欲を理論を用いて分析している。また、患者の強みについて表現している	発達段階をふまへ、現在の患者のセルフマネジメント能力や学習意欲を理論を用いて分析し、患者の強みについての表現もしているが一部不足がある	発達段階をふまへ、現在の患者のセルフマネジメント能力や学習意欲を理論を用いて分析し、患者の強みについての表現もしているが不足がある	発達段階をふまえているが、現在のセルフマネジメント能力の分析がない。また、患者の強みについての表現もない
患者のセルフマネジメントやセルフケア確立を支えるために必要な支援を考える	思考判断表現	アセスメントシート 全体像 看護計画用紙 実習日誌 対話	疾患にともなう生活の変化と患者の思いをふまえて必要な援助を考え表現している	障害や病態が慢性化、長期化して起こる身体の変化・生活の変化とそれに伴う心理的影響と患者・家族のねがいや希望をふまえて必要な援助を考え表現している	障害や病態が慢性化、長期化して起こる身体の変化・生活の変化とそれに伴う心理的影響を考えているが患者・家族のねがいや希望をふまえて必要な援助を考え表現しているが、一部不足がある	障害や病態が慢性化、長期化して起こる身体の変化・生活の変化とそれに伴う心理的影響を考えているが患者・家族のねがいや希望をふまえて必要な援助を考え表現しているが、どちらかに不足がある	障害や病態が慢性化、長期化して起こる身体の変化について考えられていない。また、必要な援助も表現されていない
患者がセルフマネジメントやセルフケア確立ができるような援助を計画する	思考判断表現	アセスメントシート 実習日誌 看護計画用紙 学習支援計画書	患者のセルフマネジメントやセルフケアの確立に向けて、患者(家族)が実現可能な目標を設定し、目標達成のための行動計画を立案している	セルフマネジメントに必要な患者(家族)の持てる力とねがいをふまえて実現可能な目標設定をしている。また、目標達成のために現実的で具体的な行動計画を立案している	セルフマネジメントに必要な患者(家族)の持てる力とねがいをふまえて実現可能な目標設定をしている。しかし、目標達成のための行動計画の現実性・具体性が不足している	セルフマネジメントに必要な患者(家族)の持てる力とねがいをふまえて実現可能な目標設定をしている。しかし、目標達成のための行動計画の現実性・具体性が不足している	患者のセルフマネジメントやセルフケアの確立に向けての行動計画を立案していない
患者の個性に配慮しながら患者に適した方法で支援する	思考判断表現	アセスメントシート 看護計画用紙 学習支援計画 指導媒体(必要時) 場面観察	患者のセルフマネジメントやセルフケアの確立に向けて患者に適した学習方法や理論を活用し、患者の個性に配慮して支援している	患者が学習または残存機能を回復、維持できるように環境を整え、理論をふまえて患者にあった方法を用いて、患者の反応を常に確認しながら実践している	患者が学習または残存機能を回復、維持できるように環境を整え、理論をふまえて患者にあった学習方法を用いて、患者の反応を時々確認しながら実践している	患者が学習できるように環境を整え、実践している。患者の反応に気づいているが自分のペースで実践している	セルフマネジメントに必要な力を習得するための援助をしようとしているが、学習環境の整備、学習方法のいずれかが患者に適応していない。患者の反応に気づいていない
患者の反応から実践した援助を評価し、改善点を明らかにし、次の支援へ繋げる	思考判断表現	看護計画用紙 リフレクションシート 実習日誌 カンファレンス 対話	援助実施後、患者の反応から目標と行動を評価し、改善点を追加・修正した内容を基づいて再度実践している	援助実施後、患者と共に目標と行動の両方を評価し、達成されていない場合は、目標や行動計画の見直しを行っている。達成できていれば継続するか、次の方法を患者と共に考え実践している	援助実施後、患者と共に目標と行動の両方を評価し、達成されていない場合は、目標や行動計画の見直しを行っている。達成できていれば継続するか、次の方法を患者と共に考えたが実践はできていない	援助実施後、患者の反応をもとに目標と行動の両方を評価したが、患者への支援はできていない	目標と行動に対する評価が実践終了後となり、患者の反応が得られず改善点が見いだせない
患者が活用できる社会資源や連携する職種、部署を知るとともに、様々な教育的関わりや退院調整がなされていることを理解する	思考判断表現	アセスメントシート 看護計画用紙 実習日誌 カンファレンス 自己学習ノート	継続看護の必要性を考え、必要な社会資源や医療・福祉チームの連携の必要性を表現している	患者の退院後の生活や家族への負担を具体的にイメージし、継続看護や社会資源活用必要性について具体的に表現している。また、患者や家族の意向を知り、患者が活用できる社会資源や医療・福祉チームの連携の必要性を表現している	患者の退院後の生活や家族への負担をイメージし、継続看護や社会資源活用必要性について表現している。また、患者が活用できる社会資源や医療・福祉チームの連携の必要性を表現している	患者の退院後の生活や家族への負担については述べているが継続看護や社会資源活用必要性について表現に不足がある。自己学習としては、社会資源について調べているが、患者の状況との関連が少くない	自己学習として、社会資源や関連職種は調べている
体験をリフレクションし、セルフマネジメント支援やセルフケア確立を支援する看護職の役割について表現する	思考判断表現	リフレクション カンファレンス 実習のまとめ 面接	体験を通してセルフマネジメント支援やセルフケア確立を支援するための看護職の役割を表現している	受け持ち患者への援助について振り返り、改善点を表現している。また、体験や理論をもとに根拠を明確にしながら効果的な援助方法について記載している	受け持ち患者への援助について振り返り、改善点を表現している。また、体験や理論を活用し効果的な援助方法について記載している	受け持ち患者への援助について振り返っているが、改善点が不十分である。また、効果的な援助方法について記載しているが体験や理論の活用が少ない	受け持ち患者への学習支援体験より学習支援内容・方法について振り返っているが、改善点が不十分である
医療チームの中で看護学生としての役割や責任を果たし、主体的に実習する	主体的に学習に組む態度	自己学習ノート 場面観察 カンファレンス 出席状況 健康管理状況	看護学生としての責任と役割を果たそうと主体的に行動し、目標を達成するための学習を自主的に取り組んでいる	実習に支障を来さないように健康管理している	実習に支障を来さないように健康管理している	実習に支障を来さないように健康管理していたが、欠席・遅刻があった	健康管理し実習しようとしていたが、欠席・遅刻(早退)があり実習に支障を来した
			患者の看護に活用できるよう、主体的に事前学習および日々の学習に取り組んでいる	医療チームの一員としてふさわしい態度であり、情報共有や連絡・報告・相談を効果的なタイミングで適時行っている	医療チームの一員としてふさわしい態度であり、情報共有や連絡・報告・相談を行っているが効果的なタイミングを逸している	医療チームの一員としてふさわしい態度であり、情報共有や連絡・報告・相談を行っているが効果的なタイミングを逸している	医療チームの一員としてふさわしい態度がとれず、情報共有や連絡・報告・相談を行っていたがタイミングを逸していることが多く、内容も不足している

科目名	おとなの暮らしをささえる実習Ⅲ（がん看護）		
単位数	2 単位 90 時間		
実習目的	がん疾患を有する患者、緩和ケアを必要とする患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルの側面からとらえ、その人らしく生きぬくための看護が実践できる		
ねがい	人は「がん」と診断されたとき、はじめて自分の生に限りがあることを実感する。現実のものとなった自分の死をすぐに受容できる人は少なく、はかりしれない恐怖を抱く。がんの診断・治療は複雑で長期にわたり、再発・転移という転帰もあるため、患者や家族が取り組む課題も多様である。がん患者の看護を実践するには「病の軌跡」である「がんの診断・初期治療」「治療継続」「再発・再発治療」「エンドオブライフ」のように、患者がおかれている状況をよく理解し、それぞれの時期における患者や家族が直面している課題をとらえ具体的な看護を実践していく必要がある。 また、緩和ケアとは生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOLを痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応する。 おとなの暮らしをささえる実習Ⅲでは、がん疾患であらゆる治療を受けている人、緩和ケアを必要とする人の治療や症状をサポートするための看護、心身の苦痛の緩和をはかり患者のQOLを維持・向上するため看護について学んで欲しい		
実習目標	1) それぞれの時期にある患者の4側面を理解することができる 2) それぞれの時期にある患者、家族が直面している課題を理解しすることができる 3) それぞれの時期にある患者、家族への看護を実践し、看護の役割について理解する 4) 患者の意思決定をささえるチーム医療の連携・協働と看護師の役割を理解することができる 5) 保健医療福祉チームの中で看護学生としての役割と責任を果たすことができる		
対象	成人・老年期にあるがん疾患を有する患者		
実習場所	兵庫県立西宮病院 明和病院	西宮市立中央病院 市立芦屋病院	協和マリナホスpital
実習方法	その人らしく生きぬくための看護を考え実践する 外来化療法の見学、緩和ケアチームのラウンドやカンファレンスの参加		
評価規準	1)がん疾患(非がん疾患の緩和ケア)であらゆる治療をうけている患者を支援するための主体的に学習に取り組む態度 ①看護学生としての責任と役割を果たそうと行動し主体的に学習している 2)がん疾患(非がん疾患の緩和ケア)であらゆる治療をうけている患者を支援するための知識・技能 ①それぞれの時期にある患者、家族を理解するための情報を収集し整理することができる ②身体機能の状態が生活行動に及ぼす影響を理解するために分析している ③スピリチュアルペインについて分析している ④それぞれの時期にある患者、家族の願いや思いについて尊厳をまもりながら傾聴している ⑤患者の意思決定をささえるための各専門職の連携・協働について理解し、看護師の役割を表現している 3)がん疾患(非がん疾患の緩和ケア)であらゆる治療をうけている患者を支援するための思考・判断・表現 ①それぞれの時期にある患者、家族が直面している課題について分析している。 ②それぞれの時期にある患者の QOL の維持・向上のための援助計画と、患者と家族のスピリチュアルペインを緩和するための援助計画の個別性をふまえて立案している ③それぞれの時期にある患者、家族身体機能の状態やスピリチュアルペインを緩和するために、その人らしく生活が送れるように援助をしている ④それぞれの時期にある患者、家族への看護の役割について考えている。		
評価基準	ルーブリック評価表を使用し 60 点以上を合格とする		

おとなの暮らしをささえる実習Ⅲ（がん看護）ルーブリック評価表

学習活動	評価の観点	評価資料	具体的な評価基準	評価基準(尺度)		評価基準(尺度)	
				10点	8点	6点	2点
患者・家族の状況を既習の技術を活用し情報収集を行う	知識 技能	アセスメントシート 場面観察 対話	それぞれの時期にある患者、家族を理解するための情報を収集し整理することができる	患者、家族の状況をカルテやコミュニケーション、観察、援助・生活場面から情報収集し、どの時期であるかを理解しながら情報の整理をしている	患者、家族の状況をカルテやコミュニケーション、観察、援助・生活場面から情報収集し、情報の整理をしている	患者、家族の状況をカルテやコミュニケーション、観察、援助・生活場面から情報収集し、情報の整理をしているが不足がある	患者、家族の状況をカルテやコミュニケーション、観察、援助・生活場面から情報を得られない 情報の整理ができない
患者を身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな側面からアセスメントする	知識 技能	全体像 アセスメントシート 対話	身体機能の状態が生活行動に及ぼす影響を理解するために分析している	疾患の進行や合併症との関連から患者の身体機能を評価し、身体機能の低下が日常生活に及ぼす影響やその苦痛を分析し、全人的苦痛について考察している	身体機能の低下が日常生活に及ぼす影響やその苦痛を分析している	身体機能の低下が日常生活に及ぼす影響について分析している	現在のADL自立度についての情報は整理している
	知識 技能	全体像 アセスメントシート 対話	スピリチュアリティやスピリチュアルペインについて分析している	人生の危機に直面し、スピリチュアリティが脅かされることによる苦痛(スピリチュアルペイン)が及ぼす影響をどう理論を活用して分析・判断している	人生の危機に直面し、スピリチュアリティが脅かされることによる苦痛(スピリチュアルペイン)について分析している	スピリチュアリティが脅かされることによる苦痛(スピリチュアルペイン)について記載している	スピリチュアリティ、スピリチュアルペインの一般論は記述しているが患者との関連はない
それぞれの時期にある患者、家族が直面している課題をアセスメントする	思考 判断 表現	全体像 アセスメントシート 対話	それぞれの時期にある患者、家族が直面している課題について分析している	それぞれの時期をふまえて患者、家族が直面している課題について収集した情報から分析・判断している	それぞれの時期をふまえて患者、家族が直面している課題について収集した情報から分析している	それぞれの時期をふまえて患者、家族が直面している課題について収集した情報から分析しているが不足がある	それぞれの時期は理解しているが、患者、家族が直面している課題について分析していない
それぞれの時期にある患者、家族の願いや思いについて尊厳をまもりながら傾聴する	知識 技能	場面 対話 カンファレンス	それぞれの時期にある患者、家族の願いや思いについて尊厳をまもりながら傾聴している	患者や家族の語りが聴け、思いを尊重しその人と家族にとって心理的安寧をもたらす時間を共有している	患者や家族の語りが聴け思いを尊重し患者・家族のそばにいる	患者や家族の語りが聴ける	患者や家族とのコミュニケーションが図れる
全人的苦痛を緩和するための援助を個別性をふまえて立案する	思考 判断 表現	全体像 アセスメントシート 実習計画表 看護計画用紙 対話	それぞれの時期にある患者、家族の身体機能の状態やスピリチュアルペインを緩和するために、看護計画を立案している	身体機能の低下による日常生活援助及びスピリチュアルペインに対して患者と家族の願いや思いをふまえて必要な援助を計画している	身体機能の低下による日常生活援助及びスピリチュアルペインに対しての援助を計画している	日常生活行動の低下に対する援助を患者の状態を考慮して計画している	日常生活行動の低下に対する援助を計画しているが患者の状態に応じしていない
全人的苦痛を緩和するための援助を個別性をふまえて実践する	思考 判断 表現	場面観察 アセスメントシート 対話 カンファレンス	それぞれの時期にある患者、家族身体機能の状態やスピリチュアルペインを緩和するために、その人らしく生活が送れるように援助をしている	それぞれ時期と状態に合わせた身体機能の状態やスピリチュアルペインの緩和につながり、その人らしく生活が送れるような援助をしている	それぞれ時期と状態に合わせた身体機能の状態やスピリチュアルペインの緩和につながる援助をしている	患者の身体的機能や症状緩和への援助を状態に合わせた援助をしている	症状緩和への援助を実践しているが患者の状態に応じた内容・方法ではない
体験をリフレクションし、看護の役割について考えている	思考 判断 表現	リフレクション アセスメントシート 実習のまとめ	それぞれの時期にある患者、家族への看護の役割について考えている	実習体験を通して、それぞれの時期にある患者、家族についてその人らしい生活や人生を支える看護について根拠を明確にして自分の言葉で相手にわかるように表現している	実習体験を通して、それぞれの時期にある患者、家族についてその人らしい生活や人生を支える看護について自分の言葉で相手にわかるように表現している	実習体験を通して、それぞれの時期にある患者、家族の看護についての内容に表現しているが不足がある	実習体験を通して、それぞれの時期にある患者、家族の看護についての内容に表現していない
緩和ケアチームの活動やカンファレンス、退院調整場面、外来化学療法室等の参加・見学を通してQOLを高めるための各専門職の連携・協働について考えている	知識 技能	場面観察 アセスメントシート カンファレンス 対話 実習のまとめ	尊厳をまもり、QOLを高めるための各専門職の連携・協働について考えている	患者・家族の多様なニーズ、思いや願いをふまえて、各専門職と連携し患者の尊厳をまもり、QOLを高めるための看護について表現している	患者・家族の多様なニーズをふまえてQOLを高めるための連携や協働について表現している	患者・家族の多様なニーズをとらえている	何らかのニーズに関する情報は得ているが看護に活用していない
保健医療福祉チームの中で看護学生としての役割と責任を果たし、主体的に実習する	主体的に学習に取り組む態度	自己学習ノート 場面観察 カンファレンス 出席状況 健康管理状況	看護学生としての責任と役割を果たそうと行動し主体的に学習している	・実習に支障を来さないように健康管理している ・医療チームの一員として情報共有や連絡・報告・相談を適時行っている ・患者の看護に活用できるように系統的に学習して実習に臨みできる	・実習に支障を来さないように健康管理している ・医療チームの一員として情報共有や連絡・報告・相談を行っている ・患者の看護をイメージしながら看護に活用できるように学習している	・実習に支障を来さないように健康管理していたが、欠席・遅刻があった。 ・医療チームの一員として情報共有や連絡・報告・相談を行っているが効果的なタイミングを逃している ・患者の看護をイメージしながら看護に活用できるように学習しているが内容が不足している	・健康管理していたが、欠席・遅刻があり実習に支障をきたした。 ・情報共有や連絡・報告・相談を行っていたがタイミングを逃すことが多く内容にも不足が目立った。 ・学習はしていたが看護実践へ活用できていない

科目名	高齢者の暮らしをささえる看護の実習
単位数	2単位 90時間
実習目的	健康障害を持ちながら地域で暮らす高齢者の特徴を理解し、その人の自立に向けて必要な看護支援を考えるとともに保健医療福祉の連携について学ぶ。
ねがい	高齢者は、老化や疾病と共存しながら、健康状態の維持・向上を目ざすことが重要である。そのためには高齢者の特徴を理解し、様々な生活の場でその人らしく暮らせるための支援が必要となる。 この実習では、介護保険の施設サービスを利用する介護老人保健施設で暮らす高齢者、居宅サービスで通所介護施設を利用しながら在宅で暮らす高齢者を対象とし、それぞれの場の役割・機能、および看護師の役割を理解し、多職種連携をふまえた生活機能の維持・向上を目指した援助を指導者と共に実践してほしい
実習目標	1) 健康障害を持ちながら地域で暮らす高齢者をささえるサービスを理解する。 2) 高齢者の身体的・心理的・社会文化的側面から包括的にとらえ支援の必要性を理解する。 3) 高齢者の生活機能の維持・向上に向けた援助を指導者と共に実践できる。 4) 高齢者の暮らしをささえる保健医療福祉チームの役割と連携の必要性が理解できる。 5) 高齢者の権利と尊厳を守る関りが理解できる。
対象	・病院での治療を必要としないが在宅復帰が困難となった人 ・地域で健康の維持・増進サービスを受けながら暮らしている人
実習場所	・介護老人保健施設：すこやかケア西宮 ウェルハウス西宮 清和香櫨園 陽喜な家 ・社会福祉法人西宮市社会福祉事業団 ・甲東デイサービスセンター 小松デイサービスセンター 浜脇デイサービスセンター ・あずまデイサービスセンター
実習方法	1. 介護老人保健施設 1) ICF を活用し、利用者を包括的に理解する。 2) 入所している高齢者を受け持つ。 3) 職員と共に活動プログラムへ参加する。 4) 援助計画をもとに日常生活援助を職員と共同で行う。 5) 学内実習にて学びをグループ間で共有し、振り返りを行う。 2. デイサービスセンター 1) 事前に全体オリエンテーションを受ける。 2) 職員と共にプログラムへ参加する。 3) 利用者と積極的に接し、コミュニケーションを図る。 4) カンファレンスを行う。
評価規準	1. 介護老人保健施設 1) 介護老人保健施設の高齢者を支援するために主体的に学習に向かう態度 ①施設利用者の特徴と介護保険制度を関連付けて、介護老人保健施設の役割・機能について表現している。 ②チームの中で看護学生としての役割と責任をふまえ、主体的に行動する。 2) 介護老人保健施設の高齢者を支援するための思考・判断・表現 ①受け持ち利用者を ICF の枠組みを活用し、包括的に捉え、表現している。 ②受け持ち利用者の特徴を踏まえ、生活機能の維持・向上に向けた支援の必要性を表現している。 ③受け持ち利用者の活動プログラムの必要性を表現している。 ④受け持ち利用者に応じた生活機能の維持・向上のための援助を実践している。 ⑤保健医療福祉チームにおける多職種連携と看護の機能や役割について表現している。 3) 介護老人保健施設の高齢者を援助するための知識・技能 ①高齢者の思いに寄り添い、人格を尊重し、誠実な態度で関わっている。 高齢者の権利と尊厳を守る関りが理解できる。 2. デイサービスセンター 1) 通所介護（デイサービス）を利用する高齢者を支援するために主体的に学習に向かう態度 ①施設利用者の特徴と介護保険制度を関連付けて、通所介護（デイサービス）の役割・機能について表現している。 ②チームの中で看護学生としての役割と責任をふまえ、主体的に行動する。

	①通所介護（デイサービス）を利用する高齢者のニーズについて表現している。 3) 通所介護（デイサービス）を利用する高齢者を支援するための知識・技能 ①高齢者の思いに寄り添い、人格を尊重し、誠実な態度で関わっている。 高齢者の権利と尊厳を守る関りが理解できる。
--	---

高齢者の暮らしをささえる実習 ルーブリック評価表

高齢者の暮らしをささえる実習 ルーブリック評価

実習目標	実習施設	学習活動	評価の観点	評価資料	評価規準	評価基準(尺度)			
						10点	8点	6点	2点
健康障害をもちながら地域で暮らす高齢者をささえるサービスを理解する	介護老人保健施設	実習前から実習期間を通して施設利用者の特徴と施設の利用について主体的に学習している	主体的に学習に向かう態度	自己学習ノート オリエンテーション記録 カンファレンス	施設利用者の特徴と介護保険制度を関連付けて、介護老人保健施設の役割・機能について表現している	介護保険制度と介護度、サービス内容との関連を捉えている	介護保険制度と介護度、サービス内容との関連を捉えている	介護保険制度と介護度、サービス内容との関連を捉えている	介護保険制度と介護度、サービス内容との関連を捉えている
	デイサービスセンター	実習前から実習期間を通して施設利用者の特徴と施設の利用について主体的に学習している	主体的に学習に向かう態度	自己学習ノート オリエンテーション記録 カンファレンス	施設利用者の特徴と介護保険制度を関連付けて、通所介護（デイサービス）の役割・機能について表現している	施設利用者の特徴と介護保険制度を関連付けて、通所介護（デイサービス）の役割・機能について表現している	施設利用者の特徴と介護保険制度を関連付けて、通所介護（デイサービス）の役割・機能について表現している	施設利用者の特徴と介護保険制度を関連付けて、通所介護（デイサービス）の役割・機能について表現している	施設利用者の特徴と介護保険制度を関連付けて、通所介護（デイサービス）の役割・機能について表現している
高齢者の身体的・心理的・社会的側面から包括的に捉え、支援の必要性を理解する	介護老人保健施設	受け持ち利用者のIOPの枠組みを活用し、包括的に捉え、必要な支援を表現する	思考・判断・表現	自己学習ノート 場面観察 記録用紙 カンファレンス 対話 発表	受け持ち利用者のIOPの枠組みを活用し、包括的に捉え、表現している	ICF生活機能の維持・向上について健康状態・環境因子・個人因子を関連させ、プラス面とマイナス面を具体的に捉え、表現している	ICF生活機能の維持・向上について健康状態・環境因子・個人因子を関連させ、プラス面とマイナス面を具体的に捉え、表現している	ICF生活機能の維持・向上について健康状態・環境因子・個人因子を関連させ、プラス面とマイナス面を具体的に捉え、表現している	ICF生活機能の維持・向上について健康状態・環境因子・個人因子を関連させ、プラス面とマイナス面を具体的に捉え、表現している
		受け持ち利用者の活動プログラムの意義について表現する	思考・判断・表現	場面観察 記録用紙 カンファレンス	受け持ち利用者の活動を踏まえ、生活機能維持・向上に向けた支援の必要性を表現している	受け持ち利用者の活動を踏まえ、生活機能維持・向上に向けた支援の必要性を具体的に表現している	受け持ち利用者の活動を踏まえ、生活機能維持・向上に向けた支援の必要性を表現している	受け持ち利用者の活動を踏まえ、生活機能維持・向上に向けた支援の必要性を表現している	受け持ち利用者の活動を踏まえ、生活機能維持・向上に向けた支援の必要性を表現している
		受け持ち利用者の活動プログラムの意義について表現する	思考・判断・表現	場面観察 記録用紙 カンファレンス	受け持ち利用者の活動プログラムの必要性を表現している	受け持ち利用者の活動プログラムの必要性を高齢者のニーズや身体機能の障害と関連させて具体的に表現している	受け持ち利用者の活動を踏まえ、生活機能維持・向上に向けた支援の必要性を表現している	受け持ち利用者の活動を踏まえ、生活機能維持・向上に向けた支援の必要性を表現している	受け持ち利用者の活動を踏まえ、生活機能維持・向上に向けた支援の必要性を表現している
高齢者の生活機能の維持・向上に向けた援助を指導者と共に実施できる	介護老人保健施設	受け持ち利用者の生活機能の維持・向上に向けた援助を実施する	思考・判断・表現	場面観察 記録用紙 カンファレンス	受け持ち利用者に応じた生活機能の維持・向上のための援助を実施している	受け持ち利用者に応じた生活機能の維持・向上のための援助を安全に実施している	受け持ち利用者に応じた生活機能の維持・向上のための援助を安全に実施しようとしている	受け持ち利用者に応じた生活機能の維持・向上のための援助を安全に実施しようとしている	受け持ち利用者に応じた生活機能の維持・向上のための援助を安全に実施できない
	デイサービスセンター	職員と共に高齢者のプログラムに参加し、高齢者のニーズについて考える	思考・判断・表現	場面観察 記録用紙 カンファレンス 自己学習ノート	通所介護（デイサービス）を利用する高齢者のニーズについて表現している	プログラムの必要性を高齢者のニーズや身体機能の障害と関連させて表現している	プログラムの必要性を高齢者のニーズや身体機能の障害と関連させて表現している	プログラムの必要性を高齢者のニーズや身体機能の障害と関連させて表現している	プログラムの必要性を高齢者のニーズや身体機能の障害と関連させて表現している
高齢者の暮らしをささえる保健医療福祉チームの役割と連携の必要性が理解できる	介護老人保健施設	実習体験を通して保健医療福祉チームにおける多職種連携と看護の役割について表現する	思考・判断・表現	自己学習ノート 場面観察 記録用紙 カンファレンス 実習のまとめ	保健医療福祉チームにおける多職種連携と看護の役割について表現している	実習体験を通して保健医療福祉チームにおける多職種連携と看護の役割について具体的に表現している	実習体験を通して保健医療福祉チームにおける多職種連携と看護の役割について表現している	実習体験を通して保健医療福祉チームにおける多職種連携と看護の役割について表現している	保健医療福祉チームにおける多職種連携と看護の役割について表現していない
	介護老人保健施設センター	チームの中で看護学生としての役割と責任をふまえて主体的に行動する	主体的に学習に向かう態度	自己学習ノート 出席状況 記録の提出状況 場面観察 カンファレンス	チームの中で看護学生としての役割と責任をふまえて主体的に行動する	①チームの一員としてタイムリーに報告・連絡・相談ができる ②実習に支障をきたさないように健康管理をしている ③実践した内容を他者に伝えるように具体的に表現している	①チームの一員として報告・連絡・相談ができる ②実習に支障をきたさないように健康管理をしている ③実践した内容を他者に伝えるように表現している	①チームの一員として報告・連絡・相談ができる ②実習に支障をきたさないように健康管理をしている ③実践した内容を他者に伝えるように表現している	①チームの一員として報告・連絡・相談ができる ②実習に支障をきたさないように健康管理の不足部分が多い ③実践した内容を他者に伝えるように表現できない
高齢者の権利と尊厳を守る関りが理解できる	介護老人保健施設	高齢者の人格を尊重した態度で関わる 高齢者の権利保護について理解できる	知識・技能	場面観察 記録用紙 カンファレンス 対話 リフレクション	高齢者の思いに寄り添い、人格を尊重し、誠実な態度で関わっている 高齢者の権利と尊厳を守る関りが理解できる	高齢者の思いに寄り添い、敬意をはらったことば遣いや態度で関わっている 高齢者の権利と尊厳を守る関りが具体的に理解できる	高齢者の思いに寄り添い、敬意をはらったことば遣いや態度で関わっている 高齢者の権利と尊厳を守る関りが理解できる	高齢者に敬意をはらったことば遣いや態度で関わっている 高齢者の権利と尊厳を守る関りが理解できるが不足がある	高齢者に敬意をはらったことば遣いや態度で関わっているが不足部分が多い

◆発表内容：介護老人保健施設実習終了後、学内実習での発表

◆生活機能：ICFの中心概念で「心身機能・身体構造」「活動」「参加」の3つの要素をプラスの状態で捉え、そこに生じている障害というものを明確にし、全体を包括的に把握する

科目名	子どもの健康をまもる看護の実習
単位数	2単位 90時間
実習目的	1) 子どもの成長発達を踏まえ、子どもと家族を総合的に理解する。 2) 子どもの健全な育成を目指し、対象者に個別性のある看護や関わりが実践できる基礎的能力を養う。
ねがい	子どもは成長発達していく一人の人であり、年齢や健康レベルに関わらず権利を有し行使することができる存在である。子どもを育む家族はかけがいのない命の誕生からその一日一日を共に過ごし、子の健やかな成長を願う。そして、その過程で家族も多様な価値観を育んでいく。 子どもの健康をまもる看護の実習では、子どもの成長発達の理解と家族を含めた看護について学んでほしい。あらゆる健康レベルやあらゆる成長発達そして、さまざまな環境の中にある子どもが健やかに生活していくための支援を考えてほしい。子どもや家族との関わりや保健・医療・福祉の連携、そこに関わる多職種の役割について知り、子どもがその人らしく生きていくために必要な支援について学んでほしい。それらの体験を通して子どもの最善の利益について考えてほしいとねがう。 最後に、本実習はプロジェクト学習を取り入れており、各自のビジョン・ゴールをもとに積極的に実習へ取り組み、グループとしてのチームワークを大切に実習に臨んでほしいと期待する。そして、実習への取り組みそのものから、チーム医療の視点を培い、看護学生としての責任と役割を果たしてほしいと願っている。
実習目標	1) 医療・保育・福祉チームの中で看護師としての責任と役割を果たすことができる。 2) 子どもの成長発達と個別性を踏まえ、子どもと家族を総合的に理解する。 3) 子どもの個性および子どもの権利を尊重した関わりや看護について理解する。 4) 子どもへ包括的な支援と子どもをとりまく人々の連携について理解する。
対象	保育所に通う子どもとその家族、外来を受診する地域の子どもとその家族、入院している子どもとその家族
実習場所	・ 保育所/認定こども園 ・ 医院/クリニック ・ 病院
実習方法	1) 保育所：施設オリエンテーションを受け保育活動に参加し、乳幼児と関わる 2) 医院(クリニック)、病院：子どもと家族への看護を見学または看護師とともに実践する 環境適応への援助、診療に伴う援助、生活援助、指導的かわり
評価規準	1) 子どもと家族に関わるために主体的に学習に向かう態度 ① チームの一員として看護学生の責任と役割を果たすため主体的に行動している。 ② 子どもと家族の生活や思いに関心を寄せ、主体的に実習している。 2) 子どもの成長発達と健康を支援するための知識・技能 ① 子どもと家族の成長発達を踏まえて、子どもと家族を理解することができる。 ② 生活環境や病状を踏まえて、子どもと家族を総合的に理解し、必要な援助について表現することができる。 ③ 子どもと家族の成長発達と健康を促進し、子どもと家族が安全安楽な生活を送れるように援助することができる。 ④ 子どもと家族の生活の場である地域において、各施設が持つ役割について理解することができる。 3) 子どもの成長発達と健康を支援するための思考・判断・表現 ① 子どもと家族を理解し、子どもの最善の利益を目指す支援や小児看護における看護師の役割について表現することができる。 ② 子どもの権利を擁護し、子どもの最善の利益を考えた援助を行うことができる。 ③ 自己の体験を俯瞰し、現在の「子ども観」「小児看護観」を考え表現することができる。 ④ 各施設の連携・協働について理解し、子どもの看護の継続性を目指した支援のあり方について表現することができる。

子どもの健康をまもる看護の実習 ルーブリック評価表

実習目標	学習活動	評価の観点	評価資料	具体的な評価規準	評価基準（尺度）			
					10点	8点	6点	2点
医療・保育・福祉チームの中で看護学生としての責任と役割を果たすことが出来る	医療・保育・福祉チームの中で看護学生としての責任と役割を果たし、主体的に実習する	主体的に学習に向かう態度	出席状況 健康管理状況 場面観察 面接	①子どもと家族の生活や思いに関心を寄せ、主体的に実習している ②主体的に必要な自己学習に取り組み、ビジョン・ゴールの達成に向けて、課題を見つけ取り組んでいる。また同時に提出期限が守られている。 ③実習中、適時、自ら看護場面についてのリフレクションを行い、自己の課題に気づき、具体的に対処する行動がとれる。	①子どもの健康をまもる看護の実習に臨む自らのビジョン・ゴールを具体的に表現している。 ②ビジョン・ゴールの達成に向けて必要な自己学習を行い提出期限が守られている。 ③実習中、教員の促しによってリフレクションし、自己の課題に気づき、具体的に対処する行動がとれる。	①子どもの健康をまもる看護の実習に臨む自らのビジョン・ゴールを表現している。 ②ビジョン・ゴールの達成に向けて必要な自己学習をしているが、内容に不足がある。しかし、提出期限が守られている。 ③実習中、教員の促しによってリフレクションし、自己の課題に概ね気づいている。	①子どもの健康をまもる看護の実習に臨む自らのビジョン・ゴールを表現しているが、抽象的である。 ②ビジョン・ゴールの達成に向けて必要な自己学習をしていないが、内容に不足があるため実習に支障がある。 ③実習期間を通してリフレクションしていない。または、リフレクションから自己の課題に気づくことができない。	①子どもの健康をまもる看護の実習に臨む自らのビジョン・ゴールを表現できない。 ②ビジョン・ゴールの達成に向けて自己学習をしているが、提出期限が守れていない。または、内容にかなり不足があるため実習に支障がある。 ③実習期間を通してリフレクションしていない。または、リフレクションから自己の課題に気づくことができない。
		主体的に学習に向かう態度	ビジョン・ゴールシート ノート ポートフォリオ カンファレンス 面接	①チームの一員として、他者の意見を聞き出し、自分の意見も建設的に述べることができる。 ②チームの一員として、情報共有や報告・連絡・相談を効果的なタイミングで適時行っている。 ③学びの発表において、他者が具体的にイメージしやすい表現方法で媒体を作成し、他者に伝わりやすいように発表ができる。	①チームの一員として、自分の意見を述べるができる。 ②チームの一員として情報共有や報告・連絡・相談は行っている。 ③学びの発表において、他者が具体的にイメージしやすい表現方法で媒体を作成しているが、発表には具体性に欠ける。	①チームの一員として、教員の促しがあれば自分の意見を述べることができる。 ②チームの一員として情報共有や報告・連絡・相談を行っているが効果的なタイミングを逃している。 ③学びの発表において、媒体・発表ともに具体性に欠ける。	①教員の促しがあっても自分の意見を述べることができない。 ②チームの一員として情報共有や報告・連絡・相談を行っているが効果的なタイミングを逃すことが多くないようにも不足があった。 ③学びの発表において、媒体・発表ともに抽象的で他者に伝わりにくい。	①チームの一員として、自分の意見を述べることができない。 ②チームの一員として情報共有や報告・連絡・相談を行っているが効果的なタイミングを逃すことが多くないようにも不足があった。 ③学びの発表において、媒体・発表ともに抽象的で他者に伝わりにくい。
子どもの成長発達と個性をふまえて、子どもと家族を総合的に理解する	子どもの成長発達と生活を通して子どもと家族の特徴を捉え、変化する子どもと家族の身体的・心理的・社会的側面を考える	知識技能	ノート 場面観察 対話 カンファレンス	①発達段階を踏まえて、その子らしさ、家族らしさを捉え、子どもと家族の特徴を具体的に表現することができる。 ②家族の思いを知り、子どもと家族の関係を具体的に表現することができる。	①発達段階を踏まえて、その子らしさ、家族らしさを捉え、子どもと家族の特徴を表現しているが、具体性に欠ける。 ②家族の思いを知り、子どもと家族の関係を表現しているが、具体性に欠ける。	①子どもと家族の特徴を捉えているが、発達段階を表現することができていない。 ②家族の関係を表現しているが、家族の思いを知らずとしている。	①子どもと家族の特徴や発達段階の表現ができていない。 ②家族の関係を表現ができておらず、家族の思いを知らずとしている。	①子どもと家族の特徴や発達段階の表現ができていない。 ②家族の関係を表現ができておらず、家族の思いを知らずとしている。
		知識技能	ノート 場面観察 対話 カンファレンス	・生活環境や疾患・治療が子どもと家族の身体面・心理面・社会面に及ぼす影響を根拠を用いて分析し、健康段階について考えることができる。	・生活環境や疾患・治療が子どもと家族の身体面・心理面・社会面に及ぼす影響を分析しているが根拠に欠ける。健康段階について考えることができる。	・生活環境や疾患・治療が子どもと家族の身体面・心理面・社会面に及ぼす影響を分析しているが一部不足があり、健康段階についても不足部分がある。	・生活環境や疾患・治療が子どもと家族の身体面・心理面・社会面に及ぼす影響を分析しておらず、健康段階についても大きな不足がある。	・生活環境や疾患・治療が子どもと家族の身体面・心理面・社会面に及ぼす影響を分析しておらず、健康段階についても大きな不足がある。
子どもの個性および「子どもの権利」を尊重した関わりや看護について理解する	子どもの権利を尊重し、成長発達や健康段階に応じた看護を実践する	知識技能	ノート 場面観察 対話 カンファレンス	・子どもと家族の成長発達の促進や健康の回復・維持・促進に取り組む。子どもがその子らしい生活を安全に送れるよう、根拠に基づいて援助することができる。	・子どもと家族の成長発達の促進や健康の回復・維持・促進に取り組む。子どもがその子らしい生活を安全に送れるよう、根拠に基づいて援助することができるが、根拠に欠ける。	・子どもと家族の成長発達の促進や健康の回復・維持・促進に取り組む。子どもがその子らしい生活を安全に送れるよう援助しているが根拠に不足がある。	・子どもと家族の成長発達の促進や健康の回復・維持・促進に取り組む。子どもがその子らしい生活を安全に送れるよう援助しているが、安全な環境を損なう場面がある。	・子どもと家族の成長発達の促進や健康の回復・維持・促進に取り組む。子どもがその子らしい生活を安全に送れるよう援助しているが、安全な環境を損なう場面がある。
		思考判断表現	ノート 場面観察 対話 カンファレンス	①子どもの権利を守りながら、子どもの最善の利益を具体的に考えることができる。 ②子どもの意思表明や意思決定を尊重しながら、子どもと家族の反応を丁寧に捉えて援助を行うことができる。	①子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を考えているが、具体性に欠ける。 ②子どもの意思表明や意思決定を尊重しながら、子どもと家族の反応を捉えて援助を行うことができる。	①子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を考えているが、内容に不足がある。 ②子どもと家族の反応を捉えるのに不足がある。	①子どもの権利を守っているが、子どもの最善の利益を考えていない。 ②子どもあるいは家族の反応を捉えられていない。	①子どもの権利を守っているが、子どもの最善の利益を考えていない。 ②子どもあるいは家族の反応を捉えられていない。
	子どもと家族への関わりを通して、成長し続ける子どもの最善の利益を理解し、小児看護における看護職の役割を考える	思考判断表現	ノート 場面観察 対話 カンファレンス ポートフォリオ 面接	・実習体験を通して、子どもと家族を理解し、子どもの最善の利益を目指す支援や小児看護における看護職の役割を、根拠を明確に自分の言葉で具体的に、かつ他者に伝わりやすく表現することができる。	・実習体験を通して、子どもと家族を理解し、子どもの最善の利益を目指す支援や小児看護における看護職の役割を自分の言葉で他者に伝わりやすく表現することができる。	・実習体験を通して、子どもと家族を理解し、子どもの最善の利益を目指す支援や小児看護における看護職の役割を表現しているが、他者に伝わりにくい表現がある。	・実習体験を通して、子どもあるいは家族への支援を表現しているが、小児看護における看護職の役割については表現していない。	・実習体験を通して、子どもあるいは家族への支援を表現しているが、小児看護における看護職の役割については表現していない。
		思考判断表現	ノート 場面観察 対話 カンファレンス ポートフォリオ 面接	自己の体験を俯瞰し、現在の「子ども観」「小児看護観」を考え表現することができる。	・実習体験や学習を通して、子どもの健やかな成長発達と養育について考え、現在の「子ども観」「小児看護観」を自分の言葉で具体的に表現することができる。	・実習体験や学習を通して、現在の「子ども観」「小児看護観」について表現しているが、内容に一部不足がある。	・現在の「子ども観」「小児看護観」について表現しているが、実習体験や学習との関連性が乏しい。	・現在の「子ども観」「小児看護観」について表現しているが、実習体験や学習との関連性が乏しい。
子どもへの包括的な支援と子どもをとりまく人々の連携について理解する	子どもと家族とより多くの人々の連携・協働について理解し、子どもへの包括的な支援のあり方について考える	知識技能	ノート 場面観察 対話 カンファレンス ポートフォリオ 面接	①自己学習と照らし合わせながら根拠を踏まえて各施設の目的と機能を理解し、表現することができる。 ②子どもと家族の生活の場である地域において各施設が果たす役割について考え、具体的に表現することができる。	①自己学習と照らし合わせながら各施設の目的と機能を理解し、表現しているが、根拠に欠ける。 ②子どもと家族の生活の場である地域において、各施設が果たす役割について考え、表現することができるが、具体性に欠ける。	①各施設の目的と機能を理解し、表現しようとしているが、不足がある。 ②子どもと家族の生活の場である地域において、各施設が果たす役割については考え、表現しているが内容に不足がある。	①各施設の目的と機能を理解し、表現しようとしているが、大きな不足がある。 ②子どもと家族の生活の場である地域において、各施設が果たす役割について表現することができない。	①各施設の目的と機能を理解し、表現しようとしているが、大きな不足がある。 ②子どもと家族の生活の場である地域において、各施設が果たす役割について表現することができない。
		思考判断表現	ノート 場面観察 対話 カンファレンス ポートフォリオ 面接	各施設の連携・協働について理解し、子どもへの包括的な支援のあり方について表現することができる。	・実習体験や学習を通して、各施設の連携・協働について考え、包括的な支援のあり方について表現することができる。	・実習体験や学習を通して、各施設の連携・協働について考え、包括的な支援のあり方について表現しているが一部不足があり、包括的な支援のあり方についても表現が曖昧である。	・各施設の連携・協働について結ばれておらず、包括的な支援のあり方についても表現することができない。	・各施設の連携・協働について結ばれておらず、包括的な支援のあり方についても表現することができない。

科目名	新しい命と家族を育む実習		
単位数	2単位 60時間		
実習目的	1) 対象者を理解し、対象者に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う 2) 地域における対象者の健康に関心を持ち、切れ目ない支援の重要性を理解できる ※本実習における対象者とは、妊産褥婦および新生児、女性と生殖や育児のパートナー、子どもが生まれる、あるいは乳幼児を育てる家族とその家族が生活する地域社会とする。		
ねがい	本実習では、妊娠・分娩・産褥期というマタニティサイクル期の特徴を理解し、新しい命を迎えるために女性がその人らしく十分にその機能を発揮できるための援助を学習してほしい。また正常な経過から突然、異常に傾くクリティカルな側面を知り看護の必要性を考えるとともに、親子の愛着形成やその家族を育むための援助を学んでほしい。また地域での実習を通して、地域で暮らす女性の健康の維持・増進、疾病予防について学ぶとともに、生殖や育児のパートナー、乳幼児を育てる家族に対する看護の役割、多職種連携の重要性を理解してほしい。さらに、生殖補助技術といった医療技術の進歩や核家族化といった社会環境の変化を踏まえ、生命倫理、命の重みや神秘性を感じ、創造的な発見や感動を体験してほしいと期待する。そして、こうした看護の実践を通して、自己の存在価値や自身の健康、母性や父性、家族観を見つめ、自己の看護観をさらに深められる実習となることを願っている。		
実習目標	1) 保健医療福祉、地域の中で看護学生としての役割・責任を果たすことができる 2) ウェルネスの視点を踏まえて、対象者がより健康に経過するための看護を理解する 3) 地域での子育て支援を通して、切れ目のない支援の重要性を理解する 4) 命の尊さについて表現し、自己の母性や父性、家族観を見つめることができる		
対象	病院実習：妊婦・産婦・褥婦、新生児とその家族 クリニック・助産所実習等：地域で暮らす妊婦や子育てしている母親とその子ども、あらゆる年代の女性		
実習場所	【病院実習】 明和病院、兵庫県立西宮病院 川西市立総合医療センター	【クリニック・助産所等】 西宮市内 産婦人科クリニック、助産所 西宮市立子育て総合センター	
実習方法	【病院実習】 1) 原則として経過が順調な産婦・褥婦・新生児を受け持ち、看護を考え実践する 2) 妊婦健康診査、産後の健康診査、乳児1か月健康診査を見学・共同実施し、保健指導の見学を行う	【クリニック・助産所等】 1) 妊婦健康診査や保健指導を見学する 2) 子育て中の母親やその家族を対象とした地域での子育て支援を見学または共同実施する 3) 地域で暮らすあらゆる年代の女性の健康支援を見学する	【学内】 1) 実習に必要な情報を収集する 2) 実習体験を振り返り討論し、対象者に必要な看護についての学びを深める
評価規準	1) 対象者に関心を寄せ、主体的に学習に取り組む態度 ①対象者に人間的な関心を向け、主体的に学習している ②チームの一員として看護学生の責任と役割を果たそうと主体的に行動することができる 2) 対象者が健康に経過するための支援を実施する知識・技能 ①対象者のニーズを把握することができる ②対象者のニーズを満たす援助を考えることができる ③ニーズを満たす援助を安全・安楽に実施することができる 3) 対象者をウェルネスの視点で捉えられる思考・判断・表現 ①対象者の想いや願いをふまえ、ウェルネスの視点で理解することができる ②対象者の自己決定をささえる看護を理解することができる ③対象者が家族として発達していくことを支える看護を理解することができる 4) 生命の尊厳や自己の母性や父性、家族観について、実習を経て考えられる思考・判断・表現 ①対象者との関わりを通して、命の尊さについて考えたことをまとめて表現することができる ②対象者との関わりを通して、自己の母性や父性、家族観について考えたことを表現することができる		

新しい命と家族を育む実習 ルーブリック評価表

実習目標	学習活動	評価の観点	評価資料	具体的な評価規程	評価基準（尺度）			
					10	8	6	2
保健医療福祉・地域の中で看護学生としての役割・責任を果たすことができる	対象者に人間的な関心に向け、主体的に学習している	主体的に学習に向かう態度	ビジョン・ゴールシート ノート 場面観察 面接	対象者に人間的な関心に向け主体的に学習している	①新しい命と家族を育む実習に臨む自らのビジョン・ゴールを具体的に表現している。	①新しい命と家族を育む実習に臨む自らのビジョン・ゴールを表現している。	①新しい命と家族を育む実習に臨む自らのビジョンもしくはゴールを表現しているが抽象的である。	①新しい命と家族を育む実習に臨む自らのビジョン・ゴールを表現できない。
	看護学生としての責任と役割を果たそうと主体的に実習する	主体的に学習に向かう態度	ビジョン・ゴールシート ノート カンファレンス グループ活動への参加状況 面接	チームの一員として看護学生の責任と役割を果たそうと主体的に行動することができる	①チームの一員として、グループ活動に積極的に参加し、他者の意見を引き出し、自分の意見も建設的に述べるができる。	①チームの一員としてグループ活動に参加し、自分の意見を述べるができる。	①チームの一員としてグループ活動に参加し、他者の意見が述べることができる。	①グループ活動に消極的であり、教員の促しがあっても自分の意見を述べるができない。
ウェルネスの視点を踏まえ、対象者がより健康に経過するための看護を理解する	対象者のニーズを把握する	知識技能	ノート 援助場面 カンファレンス	対象者のニーズを把握することができる	・対象者のニーズを把握し、具体的に述べるができる。	・対象者のニーズを把握しているが、具体性に欠ける。	・対象者のニーズを把握しているが、その内容には不足がある。	・対象者のニーズを把握できない。
	健康レベルを回復及び維持・促進する援助を考える	知識技能	ノート 援助場面 カンファレンス	対象者のニーズを満たす援助を考えることができる	・対象者のニーズを満たす援助を、根拠を元に具体的に考えることができる。	・対象者のニーズを満たす援助を具体的に考えられているが、その根拠にはやや不足がある。	・対象者のニーズを満たす援助を考えることはできているが、具体性や根拠に不足がある。	・対象者のニーズを満たす援助を考えることができない。
	対象者のニーズを満たす、安全・安楽に配慮した援助ができる	知識技能	ノート 援助場面 カンファレンス	ニーズを満たす援助を安全・安楽に実施することができる	①対象者の状況に応じて、安全・安楽に対象者のニーズを満たす援助を実施または考えることができる。	①対象者の状況に応じて、安全・安楽に対象者のニーズを満たす援助を実施または考えることができる。	①対象者の状況に応じて、安全・安楽に対象者のニーズを満たす援助を実施または考えることができるが不足がある。	①対象者の状況に応じて、安全・安楽に対象者のニーズを満たす援助を実施できない。
	対象者の特徴を整理し、ウェルネスの視点でアセスメントする	思考判断表現	ノート 援助場面 カンファレンス 凝縮ポートフォリオ 面接 グループ活動 私たちのめばえ	対象者の想いや願いを踏まえウェルネスの視点で理解することができる	①対象者の三側面を一連の経過で捉え、また、退院後の生活を予測している。	①対象者の三側面を一連の経過で捉えている。また、退院後の生活について予測しているが、その内容については不足がある。	①対象者の三側面を一連の経過で捉えているが、退院後の生活については述べられていない。	①対象者の三側面を一連の経過で捉えられていない。
	対象者の今後の方向性（日常生活・育児方法）について情報を得る必要な援助内容を表現する	思考判断表現	ノート 援助場面 カンファレンス 凝縮ポートフォリオ 面接 グループ活動 私たちのめばえ	対象者の自己決定を支える看護を理解することができる	・対象者における自己決定を尊重することが、育児観に影響すること、家族関係の再構築を支援することに繋がることを表現することができる。	・対象者における自己決定を支援することが、親役割獲得に関係することを表現することができる。	・対象者における自己決定を支援する必要性について表現することができる。	・対象者における自己決定を支援する必要性について表現することができない。
	地域での子育て支援を通して切れ目のない支援の重要性を理解する	思考判断表現	ノート 援助場面 カンファレンス 凝縮ポートフォリオ 面接 グループ活動 私たちのめばえ	対象者が家族として発達していくことを支える看護を理解することができる	①家族関係の情報を得て、新しい家族形成に影響をもたらす因子を把握し、現在そして今後変化していく家族の形を表現することができる。	①家族関係の情報を得て、新しい家族形成に影響をもたらす因子を把握し、現在の家族の形を表現できる。	①家族関係の情報を得て、現在の家族の形を表現できる。	①家族関係の情報を得られない。
生命の尊さについて表現し、自己の母性・父性・家族観を見つめることができる	周産期の母子の看護を通して新たな命が生まれることの意味を考え、自己の母性観や父性観・家族観をまとめる	思考判断表現	ノート カンファレンス 凝縮ポートフォリオ 面接 グループ活動 私たちのめばえ	対象者との関わりを通して命の尊さについて考えたことを表現することができる	・周産期の母子を通して、新たな命の尊厳について、自己の感情や考えを実習での体験をもとに、具体的にかつわかりやすく表現できる。	・周産期の母子を通して、新たな命の尊厳について、自己の感情や考えを具体的に表現できる。	・周産期の母子を通して、新たな命の尊厳について、自己の感情や考えに気づいているが表現が不十分である。	・周産期の母子を通して、新たな命の尊厳や、自己の感情に気づかない。又は考えを表現できない。
		思考判断表現	ノート カンファレンス 凝縮ポートフォリオ 面接 グループ活動 私たちのめばえ	対象者との関わりを通して自己の母性や父性・家族観について考えたことを表現することができる	・自己の母性や父性、家族観に気づき、実習を通して母性や父性、家族観の変化や再確認したことを実習での体験をもとに具体的にかつ論理的に表現することができる。	・自己の母性や父性、家族観に気づき、実習を通して母性や父性、家族観の変化や再確認したことを具体的に自分の言葉で表現できる。	・自己の母性や父性、家族観に気づき、実習を通して母性や父性、家族観を表現しているが内容に不足がある。	・自己の母性や父性、家族観の気づきを表現できない。

科目名	こころの健康をささえる実習	
単位数	2 単位 90 時間	
実習目的	病棟実習 入院治療が必要な精神疾患を抱える患者のストレング스에着目し、自己の特性をふまえたうえでその人らしい生活ができるようささえることができる 施設実習 精神に障がいを抱えながら地域で生活する対象への支援の実際について考えることができる	
ねがい	病棟実習では、既習の知識をふまえた上で、精神疾患に起因する健康問題に対するケアや機能回復への支援を学んでほしい。そして、自己の感情が思考に影響を与えることに気づくとともに、対象に関わることそのものが看護となることの体験をしてほしい。それらの体験より、自己の特性が看護に影響することを理解して患者と関わる必要性に気づいてほしいと願う。また権利擁護の観点から対象者へのケアの提供がどのようになされているのかを知ってほしい 施設実習では、精神保健福祉法・障害者総合支援法に基づく障害者についての知識をふまえた上で、障がいを抱えながら地域で生活する対象を理解してほしい。施設を利用する人々が、自己実現についてどのように考えているかを知り、障がいを抱えながら地域でその人らしく生きていくためには、どのような支援が必要か、実習での体験を通して学んでほしい	
実習目標	病棟実習 1)精神科看護の特徴を理解する 2)精神に障がいを抱える患者について理解する 3)相互関係のプロセスの中で、患者との関わりについて理解する 4)精神科看護における看護師の役割について理解する 5)疾患や障がいをもちながら生活するために必要な社会資源や医療・福祉チームの連携を理解する 6)医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす	施設実習 1)施設の概要、事業内容を理解する 2)施設を利用する対象への支援の必要性を理解する 3)看護学生としての役割と責任を果たす
対象	精神疾患を抱え、入院および地域で就労支援施設等に通所している人	
実習場所	・病院(精神科) ・就労移行支援 **就労継続支援 A 型・就労継続支援 B 型 **地域活動支援センター ・成人通所事業所	
実習方法	精神疾患を抱える対象のいる場所で、他者理解、自己理解を通して、支援を実践する	
評価規準	【病棟実習】 1)精神障がいをもつ対象をささえるために主体的に学習に取り組む態度 ①精神科看護の特徴をふまえて看護学生としての責任と役割を果たそうと行動し主体的に学習している 2)精神障がいをもつ対象をささえるための思考・判断・表現 ①精神科における治療環境と権利擁護の特徴について表現している ②精神に障がいのある患者に関心を寄せている ③情報を系統的に整理したうえでストレングスを見出し、患者の抱える問題を表現している ④患者との関わりを通して自己の特性を表現している ⑤体験を通して精神疾患患者を支援する看護師の役割について表現している ⑥患者が自立した生活を送るための継続的な支援の必要性を表現している 3)精神障がいをもつ対象をささえるための知識・技能 ①患者のストレングスと自己の特性をふまえたうえで、患者に適した方法で支援する 【施設実習】 1)施設を利用する対象を知るために主体的に学習に取り組む態度 ①看護学生としての役割や責任を果たそうと行動し主体的に実習している 2)精神障がいをもつ対象をささえるための思考・判断・表現 ①実習を行う施設の特徴を表現している ②精神に障害を抱えながら地域で生活する対象に関心を寄せている ③精神に障がいを抱えながら地域で生活する対象に対する支援の必要性について表現している 3)精神障がいをもつ対象を支援するために必要な知識・技能 ①法令に則った支援の実際について表現している	

こころの健康をささえる実習(病棟) ルーブリック評価表

実習目標	学習活動	評価の観点	評価資料	具体的な評価規準	評価基準(尺度)				ポイント
					10点	8点	6点	2点	
精神科看護の特徴を理解する	精神科病棟における治療環境と権利擁護の関連について考える	思考 判断 表現	自己学習 オリエンテーション用紙 カンファレンス場(面観察)	精神科病棟における治療環境と権利擁護の特徴について表現している	精神科病棟の構造・機能の特徴と患者に対する権利擁護について整理し、2つの関連性についても法令に照らし合わせ根拠を明確に表現している	精神科病棟の構造・機能の特徴と患者に対する権利擁護について整理しているが、2つの関連性は示しているが根拠が曖昧である	精神科病棟の構造・機能の特徴と患者に対する権利擁護について整理しているが、2つの関連性もしくは根拠のいずれかを示していない	精神科病棟の構造・機能の特徴と患者に対する権利擁護について整理しているが、2つの関連性は表現していない	精神保健福祉法倫理的配慮 権利擁護 鍵の管理 行動制限と処遇
精神に障がいを抱える患者について理解する	精神障がいのある患者の思いに寄り添う	思考 判断 表現	自己学習 対話 場面観察 カンファレンス	精神障がいのある患者に関心を寄せている	精神障がいを持ちながら生活する患者に関心を向け、関わりについて根拠をもって表現している	精神障がいを持ちながら生活する患者に関心を向け、関わっているが、根拠があいまいである	精神障がいを持ちながら生活する患者に関心を向けようとしているが、関わりに根拠が不足している	精神障がいを持ちながら生活する患者に関心がない	
	収集した情報をもとに、ストレングスを見出し、患者の抱える問題について考える	思考 判断 表現	リフレクション用紙 面接 アセスメントシート 全体像	情報を系統的に整理したうえでストレングスを見出し、患者の抱える問題を表現している	・情報を系統的に整理し、患者のストレングスを見出している ・患者のストレングスを明確にしたうえで、患者の抱える問題について表現している	・情報を整理し、患者のストレングスを見出している ・患者の抱える問題について表現しているが、ストレングスとの関連性に不足がある	・情報の整理はしているが、ストレングスを見出していない ・患者の抱える問題について表現しているが、ストレングスとの関連性がない	・情報の整理に不足があり、ストレングスも見出していない	ストレングス
相互関係のプロセスの中で、患者との関わりについて理解する	患者との関わりから、自己の特性を表現する	思考 判断 表現	プロセスレコード リフレクション用紙 場面観察 面接 実習のまとめ	患者との関わりを通して自己の特性を表現している	患者との関わりを通して自己の特性を明確に表現している	患者との関わりを通して自己の特性を表現しているが、具体性に欠ける	自己の特性に気づいているが、患者との関わりとの関連が不足している	自己の特性に気づいていない	
	患者のストレングスと自己の特性をふまえたうえで、患者に適した方法で支援する	知識 技能	リフレクション用紙 場面観察 看護計画用紙 アセスメントシート プロセスレコード	患者のストレングスと自己の特性をふまえたうえで、患者に適した方法で支援する	・自己の特性をふまえたうえでストレングスを活かし、関わりそのものが支援であることを理解する ・関わりそのものが支援であることを理解したうえで、意図的に関わっている	・自己の特性をふまえたうえでストレングスを活かし、関わりそのものが支援であることを理解する ・関わりそのものが支援であることを理解しているが、意図的な関わりが不足がある	・自己の特性をふまえたうえでストレングスを活かし、関わりそのものが支援であることを理解する ・関わりそのものが支援であることを理解に不足がある	・関わりそのものが支援であることを理解していない	ストレングス
精神科看護における看護師の役割について理解する	精神科病棟実習を通して学んだことを整理し、精神科看護師の役割が分かる	思考 判断 表現	カンファレンス用紙 場面観察 面接 実習のまとめ	体験を通して精神疾患患者を支援する看護師の役割について表現している	看護師の活動の実際や実習体験から、精神疾患患者を支援する看護師の役割を自分の言葉で表現している	看護師の活動の実際や実習体験から、精神疾患患者を支援する看護師の役割を表現している	看護師の活動の実際や実習体験から、精神疾患患者を支援する看護師の役割を表現しているが不足がある	看護師の活動の実際の見学はしているが、精神疾患患者を支援する看護師の役割を表現していない	
疾患や障がいをもつ人が生活するうえで、継続的な支援のために必要な社会資源や医療・福祉チームの連携を理解する	患者が活用できる社会資源や連携する職種、部署を知り、継続的な支援について考える	思考 判断 表現	アセスメントシート カンファレンス用紙 自己学習ノート 面接 実習のまとめ	患者が自立した生活を送るための継続的な支援の必要性を表現している	退院後に患者が自立した生活が送れるよう、継続的に支援する必要性を根拠を明確に表現している	退院後に患者が自立した生活が送れるよう、継続的に支援する必要性を表現している	退院後に患者が自立した生活が送れるよう、継続的に支援する必要性を表現しているが不足がある	自己学習として、社会資源や関連職種は調べているが、患者との関連性がない	退院支援プログラム
医療チームの中での看護学生としての役割や責任を果たす	医療チームの中で看護学生としての役割や責任を果たし主体的に実習する	主体的に学習に取り組む態度	自己学習 場面観察 カンファレンス 出席状況 健康管理状況	精神科看護の特徴をふまえて看護学生としての役割や責任を果たそうと行動し主体的に学習している	・実習に支援をきたさないように健康管理を行っている ・医療チームの一員として情報共有や連絡・報告・相談を随時行っている ・看護をイメージしながら、活用できる学習を適宜行って実習にのぞんでいる	・実習に支援をきたさないように健康管理を行っている ・医療チームの一員として情報共有や連絡・報告・相談を行っている ・看護をイメージしながら、活用できるように学習している	・実習に支援をきたさないように健康管理していたが、欠席・遅刻があり実習に支援をきたした ・医療チームの一員として情報共有や連絡・報告・相談を行っていたがタイミングを逃すことが多く内容にも不足が目立った ・学習はしていたが、看護への活用ができない		

科目名	臨床へつなぐ実習 I
単位数	2 単位 (90 時間)
実習目的	看護管理の実際を学び、既習の知識と技術と態度を統合し、看護チームの一員として、複数患者の看護を実践することができる
ねがい	看護師に求められる能力は、看護の対象となる人々に医療の現場のみならず、地域においても、あらゆる状況のなかで発揮されなければならない。看護師は常に状況を判断し、それまでに培った知識・技術を適用しなければならない。 本実習では、これまでの講義・実習で培った患者のケアに対する知識・技術・態度を統合して、看護を実践してほしい。また、複数の患者の看護展開を行う中で、優先順位を判断し、時間管理を行い、多重課題遂行時のリスク回避の方法を身に付けてほしい。そして病院・看護組織における医療チームのメンバーの一員として、対象者が、その人らしく生活するために医療・介護・福祉の連携の中で看護師が担う役割を理解してほしい。さらに看護チームの一員として、コミュニケーション力を高め、継続性のある看護実践について考え、看護マネジメント力の必要性を学んでほしい
実習目標	1) 看護マネジメントの実際を知り、看護実践において看護管理や医療安全管理の重要性を理解できる 2) 医療チームの一員として看護師が担う役割や責任を理解することができる 3) 看護チームを意識しながら、複数患者の状態・状況に応じた看護を実践できる 4) 実習をととして自己の看護実践力を振り返り、看護・医療チームの一員としての自覚と責任について考え、自己の課題を見出すことができる 5) 医療チームの一員である看護学生としての責任と役割を果たそうと行動することができる
対象	健康障害のある成人・老年期患者
実習場所	病院
実習方法	1) 複数患者受け持ちの看護実践 2) 看護チームを意識した看護実践 3) 病院組織における看護管理の見学 4) 夜間の患者の生活に沿った看護業務の実際の見学
評価規準	1) 医療チームの一員として看護師の役割遂行と看護を実践するための知識・技能 ① 看護管理についての自己学習・見学をととして、チームで業務を遂行するための看護師の役割、責務について表現している ② 専門職としての看護倫理や医療安全に基づいて、看護を実践している ③ 夜間における患者の療養生活ふまえ、看護を遂行するための看護業務・業務管理について表現している ④ 複数受け持ち患者の疾患・治療処置・看護をアセスメントし、個別性をふまえ援助計画を立案している。優先度をふまえて行動計画を立案している ⑤ 自己の能力を査定し、倫理観を持って看護を実践している 2) 医療チームの一員として看護師の役割の遂行と看護を実践するための思考・判断・表現 ① 看護チーム間における連携と調整をふまえ、自己の役割を考え連絡・報告・相談している ② 複数受け持ち患者の状況を判断し、優先順位を決定し、時間管理をしながら看護を実践している ③ 複数受け持ち患者に行った看護について、その場の状況・実施した内容と実施中もしくは実施後の考え・感じたことを振り返り、次につなぐ内容を表現している ④ 体験をふまえ看護における自己の課題を明確に表現している 3) 医療チームの一員として看護師の役割を遂行し看護を実践するための主体的に学習に向かう態度 ① 医療チームの一員である看護学生としての責任と役割を果たそうと行動し、主体的に学習している

臨床へつなぐ実習Ⅰ ルーブリック評価表

実習目標	学習活動	評価の観点	評価資料	具体的な評価規準	評価基準			
					10点	8点	6点	2点
看護マネジメントの実践を知り、看護実践において看護管理や医療安全管理の重要性を理解できる	病院内の組織における看護部門の位置づけや各看護単位との連携について学習する 看護単位における各部署での看護業務と看護管理について学習する	知識技能	対話 場面観察 オリエンテーション用紙 実習日誌 自己学習ノート	看護管理についての自己学習・見学をとおしてチームで業務を遂行するための看護師の役割、責務について考えたことを自身の言葉で具体的に表現している	看護チームにおける業務内容や流れを分かりやすく整理している 看護チームにおいて業務を遂行するための看護師の役割、責務について考えたことを自身の言葉で表現している 看護管理の見学をとおして、看護チームにおける安全管理、業務調整、病棟単位での連絡の調整について具体的に表現している	看護チームにおける業務内容や流れを整理している 看護チームにおいて業務を遂行するための看護師の役割、責務について表現しているが不足がある 看護管理の見学をとおして、看護チームにおける安全管理、業務調整、病棟単位での連絡の調整について表現している不足がある	看護チームにおける業務内容や流れを整理しているが不足がある 看護チームにおいて業務を遂行するための看護師の役割、責務について表現していない 看護管理の見学をとおして、看護チームにおける安全管理、業務調整、病棟単位での連絡の調整について表現していない	看護チームにおける業務内容や流れを整理できない 看護チームにおいて業務を遂行するための看護師の役割、責務について表現できない 看護管理の見学をとおして、看護チームにおける安全管理、業務調整、病棟単位での連絡の調整について表現できない
医療チームの一員として看護師が担う役割や責務を理解することができる	倫理観や医療安全に基づいて患者の安全を守る行動をとっている	知識技能	援助計画 対話 場面観察 カンファレンス	専門職としての看護倫理や医療安全に基づいて、看護を実践している	療養上の世話、診療の補助に関するリスクとその根拠を明確にしている。 根拠に基づいて、患者の安全を守る行動を常にとっている。	療養上の世話、診療の補助に関するリスクを表現しているが根拠が曖昧である。 根拠は曖昧な部分があるが患者の安全を守ろうと行動している。	療養上の世話、診療の補助に関するリスクを表現しているが根拠が乏しい。 患者の安全を守ろうと行動しているが、助言や指導が必要である。	養上の世話、診療の補助に関するリスクを表現しているが根拠がない。 患者の安全を守るための行動がとれない。指摘してもそれに気づかない。
	医療チーム・看護チームの一員として自己の役割を考える。 タイムリーに連絡・報告・相談を行う	思考判断表現	場面観察 実習計画用紙 カンファレンス 対話	看護チーム間における連携と調整をふまえ、自己の役割を考え連絡・報告・相談している	チームにおけるリーダーシップ、メンバーシップを意識し、概ねタイムリーに連絡・報告・相談を行っている その場の状況を理解し、チームメンバーでの自己の役割を考え、適切に行動している	チームにおけるリーダーシップ、メンバーシップを意識し、概ねタイムリーに連絡・報告・相談が最後まで一部行えないことがあった その場の状況を理解し、チームメンバーでの自己の役割を考え行動しているが不足がある	チームにおけるリーダーシップ、メンバーシップを意識し、連絡・報告・相談しようとしているが内容や時間が適切でない その場の状況を理解し、チームメンバーでの自己の役割を考え行動ができない	チームにおけるリーダーシップ、メンバーシップを意識し、連絡・報告・相談しようとしているが内容や時間が適切でない その場の状況を理解し、チームメンバーでの自己の役割を考え行動ができない
	夜間の患者の生活の様子や必要な看護について考える	知識技能	対話 カンファレンス 実習計画用紙 援助計画 自己学習ノート	夜間における患者の療養生活ふまえ、看護を遂行するための看護業務・業務管理について表現している	夜間帯の看護師の役割や、限られた人数で業務を遂行するための協働の必要性を自分の言葉でわかりやすく表現している 夜間の患者の療養生活の状況をわかりやすく表現している	夜間帯の看護師の役割や、限られた人数で業務を遂行するための協働の必要性を表現しているが不足がある 夜間の患者の療養生活の状況を表現しているが不足がある	夜間帯の看護師の役割や、限られた人数で業務を遂行するための協働の必要性を表現しているが不足がある 夜間の患者の療養生活の状況を表現できない	夜間帯の看護師の役割や、限られた人数で業務を遂行するための協働の必要性を表現できない 夜間の患者の療養生活の状況を表現できない
看護チームを意識ししながら、複数患者の状態・状況に看護を実践できる	複数受け持ち患者への看護実践に必要な情報をとらえ、援助計画を優先度を考えて立案する	知識技能	対話 カンファレンス 実習日誌 患者の全体像 実習計画用紙 援助計画 自己学習ノート	複数受け持ち患者の疾患、治療処置、看護をアセスメントし、個別性をふまえ援助計画を立案している 優先度をふまえて、行動計画を立案して	複数患者の疾患・治療処置・看護を系統だててわかりやすく表現している。 複数患者の看護計画・援助計画を個別性をふまえ立案している。 日々の行動計画における優先度は根拠をふまえて立案している。	複数患者の疾患・治療処置・看護を系統だてて表現している。 複数患者の看護計画・援助計画を立案しているが個別性に不足がある。 日々の行動計画における優先度を考えて立案しているが根拠に欠ける。	複数患者の疾患・治療処置・看護を表現しているが系統性に不足がある。 複数患者の看護計画を立案しているが個別性に不足がある。 日々の行動計画における優先度を考えて立案しているが根拠に欠ける。	複数患者の疾患・治療処置・看護を表現しているが系統だてて表現していない。 複数患者の看護計画を立案しているが個別性がない。 日々の行動計画における優先度を考えて立案しているが根拠がない。
	複数受け持ち患者の状態・状況を理解し、優先度・時間を考えて看護を実践する	思考判断表現	援助場面 対話 報告場面 カンファレンス 実習日誌	複数受け持ち患者の状況を判断し、優先順位を決定し、時間管理をしながら看護を実践している	複数患者の看護を時間や優先度を考慮し実践している。 その場での状況(患者の状態・状況変化)を自分で考えたことを正しく伝え、看護を実践している。	複数患者の看護を時間・優先度を考慮し実践しているがどちらにも不足がある。 その場での状況(患者の状態・状況変化)を相談しながら、看護を実践している。	複数患者の看護を時間や優先度を考慮し実践しているがどちらにも不足がある。 その場での状況(患者の状態・状況変化)について助言を受けながら、看護を実践している。	複数患者の看護をし実践しているが優先度が考えられないもしくは時間管理ができない。
	複数の受け持ち患者の状態や状況、実施した内容と実施の中もしくは実施後に考え、感じたことを表現し評価する	思考判断表現	アセスメントシート 看護計画用紙 実習日誌 カンファレンス 対話	複数受け持ち患者に行った看護について、その場の状況・実施した内容と実施中もしくは実施後考えたことを振り返り次になく内容を表現している	患者の状態・状況・受け持ち患者に行った援助を、目的・目標をふまえ、自分の言葉で分析・評価している 行った看護の振り返り、その中に自己の感情や考えがある 次にどのように行動するかを自分の言葉で具体的に表現している	患者の状態・状況・受け持ち患者に行った援助を、自分の言葉で分析・評価している 行った看護の振り返り、その中に自己の感情や考えがあるその内容に不足がある 次にどのように行動するかを自分の言葉で表現しているが不足がある	患者の状態・状況・受け持ち患者に行った援助を、分析・評価しているが不足がある 行った看護の振り返り、その中に自己の感情もしくは考えがあるその内容に不足がある 次にどのように行動する表現しているが不足がある	患者の状態・状況・受け持ち患者に行った援助を、分析・評価のどちらにも不足がある 行った看護の振り返り、その中に自己の感情も考えも表現できない 次にどのようにするか根拠がなく表現している
実習をとおして自己の看護実践能力を振り返り、看護・医療チームの一員としての自覚と責任を持って看護を実践する	学生自身の看護実践遂行時の自己の能力を認識し、看護チームの一員であることの自覚と責任について考え、自己の課題を見出すことができる	知識・技能	場面観察 自己学習ノート 実習計画用紙 実習日誌 看護技術到達度 カンファレンス	自己の能力を査定し、倫理観を持って実践している	自己の看護実践能力を的確に査定し、対象にとって安全な援助を提供している 患者との関わりや看護援助について、常に倫理観をもって実践している	自己の看護実践能力を査定し、対象にとって安全な援助を提供している 患者との関わりや看護援助について、倫理観をもって実践している	自己の看護実践能力を助言を受けながら査定し、対象者にとって安全に援助している 患者との関わりや看護援助について、倫理観をもって実践している	自己の看護実践能力が査定できず、対象者にとって安全な援助を提供できない 倫理観をもって患者と関わるということがあった
	体験から、自身の看護実践能力を査定する。 自己の看護実践を振り返り、課題を見出す。	思考判断表現	リフレクション カンファレンス ビジョン・ゴールシート 凝縮ポートフォリオ 面接	体験をふまえ看護における自己の課題を明確に表現している	看護実践能力について、体験から自分の言葉で表現している 自己の看護実践を振り返り、自己の課題をわかりやすく具体的に表現している	看護実践能力について、体験から自分の言葉で表現している 自己の看護実践を振り返り、自己の課題を具体的に表現している	看護実践能力について、体験から自分の言葉で表現しているが内容に不足がある 自己の看護実践を振り返り、自己の課題を表現している	看護実践能力について、体験から表現しているが内容に不足がある 自己の看護実践を振り返るのみで、自己の課題がない
医療チームの一員である看護学生としての責任と役割を果たそうと行動することが出来る	自身の目標に向かって、健康管理を行い、実習前・中・後において必要な準備・学習をする。	主体的に取り組む態度	場面観察 カンファレンス 自己学習ノート ビジョン・ゴールシート 凝縮ポートフォリオ 出席状況 健康管理状況	医療チームの一員である看護学生としての責任と役割を果たそうと行動し、主体的に学習している	実習に臨む自身のビジョン・ゴールを具体的に表現している 実習に支障を来さないように健康管理している 社会人としての約束を守ることができる。また、医療チームの一員であるという自覚を持ちながら実習している 実習前、中、後に必要な学習を適切に自主的に行い、看護に活かしている	実習に臨む自身のビジョン・ゴールを表現している 実習に支障を来さないように健康管理している 社会人としての約束を守ることができる 医療チームの一員であるという自覚を持ちながら実習しようとしている 実習前、中、後に必要な学習を適切に自主的に行っている	実習に臨む自身のビジョン・ゴールを表現しているが抽象的である 実習に支障を来さないように健康管理しているが、欠席・欠課・遅刻があった 医療チームの一員であるという自覚を持つことができない 実習前、中、後に必要な学習を自主的にしている	実習に臨む自身のビジョン・ゴールが表現できない 実習に支障を来さないように健康管理しているが、欠席・欠課・遅刻があった 医療チームの一員であるという自覚を持つことができない 実習前、中、後に必要な学習に不足がある

分野【看護と連携】

科目名	情報科学Ⅱ	配当時期	2年次 後期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容				
科目全体のねらい・授業目標 看護実践の場における PC を使った安全な情報の取扱いとデータ分析の基礎を習得する プレゼンテーションソフトの基本操作を習得する				
DPとの関連 DP3. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種と協働する力 1)多職種と連携・協働するために必要な基礎的能力を身につける				
回	学習内容と成果			方法
1	情報機器の基礎			講義
2	ネットワークの基礎			講義
3	医療と情報システムの基礎			講義
4	AI とプログラミング			演習
5	Power Pointo1 基礎、小テスト			演習
6	Power Pointo2 グループ単位で作成			演習
7	Power Pointo3 グループ単位で発表			演習
8	Excel1 操作と入力の基礎			演習
9	Excel2 計算			演習
10	Excel3 関数 1 複雑な計算			演習
11	Excel4 関数2 判断や評価			演習
12	Excel5 グラフ			演習
13	Excel6 統計			演習
14	Excel7 総合演習			演習
15	Excel8 終講試験			課題作成による評価
備考				
受講上の注意 受講には各自 USBメモリを準備すること。演習は情報科学室で実施する。各自割り当てられた番号PCを指定の机に準備して受講する				
評価方法 出席状況と課題作成で評価				
使用テキスト				
系統看護学講座 別巻 看護情報学				
参考文献				

科目名 人間関係論	配当時期 1年次 後期 単位数 1単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容		
科目全体のねらい・授業目標 自己理解、他者理解の方法を学び、人間関係成立過程を理解する。また、体験学習をととして、よりよいコミュニケーションのあり方およびカウンセリングの理論や方法を理解する		
DPとの関連 DP3. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種と協働する力 1) 多職種と連携・協働するために必要な基礎的能力を身につける		
回	学習内容と成果	方法
1	オリエンテーション 授業ガイダンス 体験学習:自己紹介	講義 演習
2	人間関係の中の自己と他者 体験学習:他者紹介	講義 演習
3	人間関係の始まり、発達 発達段階と発達課題	講義 演習
4	コミュニケーション	講義 演習
5	カウンセリングと心理療法 5～11 回 カウンセリングと心理療法について理解する	講義 演習
6	カウンセリングと心理療法	講義 演習
7	カウンセリングと心理療法	講義 演習
8	カウンセリングと心理療法	講義 演習
9	カウンセリングと心理療法	講義 演習
10	カウンセリングと心理療法	講義 演習
11	カウンセリングと心理療法	講義 演習
12	12～13 回患者を支える人間関係のあり方について考え意見を述べることができる患者を支える人間関係	講義 演習
13	患者を支える人間関係	講義 演習
14	アサーティブコミュニケーションについて理解する アサーティブコミュニケーション	講義 演習
15	学習のまとめと評価	講義 筆記試験
備考		
受講上の注意		
評価方法 出席状況とレポート、筆記試験による総合評価		
使用テキスト:系統看護学講座 基礎分野 人間関係論		
参考文献		

科目名 社会福祉と社会保障	配当時期 2年次 前期 単位数 1単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容		
科目全体のねらい・授業目標 社会生活上のさまざまな困難に対応する社会保障制度、そして社会福祉制度の理念と内容を理解する 医療従事者として、生活の質、対象者の主体性を大切に、健康や暮らしを支えるための諸制度の活用方法を保健、医療、福祉の連携のなかで理解する		
DPとの関連 DP3. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種と協働する力 1) 多職種と連携・協働するために必要な基礎的能力を身につける		
回	学習内容と成果	方法
1	社会保障の概要を知る 社会保障の概念、目的、機能、体系	講義
2	2～5 回社会福祉の概要を理解する 社会福祉の内容 社会保障給付費 少子高齢化と社会保障制度	講義
3	社会福祉の法制度と歴史 社会福祉法と福祉六法	講義
4	社会福祉の組織と実施体制	講義
5	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	講義
6	6～10 回保障制度の概要について理解する 医療保障	講義
7	介護保障	講義
8	所得保障	講義
9	所得保障	講義
10	公的扶助	講義
11	11～12 回社会福祉の分野とサービスについて理解する 社会福祉の分野とサービス	講義
12	社会福祉の分野とサービス	講義
13	13～14 回 社会福祉実践と医療・介護について理解する 社会福祉実践と医療・看護	講義
14	社会福祉実践と医療・看護	講義
15	学習のまとめと評価	講義 筆記試験
備考		
受講上の注意		
評価方法 出席状況と筆記試験による総合評価		
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 参考文献		

科目名 地域包括支援	配当時期 3 年次 前期 単位数 1 単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 地域療養を支える制度・社会資源・PCC (People-Centered-Care) について学習しておく		
科目全体のねらい・授業目標 1. 地域で暮らす人々と家族を支える仕組みについて理解できる 2. 地域・在宅看護論に関連する法と制度を理解できる		
DPとの関連 DP3. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種と協働する力 1) 多職種と連携・協働するために必要な基礎的能力を身につける		
回	学習内容と成果	方法
1	地域包括支援ケアシステムの背景と機能について理解できる ・地域包括ケアシステムの背景・機能	講義
2 3	費用負担区分からみた地域包括ケアシステムについて理解できる ・高齢者の暮らしを支える互助・共助 ・介護予防のための自助・互助 ・退院から在宅療養生活にむけた自助・互助 ・認知症見守りシステムについて	DVD・演習
4	地域包括支援センターについて理解できる ・地域包括支援センターの機能・業務	講義
5	療養の場の移行に伴う看護について理解できる ・在宅療養移行支援(退院支援・退院調整)	講義・演習
6 7 8	多職種・多機関連携について理解できる ・行政・地域包括支援センターとの連携 ・居宅介護支援事業所・介護サービス事業所との連携 ・専門職以外の人々との連携	講義・DVD
9 10	地域療養を支える制度について理解できる ・医療保険制度 ・介護保険制度 ・障害者・難病に関する制度	講義
11	子どもの在宅療養を支える制度と社会資源について理解できる ・小児慢性特定疾病対策	講義
12	在宅療養者の権利を擁護する制度を理解できる ・権利擁護 ・成年後見制度・任意後見制度	講義
13 14	・ケアマネジメント・社会資源の活用について理解できる ・介護保険におけるケアマネジメント ・ケアマネジメントのプロセスとポイント	講義・演習
15	学習のまとめ	筆記試験
備考 必要時、資料を配布します。教科書と1回目からの資料も使用しますので授業時は準備しておいてください		
受講上の注意 「社会福祉と社会保障」「地域の人々の暮らしと健康を支えるチーム作り」「地域の特性と人々の暮らし」で連携学習をした内容について復習をして積極的に講義に臨むことを期待します		
評価方法:筆記試験 90% ・課題提出・出席状況 10%		
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院		

科目名 地域の人々の暮らしと健康をささえるチーム作り		配当時期 2年次 後期 単位数 1単位 時間数 15時間(8回)	担当者
事前学習内容 地域で連携する多職種について役割を調べておく 連携するチームの中で看護師の役割について発信できるように準備をする			
科目全体のねらい・授業目標 1. 事例を通して多職種連携の実際が理解できる 2. 多職種間のコミュニケーション能力を習得する			
DPとの関連 DP3. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種と協働する力 1) 多職種と連携・協働するために必要な基礎的能力を身につける			
回	学習内容と成果		方法
1	合同演習のオリエンテーション ・地域包括ケアシステムと多職種連携について ・連携する作業療法士・理学療法士・言語聴覚士の役割と業務内容 連携する専門職の役割と業務内容について理解できる ・セラピスト ケアマネージャー 薬剤師 ヘルパーなど		講義
2	事例の概要について理解できる ・事例患者の紹介		講義
3	事例を理解する 小テスト 合同演習の準備		演習
4 5	連携する作業療法士・理学療法士・言語聴覚士役割・業務内容の理解。 連携する作業療法士・理学療法士・言語聴覚士に多職種連携における看護師の役割・業務内容を説明する 各職種からの事例患者に関する情報の共有をはかり、必要な支援について考える		合同演習
6	事例患者の看護計画立案 合同演習から患者の具体的な看護計画の立案(セラピストの情報を活かした具体的な看護計画を立案する)		演習
7 8	立案した看護計画の共有 多職種連携における看護師の役割について考える		演習
備考 必要時、資料を配布します。教科書と1回目からの資料も使用しますので授業時は準備しておいてください			
受講上の注意 他の職種を目指す学生とグループワークをおこない、演習が多いためメンバーの一員として積極的にコミュニケーションをとることができるように考えて行動することを期待します 4、5回目に合同演習を実施します 4、5回目は実際の授業設定時間と異なる場合がありますので、1回目のオリエンテーションをしっかりと聞いて行動してください			
評価方法 レポート70%・出席状況10%・小テスト20% 事例の理解確認のための小テストを実施します			
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院 参考文献			

科目名	看護マネジメント	配当時期	3年次 後期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	20 時間 (10 回)	
事前学習内容 講義 看護への招待「看護における倫理」「看護機能と役割」「看護の国際協力」を復習する				
科目全体のねらい・授業目標 看護サービスの提供を円滑にするために必要な看護管理の基本を理解する 国・地域・民族・文化の違いを超えて看護を提供する重要性について学ぶ				
DPとの関連 DP3. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種と協働する力 1)多職種と連携・協働するために必要な基礎的能力を身につける				
回	学習内容と成果			方法
1	看護サービスと管理を理解することができる			講義
2	看護サービスと管理を理解することができる			講義・演習
3	看護の組織とマネジメントについて理解することができる リーダーシップについて 管理者になるということ チーム医療について			講義
4	看護の組織とマネジメントを理解することができる リスクマネジメント			講義・演習
5	看護における人材育成について理解することができる			講義
6	看護サービスについて理解することができる			講義
7	国際看護について理解することができる 世界を概観する			講義
8	国際看護について理解することができる 在日外国人の健康問題			講義
9	国際看護について理解することができる 異文化に配慮した看護			講義
10	学習のまとめと評価			講義 終講試験
備考				
受講上の注意				
評価方法 平常点(出席状況 レポート)10% 終講試験 90%				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院 参考文献				

科目名	災害と看護	配当時期	3年次 後期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	20 時間 (10 回)	
事前学習内容 自分の住んでいる地域のハザードマップ、防災マップ、防災に関する地域の情報を入手しその内容を把握する				
科目全体のねらい・授業目標 災害が生命に及ぼす影響について学び、災害時における看護の概要を理解する 防災についての知識を深め、看護の役割を理解する				
DPとの関連:DP3. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種と協働する力 1) 多職種と連携・協働するために必要な基礎的能力を身につける				
回	学習内容と成果			方法
1	災害看護について理解できる 災害の種類と災害サイクル 災害サイクルにおける看護活動			講義
2	災害時医療の特徴について理解できる 災害関連法律 危機管理 DMAT CSCATTT			講義
3	災害サイクルにおける看護活動について理解できる 国際災害看護について理解できる			講義
4	トリアージの実際が理解できる			講義
5	黒タグ課題、DPAT、災害机上シミュレーション			演習
6	災害発生時に備えた行動が理解できる 応急処置の基礎(包帯法・止血法・負傷者の移送など)			演習
7	地域における防災・減災の取り組みが理解できる 「人と・防災の未来センター」見学			フィールドワーク (校外学習) レポート課題
8	災害発生時に備えた行動について理解できる 災害への備え・減災について理解できる			
9	災害発生時の対応について理解できる 防災・減災と看護師の役割 災害時の地域医療システムの取り組み 医療施設における防災と減災 災害時の備え(避難方法・防災マップの活用・帰宅方法など)			講義 GW・発表
10	学習のまとめと評価			講義 終講試験
備考 8・9 回目は神戸市中央区にある「人と未来の防災センター」に行き、語り継がれる阪神・淡路大震災の経験と教訓を知ることによって防災・減災への意識を高める。体験し感じたことなどをレポートにまとめましょう				
受講上の注意 シミュレーション・演習・フィールドワークを通して災害に備えて、自分の行動をイメージし防災・減災を考え行動できるよう受講する				
評価方法 平常点(出席状況 レポート)20% 筆記試験 80%				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院				
参考文献				

分野【看護の創造】 看護とリフレクション

科目名	キャリア支援Ⅱ	配当時期	2年次 前期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	15 時間(8 回)	
事前学習内容				
科目全体のねらい・授業目標				
体験を系統的に振り返り、次の実践につながるリフレクションについて学ぶ。事例としてステップアップⅡ 実習を用い、リフレクションを体験し理解を深める。また自己の学びを表現するための文章作成能力を高める				
DPとの関連 DP4. 自己を客観視し変化を前向きに捉え、学び続ける力				
1)看護実践を批判的思考に基づいて省察できる				
回	学習内容と成果			方法
1	リフレクションの概要が理解できる リフレクションとは			講義
2	看護実践におけるリフレクションの手法が理解できるリフレクションとは			講義 演習
3	リフレクション①～④で「ステップアップⅡ～看護過程展開の実際～」での事例を活用し リフレクションを実践できる 「ステップアップⅡ～看護過程展開の実際～」リフレクション①			演習
4	「ステップアップⅡ～看護過程展開の実際～」リフレクション②			演習
5	自己の学びを人に伝える文章作成			演習
6	これまでの本校での学び、自己の成長を文章化できる			
7	リフレクション 学びの発表			演習
8				
備考				
受講上の注意				
評価方法 出席状況と課題、発表で総合評価				
使用テキスト				
講師プリント				
参考文献				

科目名 キャリア支援Ⅲ	配当時期 2年次 後期 単位数 1単位 時間数 15 時間(8 回)	担当者
事前学習内容		
科目全体のねらい・授業目標 体験を系統的に振り返り、実習体験のリフレクションを通して自己の学びを深めるとともに自己の学びを学生間で共有する		
DPとの関連 DP4. 自己を客観視し変化を前向きに捉え、学び続ける力 1) 看護実践を批判的思考に基づいて省察できる		
回	学習内容と成果	方法
1	専門領域実習 のリフレクションについて 演習方法の説明 リフレクションにつて チューター制について発表について など	講義
2	専門領域実習 のリフレクション	演習
3	専門領域実習 のリフレクション	演習(GW)
4	専門領域実習 のリフレクションから事例を探索的に振り返る	演習
5	専門領域実習 のリフレクションから事例の探究	演習
6	事例の探究 ・ 発表準備	演習
7・8	専門領域実習 1～2 の学びを人に伝えることができる 専門領域実習1～2 学びの発表	演習
備考		
受講上の注意 チューター制ですすめる 2・4～6は個人ワーク		
評価方法 出席状況と課題、発表で総合評価		
使用テキスト 講師プリント 参考文献		

科目名	臨床判断の基礎	配当時期 単位数 時間数	2年次後期 1単位 15時間(15回)	担当者
事前学習内容 提示される事例については、事前に疾患の病態、症状、治療などを調べる				
科目全体のねらい・授業目標 臨床判断モデルを活用し看護師のように考え、実践するための基礎的な方法を学ぶ リフレクションを通して自己の学びを表現し、次に活用できる知識としてインプットする				
DPとの関連 DP4. 自己を客観視し変化を前向きに捉え、学び続ける力 1) 看護実践を批判的思考に基づいて省察できる				
回	学習内容と成果			方法
1	看護を取り巻く現状と臨床判断の必要性について理解する 臨床判断能力が求められる背景、看護を取り巻く現状 事例を提示し初期把握をするために必要な各自の課題を明確にする			講義 演習
2	事例患者の疾患・症状、治療・処置に対しての「気づき」を共有する 各自の課題学習を基盤に予期・初期把握を行う			講義 反転学習
3	事例患者に起こっていることを「解釈」する(今後を推論)する 症状、検査データ、治療の関連を考え推論する 今までの学習経験・自己学習から推論する			講義 演習
4	事例患者に起こっていることに対してどのような「反応」をするか考える 推論をもとに必要な看護を考える 「結果」と「省察(リフレクション)」			講義 演習
5	事例患者に起こっていることに対する臨床判断(臨床判断のサイクル)について考える 初期把握・気づき・解釈・反応・結果・省察 について振り返る			講義 演習
6・ 7	事例を用いて臨床判断のプロセスを体験する 呼吸、循環、消化器など複数の事例から症状や訴えから、臨床判断をすすめる			シミュレーション学習
8	学習のまとめ			筆記試験
備考				
受講上の注意 提示される事例については、次の講義には疾患の病態、症状、治療などを調べ、その内容を記述・口頭で表現できるように学習をすすめる				
評価方法 筆記試験50% 課題提出50%				
使用テキスト プリント 参考文献				

分野【看護の創造】 看護の探求と自己の成長

科目名	キャリア支援Ⅰ	配当時期	1年次 前期	担当者
		単位数	1単位	
		時間数	30 時間(15 回)	
事前学習内容				
科目全体のねらい・授業目標				
理系知識の確認及び論理的な文章作成能力を高め、看護基礎教育に必要な学習スキルを高める				
DPとの関連 DP4. 自己を客観視し変化を前向きに捉え、学び続ける力 2) 自己の課題を見出し解決に向けて行動できる				
授業の流れ(全体スケジュール、学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等) 8～14 回は課題に沿ったレポート作成提出が求められる				
回	学習内容と成果			方法
1	受講の準備、礼儀 挨拶、目標管理の方法 自ら設定した目標に向けて、受講への姿勢を整えることができる			講義
2	量の単位と数値の扱い方 計算の基本 量と体積 看護に必要な単位と計算について理解する			講義
3	ベクトル モーメント 看護に必要な単位と計算について理解する			講義
4	濃度と比 看護に必要な単位と計算について理解する			講義
5	化学式 看護に必要な単位と計算について理解する			講義
6	圧力 看護に必要な単位と計算について理解する			講義
7	看護に必要な単位と計算まとめ 中間試験			講義 試験
8	記述上の注意と文章作成の基本 ①求められているものを書く 8～15 回 文書作成の基本を理解し、課題に添ったレポート作成ができる			講義
9	文書作成の基本 ②動き、変化を伝える③因果関係を意識する			講義
10	文書作成の基本 ④事実と考察を分ける⑤文章のための事象分析のカテゴリー			講義
11	文書作成4 因果関係を掘り下げる			講義
12	文書作成5 生活環境の論理分析			講義
13	文書作成6 言語作品分析(読書報告)①			講義
14	文書作成7 言語的作品(読書報告)②			講義
15	まとめ 筆記試験			講義 試験
備考 8～14 回はレポート作成提出あり				
受講上の注意				
評価方法 出席状況、レポート提出と筆記試験で評価				
使用テキスト				
プリント				
参考文献	系統看護学講座	基礎分野	物理学	医学書院
	系統看護学講座	基礎分野	化学	医学書院

科目名 看護研究	配当時期 3 年次 前後期 単位数 1 単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者
事前学習内容 ケーススタディをまとめるにあたり、専門領域実習で受け持った対象者の中から事例を検討しておく		
科目全体のねらい・授業目標 看護研究・ケーススタディの意義や目的を理解し、看護における研究の必要性を認識する。また、研究計画書・ケーススタディをまとめる中で、論文作成の基本を理解する。また、ケーススタディに取り組む中で研究活動における倫理的配慮について、振り返り、専門職業人として倫理的判断に基づいた行動につながる基礎的能力を養う		
DPとの関連 DP4. 自己を客観視し変化を前向きに捉え、学び続ける力 2) 自己の課題を見出し解決に向けて行動できる		
回	学習内容と成果	方法
1	看護研究とケーススタディの目的と意義が理解できる 1) 看護研究とは 2) ケーススタディとは 3) 看護研究・ケーススタディにおける倫理的配慮	講義
2	看護研究の進め方が理解できる 1) リサーチクエスト 2) 文献レビューと文献クリティーク 3) 研究計画書の立案 4) データ収集 5) 分析・結果・考察	講義
3	看護研究におけるデータの収集と分析方法がわかる 1) 質的研究と量的研究 2) 質的研究におけるデータ収集法 3) 量的研究におけるデータ収集法	講義
4	看護理論・先行研究の検索と活用が理解できる。 1) 文献検索の方法 2) 看護理論 3) 文献の引用の方法	講義
5	研究計画書の書き方がわかる 1) 研究計画書とは 2) 倫理審査とは	講義・演習
6	ケーススタディをまとめる中で自己の看護を振り返ることができる① 1) 事例におけるリサーチクエストの決定 2) 事例についての文献レビュー・文献クリティーク	個人演習
7	ケーススタディをまとめる中で自己の看護を振り返ることができる② 1) 臨地実習の事例について、研究計画書を作成する 2) 担当教員との個別演習	個人演習
8	ケーススタディをまとめる中で自己の看護を振り返ることができる③	個人演習
9	ケーススタディをまとめる中で自己の看護を振り返ることができる④	個人演習
10	ケーススタディをまとめる中で自己の看護を振り返ることができる⑤	個人演習
11	ケーススタディをまとめる中で自己の看護を振り返ることができる⑥	個人演習
12	ケーススタディをまとめる中で自己の看護を振り返ることができる⑦	個人演習
13	ケーススタディ発表に向けた準備ができる 1) 発表資料の作成	個人演習
14	ケーススタディの発表と聴講①	演習
15	1) 発表と自己の振り返り 2) 自己の振り返りや聴講する中で批判的思考ができる	自己評価 他者評価
備考		
受講上の注意 記録の取り扱いに注意すること		
評価方法 課題提出、研究計画書・ケーススタディ・レポートの提出と取り組み、出席状況を総合的に評価する		
使用テキスト 系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版 (電子版)		

科目名 臨床看護実践演習	配当時期 3年次 前期 単位数 1単位 時間数 30時間 (15回)	担当者
事前学習内容 講義: 経過別看護 急性期、回復・リハビリ期、慢性期を復習する 地域包括支援 看護地域包括ケアプラン、退院支援、多職種連携、を復習する		
科目全体のねらい・授業目標 既習の知識・技術を統合し患者やその家族、その場の状況をとらえ、一人ひとりの患者のニーズに合った看護を実践する能力を養う		
DPとの関連 DP4. 自己を客観視し変化を前向きに捉え、学び続ける力 2) 自己の課題を見出し解決に向けて行動できる		
回	学習内容と成果	方法
1	看護の統合について考えることができる 患者の病期にあわせた看護 急性期・回復期・リハビリ期・慢性期の患者・家族の特徴 各期における看護と看護師の役割 事前課題テスト 終了時次回の患者さんの状況についての課題の提示	講義
2.3	急性期における患者及び家族への看護を理解することができる 急性期にある患者・家族の理解と支援 (緊急入院となった患者の看護と家族への対応) (状況を設定し看護師の動きを考え、実施するまたそれに必要な知識を抽出することができる) 終了時次回の患者さんの状況についての課題の提示	演習 シミュレーション
4.5	回復・リハビリ期における患者及び家族への看護を理解することができる 回復期・リハビリ期にある患者・家族の理解と支援 (社会復帰する患者・家族への対応 多職種連携の実施) (状況を設定し看護師の動きを考え、実施するまたそれに必要な知識を抽出することができる) 終了時次回の患者さんの状況についての課題の提示	演習 シミュレーション
6.7	慢性期における患者及び家族への看護を理解することができる 慢性期にある患者・家族の理解と支援 (セルフケアを行いながら社会生活を送る患者・家族への対応 多職種との連携) (状況を設定し看護師の動きを考え、実施するまたそれに必要な知識を考えることができる) 終了時次回の患者さんの状況についての課題の提示	演習 シミュレーション
8	前半のまとめ	講義／演習
9	2. 看護業務の理解 (受け持ち患者の全体像を踏まえどのように判断・行動するか) ①優先順位の判断 ②突発的、予期せぬ事態への対応と看護 ③多重課題と看護 ④計画的な業務遂行	講義
10	事前課題テスト 実施後振り返り	講義
11・ 12	複数患者を受け持つ患者の看護(状況を設定し看護を実践する) 優先順位を決定し実施した(する)ことをアセスメントしながら報告する (SBARを使う)	シミュレーション
13・ 14	複数患者を受け持つ患者の看護(状況を設定し看護を実践する) 優先順位を決定し実施した(する)ことをアセスメントしながら報告する(SBAR)	シミュレーション
15	シミュレーション(デブリーフィング)／ 学習のまとめ	
備考 シミュレーション学習を中心として患者の状況、その背景を総合的に理解して看護を実践することを学ぶ		
受講上の注意 1～7は患者への切れ目ない臨床看護の実際を学ぶ演習中心の内容です。臨床を意識して取り組みましょう 9～14 は臨床へはばたく実習につなぐ演習中心の内容です。実習で使う記録用紙を用いてアセスメント・計画・実施・評価を行います。シミュレーション・デブリーフィングを行うことで自己の能力を査定し、自己の課題を見出しましょう		
評価方法 1 から 10 事前課題テスト 演習への取り組み 2～7回目の演習終了後のリフレクションの内容 記録の内容 30% 10～15 紙上患者のアセスメント・看護計画の内容と取り組み 70%		
使用テキスト 講義の内容によって各自で判断し持参する		
参考文献		

科目名	臨床へつなぐ実習Ⅱ
単位数	1 単位(45 時間)
実習目的	的確に看護の業務を遂行することの意義やそのために必要な能力について理解し、専門職業人としての自覚と責任を養うことができる
ねがい	多岐にわたる看護業務を的確に遂行するには、これまでに学んだ知識・技術を基盤とし、看護チームにおけるフォローシップの発揮やアサーティブなコミュニケーション力、発信力が必要である。 本実習は、「臨床へつなぐ実習Ⅰ」「臨床へつなぐ実習Ⅱ」を連続していくことで、チームの中での看護師の業務の理解を深め、看護師が倫理観を持ってあらゆることをマネジメントしながら、患者ケアを行っていることを学んでほしい。また実習での体験や学びから自己の課題を明確にし、看護師を生業とすることの自覚と責任をもって卒後のキャリアへ繋いでほしいと願う。
実習目標	1) 看護チームの一員としての役割とフォローシップの必要性について理解し、的確に看護業務を遂行する必要性がわかる 2) チームの中で多岐にわたる看護師役割を理解し、業務を遂行するために必要な能力について考えることができる 3) 倫理観をもって対象に関心を寄せ、看護師がどのように判断して看護援助が行っているか考えることができる 4) 実習をとおして目指す看護師像を見出すことができる
対象	健康障害のある成人・老年期患者
実習場所	病院
実習方法	1) 看護業務を遂行する看護師のシャドウイング 2) 診療の補助業務の実際の見学 3) チームの中で業務遂行に必要な調整力を理解するための看護師のシャドウイングを行う
評価規準	1) 多岐にわたる看護業務を的確に遂行するために必要な知識・技能 ① 看護チームが適切に機能を発揮するために看護チームの一員としての役割とフォローシップの必要性について考えている ② チームの一員であることを自覚して、チームの運営を考えた発言やコミュニケーションがとれる ③ 対象に関心を寄せ、行われている看護について学習し、対象に合わせて援助の目的・方法・留意点・観察する内容を表現している 2) 多岐にわたる看護業務を的確に遂行するために必要な思考・判断・表現 ① チームの中で看護業務を遂行するために必要なコミュニケーション力、発信力の必要性を理解しタイムリーに連絡・報告・相談する内容を表現している ② 対象の状態、状況をつねにアセスメントしながら、対象に起こっている問題とその解決をその場で表現している ③ 行われている看護から、これまでの自分の看護に向かう姿勢を振り返り、目指す看護師像を見出している 3) 多岐にわたる看護業務を的確に遂行するために必要な主体的に学習に向かう態度 ① これまでの実習での経験をふまえ、チームメンバーとしての自己の課題を明確に示し、その課題解決に向けて計画的に準備を行い実習に臨んでいる ② 医療チームの一員の看護学生としての責任と役割を果たそうと行動し、主体的に学習している
備考	事前に 15 時間学内にて看護業務に必要な技術に関して練習と振り返る 自己の看護観(レポート)提出

臨床へつなぐ実習Ⅱ ルーブリック評価表

実習目標	学習活動	評価の観点	評価資料	具体的な評価規準	評価基準			
					10点	8点	6点	4点
1. 看護チームの一員としての役割とフォローシップの必要性について理解し、的確に看護業務を遂行する必要性がわかる	これまでの実習を振り返り自己の課題を明確にする	主体的に取り組む態度	場面観察 自己学習ノート 実習計画用紙 実習日誌	これまでの実習での経験をふまえ、チームメンバーとしての自己の課題を具体的に示している	これまでの実習での経験をふまえ、チームメンバーとしての自己の課題を具体的に示している	これまでの実習での経験をふまえ、チームメンバーとしての自己の課題を示しているが不足がある	これまでの実習での経験をふまえ、チームメンバーとしての自己の課題を示しているが不足がある	これまでの実習での経験をふまえ、チームメンバーとしての自己の課題を明らかにできない
	看護業務見学・実施に臨めるよう学習を行う		自己学習ノート 実習記録	看護チームが適切に機能を発揮するために看護チームの一員としての役割とフォローシップの必要性について考えている	看護チームで行われる看護業務を理解している	看護チームで行われる看護業務を理解している	看護チームで行われる看護業務をおおむね理解している	看護チームで行われる看護業務をほぼ理解している
	行われている看護業務を理解する リーダー役割やメンバーの役割の遂行について考える 業務の中でのメンバー間の調整内容や時間配分を理解する		知識技能	看護チームが適切に機能を発揮するために看護チームの一員としての役割とフォローシップの必要性について考えている	看護チームで行われる看護業務を理解している	看護チームで行われる看護業務を理解している	看護チームで行われる看護業務をおおむね理解している	看護チームで行われる看護業務をほぼ理解している
2. 医療チームの中で多岐にわたる看護職の役割を理解し、業務を遂行するために必要な能力について考えることができる	患者の状況をふまえ、チーム全体の動きを考えながら、コミュニケーションをはかり、必要時発信できる	知識技能	実習計画 場面観察 実習日誌 カンファレンス	チームの一員であることを自覚して、チームの運営を考えた発言やコミュニケーションがとれる	チームの動きを考えたコミュニケーションをとることやその内容を理解することができる	チームの動きを考えたコミュニケーションをとることやその内容を理解することができる	チームの動きを考えたコミュニケーションをとることやその内容を理解することができる	チームの動きを考えたコミュニケーションをとることやその内容を理解することができる
	チームの中で行われているコミュニケーションの内容を理解し、チームの中で行われている連絡・報告・相談のタイミングやその内容を理解する		場面観察 実習計画用紙 カンファレンス 対話	チームの中で看護業務を遂行するために必要なコミュニケーション力、発信力の必要性を理解しタイムリーに連絡・報告・相談する内容を表現している	チームの中で看護業務を遂行するために必要なコミュニケーション力、発信力の必要性を自分の言葉で具体的に表現できる	チームの中で看護業務を遂行するために必要なコミュニケーション力、発信力の必要性を自分の言葉で具体的に表現できる	チームの中で看護業務を遂行するために必要なコミュニケーション力、発信力の必要性を自分の言葉で具体的に表現できる	チームの中で看護業務を遂行するために必要なコミュニケーション力、発信力の必要性を自分の言葉で具体的に表現できる
	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える		思考判断表現	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える
3. 倫理観をもって対象に関心を寄せ、看護師がどのように判断して看護援助が行っているかを考えることができる	行われている看護の目的・方法・留意点・観察を学習し表現する	知識技能	対話 カンファレンス 実習日誌 実習計画用紙 自己学習ノート	対象に関心を寄せ、行われている看護について学習し、対象に合わせて援助の目的・方法・留意点・観察の内容を自分の言葉で表現している	対象を促し、行われている看護について学習している	対象を促し、行われている看護について学習している	対象を促し、行われている看護について学習している	対象を促し、行われている看護について学習している
	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える		場面観察 対話 カンファレンス 実習日誌	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える
	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える		思考判断表現	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える	対象の状態・状況についてその場で考え、問題解決の方法を考える
4. 実習をとおして目指す看護師像を見出すことができる	実習で学んだ内容からこれまでの自分を振り返る 目指す看護師像を見出す	思考判断表現	リフレクション カンファレンス 実習のまとめ 面接	行われている看護から、これまでの自分の看護に向かう姿勢を振り返り具体的に表現できる	行われている看護から、これまでの自分の看護に向かう姿勢を振り返り具体的に表現できる	行われている看護から、これまでの自分の看護に向かう姿勢を振り返り具体的に表現できる	行われている看護から、これまでの自分の看護に向かう姿勢を振り返り具体的に表現できる	行われている看護から、これまでの自分の看護に向かう姿勢を振り返り具体的に表現できる
	看護チームの一員としての自己の役割を果たそうとしている		場面観察 カンファレンス 自己学習ノート 健康状況 健康意識状況	医療チームの一員の看護学生としての責任と役割を果たそうと行動し、主体的に学習している	実習に支障を来さないように健康管理している	実習に支障を来さないように健康管理している	実習に支障を来さないように健康管理している	実習に支障を来さないように健康管理している
	看護チームの一員としての自己の役割を果たそうとしている		主体的に取り組む態度	看護チームの一員としての自己の役割を果たそうと行動し、主体的に学習している	実習に支障を来さないように健康管理している	実習に支障を来さないように健康管理している	実習に支障を来さないように健康管理している	実習に支障を来さないように健康管理している

演習目標	学習活動	評価の観点	評価資料	具体的な評価規準	評価基準			
					10点	8点	6点	2点
1年生へ技術指導の実施をとおして多岐にわたる看護師の役割を理解する	1年生へ看護技術を正しく指導するために準備・実施・振り返りを行う	思考判断表現	場面観察 指導計画 実習日誌 1年生の反応	1年生へ看護技術を正しく指導するための準備・実施・振り返りを行い、看護業務の中での後進育成について考えている	1年生への技術指導の方法を行動レベルで具体的に立案している	1年生への技術指導の方法を行動レベルで立案している	1年生への技術指導の方法を行動レベルで立案しているが内容に不足がある	1年生への技術指導について指導方法を立案できないもしくはしていない

使用テキスト一覧（29期生）

冊子の表記のないテキストは電子版

授業科目	使用テキスト	発行所	購入時期
倫理学	プリント 系統看護学講座 別巻 看護倫理	医学書院	入学時
医療概論	系統看護学講座 医学概論 系統看護学講座 別巻 総合医療論	医学書院 医学書院	入学時 入学時
看護への招待	系統看護学講座 看護学概論 看護覚え書き 看護の基本となるもの 看護職の基本的責務	医学書院 現代社 日本看護協会出版 日本看護協会出版（冊子）	入学時 入学時 入学時 入学時
在宅療養者の健康と意思決定をささえる看護	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践	医学書院 医学書院	入学時 入学時
医療安全	系統看護学講座 医療安全	医学書院	入学時
生物学	系統看護学講座 生物学	医学書院	入学時
心理学	系統看護学講座 心理学	医学書院	入学時
発達心理学	系統看護学講座 心理学	医学書院	入学時
保健体育	プリント		
人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	系統看護学講座 解剖生理学	医学書院	入学時
形態機能学	系統看護学講座 解剖生理学	医学書院	入学時
人体と微生物	系統看護学講座 微生物学	医学書院	入学時
代謝と栄養	系統看護学講座 生化学 系統看護学講座 栄養学 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法	医学書院 医学書院 医学書院	入学時 入学時 入学時
おとなの暮らしと健康	系統看護学講座 成人看護学総論 国民衛生の動向	医学書院 厚生労働省統計協会	入学時 1年次
高齢者の暮らしと健康	系統看護学講座 老年看護学 高齢者の看護技術	医学書院 医歯薬出版	入学時 入学時
子どもの育みと家族をささえる看護	系統看護学講座 小児看護学概論 系統看護学講座 小児臨床看護総論	医学書院 医学書院	入学時 入学時
次世代の命をつなぐ人々の健康	系統看護学講座 母性看護学概論	医学書院	入学時
人の暮らしとこころの健康	系統看護学講座 精神看護の基礎 系統看護学講座 精神看護の展開 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉	医学書院 医学書院 医学書院	入学時 入学時 入学時
看護場面における英会話	クリスティーンのやさしい英会話	医学書院	3年次
教育学	系統看護学講座 教育学	医学書院	入学時
家族社会学	系統看護学講座 社会学	医学書院	入学時
情報科学Ⅰ	系統看護学講座 別巻 看護情報学	医学書院	入学時
暮らしと文化	系統看護学講座 文化人類学	医学書院	入学時
看護と法律	系統看護学講座 看護関係法令	医学書院	入学時
地域の特徴と人々の暮らし	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤	医学書院	入学時
病理総論	系統看護学講座 病理学	医学書院	入学時
薬理学/臨床薬理学	系統看護学講座 薬理学 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学	医学書院 医学書院	入学時 入学時
疾病と治療Ⅰ	系統看護学講座 別巻 臨床検査 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 系統看護学講座 成人看護学 内分泌・代謝 系統看護学講座 成人看護学 女性生殖器 系統看護学講座 病態生理学	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院	入学時 入学時 入学時 入学時 入学時
疾病と治療Ⅱ	系統看護学講座 成人看護学 呼吸器 系統看護学講座 成人看護学 循環器 系統看護学講座 病態生理学	医学書院 医学書院 医学書院	入学時 入学時 入学時
疾病と治療Ⅲ	系統看護学講座 成人看護学 腎・泌尿器 系統看護学講座 成人看護学 運動器 系統看護学講座 成人看護学 脳・神経 系統看護学講座 病態生理学	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院	入学時 入学時 入学時 入学時
疾病と治療Ⅳ	系統看護学講座 成人看護学 消化器 系統看護学講座 成人看護学 皮膚 系統看護学講座 成人看護学 眼 系統看護学講座 成人看護学 耳鼻咽喉 系統看護学講座 成人看護学 歯・口腔 系統看護学講座 成人看護学 血液・造血器 系統看護学講座 成人看護学 アレルギー・膠原病・感染症 系統看護学講座 病態生理学	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院	入学時 入学時 入学時 入学時 入学時 入学時 入学時 入学時

使用テキスト一覧 (29期生)

冊子の表記のないテキストは電子版

授業科目	使用テキスト	発行所	購入時期
健康と公衆衛生	系統看護学講座 公衆衛生	医学書院	入学時
リハビリテーション概論	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護	医学書院	入学時
疾病・障害を持つ高齢者の看護	系統看護学講座 老年看護学	医学書院	入学時
	系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論	医学書院	入学時
	高齢者の看護技術	医歯薬出版	入学時
保健指導論	標準保健師講座2 公衆衛生看護技術	医学書院	2年次
看護技術の基本	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ	医学書院	入学時
	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ	医学書院	入学時
	看護がみえるVol.1 基礎看護技術	メディックメディア (冊子)	入学時
フィジカルアセスメント	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ	医学書院	入学時
	看護がみえるVol.3 フィジカルアセスメント	メディックメディア (冊子)	入学時
生活をささえる看護技術Ⅰ	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ	医学書院	入学時
	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ	医学書院	入学時
	看護がみえるVol.1 基礎看護技術	メディックメディア (冊子)	入学時
	看護覚え書き	現代社	入学時
	看護の基本となるもの	日本看護協会出版	入学時
生活をささえる看護技術Ⅱ	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ	医学書院	入学時
	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護	医学書院	入学時
	系統看護学講座 運動器 成人看護学	医学書院	入学時
	看護がみえるVol.1 基礎看護技術	メディックメディア (冊子)	入学時
	看護の基本となるもの	日本看護協会出版	入学時
生活をささえる看護技術Ⅲ	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ	医学書院	入学時
	看護がみえるVol.1 基礎看護技術	メディックメディア (冊子)	入学時
	看護の基本となるもの	日本看護協会出版	入学時
生活をささえる看護技術Ⅳ	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ	医学書院	入学時
	系統看護学講座 臨床看護総論	医学書院	入学時
	看護がみえるVol.1 基礎看護技術	メディックメディア (冊子)	入学時
	看護がみえるVol.2 臨床看護技術	メディックメディア (冊子)	入学時
	看護過程に沿った対症看護	学研	入学時
経過別看護	系統看護学講座 臨床看護総論	医学書院	入学時
	看護過程に沿った対症看護	学研	入学時
看護を考える道のり	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ	医学書院	入学時
	NANDA-1看護診断 定義と分類2024-2026	医学書院	2年次
診断・治療をささえる看護	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ	医学書院	入学時
	系統看護学講座 臨床看護総論	医学書院	入学時
	看護がみえるVol.1 基礎看護技術	メディックメディア (冊子)	入学時
	看護がみえるVol.2 臨床看護技術	メディックメディア (冊子)	入学時
	看護がみえるVol.3 フィジカルアセスメント	メディックメディア (冊子)	入学時
	看護過程に沿った対症看護	学研	入学時
在宅療養者とその家族の暮らしと健康をささえる看護	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤	医学書院	入学時
	系統看護学講座 地域・在宅看護の実践	医学書院	入学時
	プチナース 地域・在宅看護実習 クイックノート	照林社	3年次
おとなの暮らしをささえる看護Ⅰ	系統看護学講座 臨床看護総論	医学書院	入学時
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	医学書院	入学時
	はじめてのドレーン管理	メディカ出版(冊子)	入学時
おとなの暮らしをささえる看護Ⅱ	系統看護学講座 成人看護学総論	医学書院	入学時
	系統看護学講座 成人看護学 呼吸器	医学書院	入学時
	系統看護学講座 成人看護学 循環器	医学書院	入学時
	はじめてのドレーン管理	メディカ出版(冊子)	入学時
おとなの暮らしをささえる看護Ⅲ	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護	医学書院	入学時
	系統看護学講座 成人看護学 運動器	医学書院	入学時
	系統看護学講座 成人看護学 脳・神経	医学書院	入学時
おとなの暮らしをささえる看護Ⅳ	系統看護学講座 成人看護学総論	医学書院	入学時
	系統看護学講座 成人看護学 内分泌・代謝代謝	医学書院	入学時
	系統看護学講座 成人看護学 腎・泌尿器	医学書院	入学時
がん看護	系統看護学講座 別巻 がん看護	医学書院	入学時
	系統看護学講座 別巻 緩和ケア	医学書院	入学時
高齢者の暮らしをささえる看護	系統看護学講座 老年看護学	医学書院	入学時
	高齢者の看護技術	医歯薬出版	入学時

使用テキスト一覧（29期生）

冊子の表記のないテキストは電子版

授業科目	使用テキスト	発行所	購入時期
子どもの生活と看護/子どもの病気と看護	系統看護学講座 小児看護学概論	医学書院	入学時
	系統看護学講座 小児臨床看護総論	医学書院	入学時
	写真でわかる小児看護技術アドバンス	インターメディカ	2年次
新しい命を育む看護Ⅰ	系統看護学講座 母性看護学各論	医学書院	入学時
	看護実践のための根拠がわかる母性看護技術	メジカルフレンド社	2年次
新しい命を育む看護Ⅱ	系統看護学講座 母性看護学概論	医学書院	入学時
	系統看護学講座 母性看護学各論	医学書院	入学時
	看護実践のための根拠がわかる母性看護技術	メジカルフレンド社	2年次
	カラー写真で学ぶ 新生児の観察と看護技術	医歯薬出版	2年次
こころの健康と看護Ⅰ・Ⅱ	系統看護学講座 精神看護の基礎	医学書院	入学時
	系統看護学講座 精神看護の展開	医学書院	入学時
	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉	医学書院	入学時
家族看護	系統看護学講座 別巻 家族看護学	医学書院	入学時
情報科学Ⅱ	系統看護学講座 別巻 看護情報学	医学書院	入学時
人間関係論	系統看護学講座 人間関係論	医学書院	入学時
社会福祉と社会保障	系統看護学講座 社会保険・社会福祉	医学書院	入学時
地域包括支援	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤	医学書院	入学時
	系統看護学講座 地域・在宅看護の実践	医学書院	入学時
地域の人々の暮らしと健康をささえるチーム作り	系統看護学講座 地域・在宅看護の実践	医学書院	入学時
看護マネジメント	系統看護学講座 看護管理	医学書院	入学時
	系統看護学講座 災害看護・国際看護	医学書院	入学時
災害と看護	系統看護学講座 災害看護・国際看護	医学書院	入学時
キャリア支援Ⅱ	プリント		
キャリア支援Ⅲ	プリント		
臨床判断の基礎	プリント		
キャリア支援Ⅰ	系統看護学講座 物理学	医学書院	入学時
	系統看護学講座 化学	医学書院	入学時
	基礎から学べる！文章力ステップ 文章検定3級対応	日本漢字能力検定協会	入学時
看護研究	系統看護学講座 別巻 看護研究	医学書院	入学時
地域で療養する人々の健康をささえる実習	プチナース 地域・在宅看護実習 クイックノート	照林社（冊子）	3年次

2025年度 1年次開講科目 評価計画

【人と倫理】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
倫理学	1	1 後	30		嵩原英喜	筆記試験	50	100	
医療概論	1	1 前	15	医療の発展	中川壮平	筆記試験	30	60	
			6	医療における倫理	森本誠一	筆記試験	20	40	100
看護への招待	1	1 前	30		坂口ゆかり	筆記試験/レポート	50	100	

【人と健康】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
生物学	1	1 前	15		小宮山恭弘	筆記試験	50	100	
心理学	1	1 前	30		垣内宏樹	筆記試験	50	100	
発達心理学	1	1 後	15		田中美帆	筆記試験	50	100	
保健体育	1	1 前後	14 30 16	体力と体育実技 レクリエーション	松下健二	小テスト・実技 演習	50 50	100	
人体の構造と機能Ⅰ	1	1 前	30		荒田敏昭	筆記試験	50	100	
人体の構造と機能Ⅱ	1	1 前	30		鈴木幸	筆記試験	50	100	
人体の構造と機能Ⅲ	1	1 前	30		鈴木幸	筆記試験	50	100	
人体の構造と機能Ⅳ	1	1 前	15		栗原みな子	筆記試験	50	100	
形態機能学	1	1 前後	15		鈴木幸	筆記試験・発表等	50	100	
人体と微生物	1	1 前	30		降井佐太郎	筆記試験	50	100	
代謝と栄養	2	1 前後	45		東村幸子	筆記試験	50	100	
おとなの暮らしと健康	1	1 後	20		川口友美	筆記試験・出席等	50	100	
高齢者の暮らしと健康	1	1 後	24 30 4	高齢者の暮らしと健康の特徴 高齢者の権利擁護 多職種連携 学習のまとめ	坂東暖子	筆記試験/レポート等	40	90	100
			2		天後貴代	筆記試験	10	10	
次世代の命をつなぐ人々の健康	2	1 後	30		瀧岡友美子	筆記試験/レポート等	50	100	
人の暮らしとこころの健康	1	1 後	16 30 12 2	精神看護の基本・こころのはたらき 精神看護の歴史 学習のまとめ	米良真奈美 森口公裕 米良/森口	筆記試験	30 20	60 40	100

【人と社会】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
教育学	1	1 後	30		森本誠一	筆記試験	50	100	
家族社会学	1	1 後	30		西澤真則	筆記試験/レポート等	50	100	
情報科学 I	1	1 前	15		松本寿一	実技課題作成		100	
地域の特徴と人々の暮らし	1	1 前後	10	西宮市の特徴 ボランティア	坂東暖子	レポート・出席他		100	
			10	西宮市で生活する人々の理解					

【疾病の回復と看護】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
病理総論	1	1 前	30		山田直子	筆記試験	50	100	
薬理学	1	1 後	15		平田久仁子	筆記試験	50	100	
疾病と治療 I	1	1 後	8 6 8 8	臨床検査 放射線治療・画像診断 内分泌・代謝異常 女性生殖系の疾患	大藪智奈美 山路滋 林 功 伊東裕子	筆記試験	15 15 15 15	25 25 25 25	* 試験は教科外
疾病と治療 II	1	1 後	14 14 2	呼吸器障害 循環障害 学習のまとめ	船内正憲 岡崎真央 船内/岡崎	筆記試験	25 25	50 50	100
疾病と治療 III	1	1 後	4 6 10 10	排泄機能障害(腎) 排泄機能障害(泌尿器) 運動機能障害 脳・神経障害	勝野朋幸 戴元秀典 瀧川直秀 山田佳孝	筆記試験	10 10 20 20	15 20 30 35	* 試験は教科外
疾病と治療 IV	1	1 後	10 2 2 2 2 8 4	消化吸収障害 感覚機能障害(皮膚) 感覚機能障害(視覚) 感覚機能障害(聴覚・鼻) 感覚機能障害(口腔) 血液・造血機能障害 アレルギー疾患	瀬戸良文 土岐真理子 岩橋洋志 山田耕作 岸本忠雄 藤盛好啓 羽田孝司	筆記試験	15 5 5 5 5 15 10	40 5 5 5 5 30 10	* 試験は教科外
リハビリテーション概論	1	1 後	15		笠井正	筆記試験	50	100	

【看護を考える】

◎単元が複数時の科目リーダー

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
看護技術の基本	1	1 前	2	看護技術の概念	武山宴子	筆記試験	5	5	1 技 B 5 術 M 分 試 験
			4	コミュニケーション技術	◎松山成子		5	15	
			4	観察・記録・情報管理	松山成子		5	15	
			8	学習支援	松山成子		15	30	
			10	感染予防の基礎	藤川礼美		20	35	
			2	学習のまとめ	武山/松山/藤川				
フィジカルアセスメント	1	1 前	30	フィジカルアセスメント	◎武山宴子	筆記試験	50 (15)	100	分 1 試 技 測 V 5 験 術 定 S
生活をささえる看護技術Ⅰ	1	1 前	16	環境調整技術	宮西由紀子	筆記試験	30 (15)	55	1 技 B 5 術 M 分 試 験
			12	食事・栄養をささえる技術	◎松山成子		20	45	
			2	学習のまとめ	松山/宮西				
			14	活動をささえる技術	鎌田洋子		25	50	
生活をささえる看護技術Ⅱ	1	1 前	14	休息をささえる技術	◎吉田智代美	筆記試験	25	50	
			2	学習のまとめ	吉田/鎌田				
			22	清潔	武山宴子		35	80	
			6	寝衣交換	芝優美子		15	20	
生活をささえる看護技術Ⅲ	1	1 前後	2	学習のまとめ	武山/芝	筆記試験/レポート等			
			12	排泄のメカニズム	宮西由紀子		20	40	
			16	排泄の援助	川畑佳奈		30	60	
			2	学習のまとめ	川畑/宮西				
生活をささえる看護技術Ⅳ	1	1 後	2	経過別看護とは	◎芝優美子	筆記試験	5	10	
			8	急性期の看護	林敬貴		15	30	
			6	慢性期の看護	芝優美子		50	100	
			8	回復期の看護	芝優美子		30	60	
			4	終末期の看護	芝優美子				
			2	学習のまとめ	芝/林				
			2	経過別看護とは	◎芝優美子		5	10	
			8	急性期の看護	林敬貴		15	30	
経過別看護	1	1 後	6	慢性期の看護	芝優美子	筆記試験/ レポート等	50	100	
			8	回復期の看護	芝優美子		30	60	
			4	終末期の看護	芝優美子				
			2	学習のまとめ	芝/林				

2025年度 1年次開講科目 評価計画

【看護の探求と自己の成長】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
キャリア支援Ⅰ	1	1 前	2	受講ガイダンス	◎古川公子				
			30	理系知識	梅木諭	筆記試験	50	50	
			16	論理的な文章作成	高原英喜	筆記試験/レポート等	50	50	

【看護と連携】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
人間関係論	1	1 後	30		大谷美穂	筆記試験/レポート等	50	100	

2025年度

2年次開講科目 評価計画

【人と倫理】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
在宅療養者の健康と意思決定をささえる看護	1	2	後	慢性期・終末期の支援	本名直子	レポート・出席状況		100	
		2	後	終末期の支援	中嶋久子				

【人と健康】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
子どもの育みと家族をささえる看護	2	2	前	小児看護概論	池田知香	筆記試験	50	100	
				子どもの生活の実際	増田真里				
				学習のまとめ	池田知香				

【人と社会】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
暮らしと文化	1	2	前	文化・人類	荒木真歩	筆記試験	50	100	

【疾病の回復と看護】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
臨床薬理	1	2	前	疾患・症状における薬物	平田久仁子	筆記試験	50	100	
				老年看護の役割・機能 日常生活	坂東暖子		10		
				高齢者に多い疾患	福井恭子		20		
				認知症	山根栄美		10		
				経過別・治療処置看護	◎渡壁美紀	筆記試験	10		
				摂食・嚥下(ゲストティーチャー)	濱部典子				
				皮膚(ゲストティーチャー)	森知佐子				
疾病・障害を持つ高齢者の看護	1	2	前	学習のまとめ	渡壁/坂東			25	
健康と公衆衛生	1	2	後	公衆衛生学	木元貴洋	筆記試験	50	100	

【看護を考える】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
看護を考える道のり	1	2 前	30	看護過程の展開	川畑佳奈	筆記試験	50	100	
診断・治療をささえる看護	2	2 前	45	与薬 化学療法 ME 輸血	◎熊谷真美	筆記試験	30	60	100
			10	検査	増田真里		10	20	
			6	手術療法(術前 術中)	長崎領		5	10	
			4	手術療法(術後)	吉田智代美		5	10	
			1	学習のまとめ	熊谷/増田/吉田/長崎				
おとなの暮らしをささえる看護Ⅱ (急性期)	1	2 前	30	総論	芝優美子	筆記試験	15	30	100
			8	呼吸障害 気胸の事例展開	◎熊谷真美		15	30	
			6	循環障害	川本令子		10	20	
			6	心筋梗塞	熊谷真美		10	20	
			2	学習のまとめ	熊谷/芝				
おとなの暮らしをささえる看護Ⅲ (リハビリ期)	1	2 前	30	セルフケアの確立 脳卒中	南好江	筆記試験	30	60	100
			10	脊髄損傷	坂東暖子		20	40	
			2	学習のまとめ	坂東/南				
おとなの暮らしをささえる看護Ⅳ (慢性期)	1	2 前	30	糖尿病	◎川口友美	筆記試験	30	60	100
			8	腎不全	川口友美		20	40	
			2	透析療法を受ける患者の理解(ゲストティーチャー)	泰井タ子				
			2	学習のまとめ	川口友美				
子どもの生活と看護	1	2 前	30	健康障害にある子どもと家族への看護	藤川礼美	筆記試験	15	30	100
			18	子どもの生活に応じた看護	◎増田真里		35	70	
			2	多職種への援助(ゲストティーチャー)	三浦由紀子				
			2	学習のまとめ	増田/藤川				
新しい命を育む看護Ⅰ	1	2 前	30	妊娠・分娩期の看護	瀧岡友美子	筆記試験	50	100	
			4	妊娠・分娩期の看護(演習)	藤川礼美				
			2	学習のまとめ	瀧岡友美子				
こころの健康と看護Ⅰ	2	2 前	30	主な疾患	吉原育男	筆記試験	20	45	100
			16	主要症状と看護	大塚恒子		30	55	
			2	学習のまとめ	吉原/大塚				

2025年度

2年次開講科目 評価計画

【看護を考える】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
保健指導論	1	2	前後 30	保健指導の基礎と健康教育の知識・技術 学習のまとめ	奥野久美子 奥野久美子	筆記試験	50	100	
在宅療養者とその家族の暮らしと健康をさ さえる看護	2	2	前後 45	在宅療養の基本(エイジレス)	宮西由紀子		5	5	
				在宅療養の基本	◎鎌田洋子		5	5	
				在宅における看護技術の実際	中島淳美		20	20	100
				援助技術	本名直子	筆記試験 ・レポート	50	30	
				事例展開 看護過程	鎌田洋子		15	30	
				地域における防災	鎌田洋子		5	10	
家族看護				学習のまとめ	鎌田/宮西/本名				
	1	2	前後 30	家族看護の対象と特徴	野崎恵子		20	40	
				家族看護の展開	扇園孝次				
				家族看護の展開	野崎恵子	筆記試験	50	60	100
				家族看護の展開	藤川礼美		30		
				家族看護の展開	宮尾祐次				
おとなの暮らしをささえる看護Ⅰ (周手術期)				学習のまとめ	野崎/扇園				
	1	2	後 30	手術を受ける人の看護	古田智代美	筆記試験	50	100	
				総論	◎熊谷真美		20	40	
				大腸がん	岸田智子		10	20	100
	1	2	後 30	緩和ケア	熊谷真美	筆記試験	50		
				緩和ケア	藤原志寿子		20	40	
高齢者の暮らしをささえる看護				学習のまとめ	熊谷/岸田				
				看護過程の展開	渡壁美紀	筆記試験	50	100	
	2	2	後 30	レク 音楽療法(ゲストティーチャー)	岡田敦子				
				学習のまとめ	渡壁美紀				
				経過別看護	池田知香				
	1	2	後 30	健康障害のある小児と家族への看護	増田真里	筆記試験	15	30	100
新しい命を育む看護Ⅱ こころの健康と看護Ⅱ				学習のまとめ	増田/池田		35	70	
				産褥期・新生児の看護	藤川礼美	筆記試験	50	100	
	1	2	後 30	主要疾患、主要状態の看護	松山成子	筆記試験	50	100	
	1	2	後 30						

2025年度 2年次開講科目 評価計画

【看護と連携】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
社会福祉と社会保障	1	2 前	30	社会福祉と社会保障の理念と内容	森合 真一	筆記試験	50	100	
情報科学Ⅱ	1	2 後	30		松本 寿一	実技課題作成		100	
地域の人々の暮らしと健康をささえる チーム作り	1	2 後	15		古川 公子	レポート		100	

【看護とリフレクション】

授業科目名	単位数	開講年次 時期	時間数	単元・内容	担当講師	評価方法	予定試験時間 (分)	配点	備考
キャリア支援Ⅱ	1	2 前	15	ステップアップ実習のリフレクション	武山 宴子	課題発表等		100	
キャリア支援Ⅲ	1	2 後	15	専門領域実習のリフレクション	古川 公子	課題発表等		100	
臨床判断の基礎	1	2 後	15	臨床判断とは、臨床判断の実施	古川 公子	筆記試験・レポート	50	100	

【人と健康】

授業科目名	単位数	開講年次時期	時間数	単元・内容	担当講師	試験方法	予定試験時間 (分)		配点	備考
医療安全	1	3 前後	30	医療安全とヒューマンエラー 安全予防策	◎渡壁美紀	筆記試験	35	70	100	
				医療におけるリスクマネジメント	芝優美子		15	50		
				感染防止(ゲストティーチャー)	山本美雪			30		
				学習のまとめ	渡壁/芝					

【人と社会】

授業科目名	単位数	開講年次時期	時間数	単元・内容	担当講師	試験方法	予定試験時間 (分)		配点	備考
看護場面における英会話	1	3 前	30		Roy Tuang	中間試験(筆記) パフォーマンステスト			50	100
看護と法律	1	3 前後	30		森合真一	筆記試験	50		100	

【看護と連携】

授業科目名	単位数	開講年次時期	時間数	単元・内容	担当講師	試験方法	予定試験時間 (分)		配点	備考
地域包括支援	1	3 前	30		本名直子	筆記試験	50		100	
看護マネジメント	1	3 後	20	看護管理	大塚恒子	筆記試験	30	70	100	
				国際看護	北村広美		20	50		
				学習のまとめ	大塚/北村			30		
災害と看護	1	3 後	20	災害看護の実際	山田裕基	筆記試験	30	55		
				地域における防災・減災	芝優美子		20	45		
				学習のまとめ	山田/芝					

【看護の探究と自己の成長】

授業科目名	単位数	開講年次時期	時間数	単元・内容	担当講師	試験方法	予定試験時間 (分)		配点	備考
看護研究	1	3 前後	30	看護研究とは	坂口ゆかり	レポート/研究計画書		50	100	
臨床看護実践演習	1	3 前後	30	ケーススタディ	坂口ゆかり	ケースステディ		50	100	
				経過別臨床看護	吉田智代美	レポート/演習取り組み		30		
				看護業務の理解	古川公子	レポート/演習取り組み		70		